

# National Hospital Organization FUKUYAMA MEDICAL CENTER

病院案内  
2026



独立行政法人 国立病院機構

福山医療センター

National Hospital Organization FUKUYAMA MEDICAL CENTER



# CONTENTS

---

1. 院長挨拶	1
2. 運営方針・病院目標・当院の特長	2
3. 施設概要	7
4. 沿革	16
5. 学会指導医・専門医・認定医等取得一覧	17
6. 診療科	20
7. コメディカル	40
8. 部門	45
9. 看護部	56
10. 教育研修部	68
11. 患者支援センター	70
12. 研究業績集	80



## 地域に根差した医療の提供に向けて

福山医療センター 院長

稲垣 優

Masaru Inagaki

当院は医療体制を維持、推進していくため、病院目標として(1)質の高い医療の維持と提供(2)通常医療の持続可能性担保(3)周産期医療を含めた急性期医療体制の強化(4)働き方改革にむけた体制の推進を引き続き掲げていきます。

手術支援ロボットdaVinci Xiを2023年に導入し、昨年8月には300例に達し、順調に症例を重ねています。泌尿器科領域から始まり、消化器外科領域(大腸、肝臓、膵臓)に運用を拡げ、稼働率も140%を超えています。昨年末には呼吸器外科領域のロボット支援手術にも着手し、引き続き地域の医療水準を高めて参ります。また、昨年ハリアックの更新を行い、さらに精度の高い放射線治療を行えるべく整備し、地域がん診療連携拠点病院としてがん治療に係る技術の向上と地域のがん診療連携を強化し、質の高い先進的かつ高度な医療を提供していく体制を整えています。昨年は電子カルテの更新も行い、最新のシステムを導入し、時代の流れに乗り遅れないよう、IT化を進めて参ります。今後も当院の持つ様々な機能を維持していくことが肝要で、持続可能性の担保への努力を継続して参ります。

看護師特定行為研修機関として特定行為看護師の育成に努め、業務のタスクシフティング、タスクシェアを推進し、その一環として医師の負担軽減に繋げて参ります。今年度は外部医療機関を含め6名の入構者を迎え、現在、育成中です。また、新たに3項目の特定行為を追加し、地域の医療機関の充実に向けて貢献して参ります。

通常医療の中でも地域の救急医療を担うことが重要な使命の一つで、当院は現在、地域の成人救急医療体制下で空床確保病院として、救急搬送患者の搬送困難事例の発生を防ぎ、地域の最前線で救急医療体制を死守していくことが肝要と認識しております。また、この地域唯一の地域周産期母子医療センターとしての役割を担っており、少子化が叫ばれる中で当院の周産期医療の需要は高く、機能をさらに強化し、通常分娩、緊急分娩、新生児医療を充実させて参ります。

2024年度診療報酬改定以降、経営状況は厳しさを増していますが、高市政権が誕生し、急性期病院の苦境が注視され、焦点が当たるようになり、補正予算での補助、2026年度診療報酬改定に向けた動きが活発となり、一縷の光が見えて参りました。経営面での改善を図るとともに引き続き、地域の基幹病院としての役割を果たし、地域の医療を守るため、職員一丸となり鋭意努力いく所存ですので、皆さまのご支援、ご協力の程、よろしくごお願い申し上げます。

## 運営方針

### (1) 皆で目指すSTARS

- Safety: 安全に留意し
- Tolerance: 寛容な心で
- Academic: アカデミックマインドを持ち
- Responsibility: 自らの仕事に責任を持って
- Sustainability: 持続可能な医療の提供を目指す  
プロフェッショナルな個々人が輝くstars(星々)となる。

### (2) 『Collaborate on our projects, unite mind, and create tough team』

課題に協力して取り組み、心をつにし、強靱な組織を作り上げていくことが信条です。

## 病院目標

- (1) 質の高い医療の維持と提供
- (2) 通常医療の持続可能性担保
- (3) 周産期医療を含めた急性期医療体制の強化
- (4) 働き方改革にむけた体制の推進

## 当院の特長

### 地域の医療に貢献

地域の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供や、地域の救急医療を支えるための成人救急空床確保病院、地域周産期母子医療センターとして地域医療に貢献しています。保有する医療機器の共同利用、特定行為研修指定医療機関としての人材育成を含め地域医療機関で働く医療従事者の資質向上のため、地域の医療機関を支援する能力を備えた病院として機能しています。

### 病院としての主な機能

- 地域医療支援病院
- 国指定地域がん診療連携拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 第二次救急医療指定(空床確保)病院
- エイズ治療中核拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 特定行為研修指定研修機関
- 日本医療機能評価機構認定病院
- JIH (Japan International Hospitals) 推奨病院
- ISO15189認定試験(全領域)
- がんゲノム医療連携病院
- 外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) 認証病院
- 日本集中治療医学会専門医研修施設

## 患者さんの権利

1. 人間としての尊厳が守られ、安全に配慮した最善の医療を受ける権利があります。
2. どのような病気の場合でも公正な医療を受ける権利があります。
3. 分かりやすい言葉で十分な説明を受け、自分の意志で医療の内容や医療機関を選ぶ権利があります。また、他の医療機関の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利と自分の情報を求める権利があります。

## 患者さんの責任

1. 患者さんは上記の権利を守っていくために、医療従事者と協議して医療に参加していく責任があります。
2. また、他の患者さんの治療や快適な療養生活に支障を与えないよう定められた規則を守る責任があります。

### センター化による医療資源の集約と部門の設置による病院機能の充実と最適化

15のセンターを設置し、スタッフの結束や診療機能の充実を図っています。また、17の部を設置し、各部門の運営や病院機能の充実を図っています。

がんゲノム医療センターは、2021年4月に当院ががんゲノム医療連携病院に認定され、遺伝子解析に基づいた治療が可能となり、昨年度より専門医外来を開始し、また、遺伝カウンセリング外来も始まりがんゲノム医療を推進しています。

患者入院支援・周術期管理センターでは2017年より稼働した当院独自の入院予定患者支援システムPASPORTを中心に活動をさらに充実させ、当院で治療を受ける患者様のスムーズな入院退院を支援します。

国際支援部ではJapan International Hospitals (JIH)の推奨病院認定に続き、2021年9月には中国・四国地方では岡山大学病院、津山中央病院に次いで3番目となる外国人患者受入れ医療機関認証制度 (Japan Medical Services Accreditation for International Patients: JMIP) 認証病院に認定され、昨年度に更新、引き続き、外国人対応を充実させています。

ワークライフバランス部ではコロナ禍で休止していた病児保育の再開を含め、子育て支援を行い、職員の勤務環境改善に取り組み、働き方改革の一助として様々な勤務形態に対応した体制を整えていきます。

### 働き方改革に向けた取り組み

2021年2月に厚生労働省より看護師の特定行為研修指定研修機関に認定されました。国立病院機構の中では44の指定研修機関があり、広島県内では広島大学病院、国立病院機構呉医療センター、国立病院機構広島西医療センターについて4番目の認定となり、広島県東部地区では領域別パッケージ研修を受けることができる唯一の指定研修機関となります。当院は術中麻酔管理領域の特定行為研修より取り組み、2021年4月より入構を開始し、動脈血ガス分析、栄養に係るカテーテル管理(PICC挿入、CV抜去)の項目も追加となり、修了者を育成しております。今年度は血糖コントロールに係る薬剤投与関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連(持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整)、術後疼痛管理関連を追加したし、6名の入構者を迎え、地域の働き方改革に貢献するとともに今後も継続、さらにプログラムを充実し、看護師のスキルアップ、キャリアアップへと繋げ、さらには働き方改革の一助となればと考えております。

# 部・センター・科・課・室・医局

## 【部】

**総括診療部**  
総括診療部長 寺石 文則

**臨床研究部**  
臨床研究部長 大塚 眞哉  
副部長 内海 方嗣

**がん診療部**  
がん診療部長 三好 和也

**広報部**  
広報部長 大塚 眞哉  
副部長 市樂 美千代

**国際支援部**  
国際支援部長 藤田 勲生  
副部長 岡本 隆志

**治験管理部**  
治験管理部長 内海 方嗣

**教育・研修部**  
教育・研修部長 豊川 達也  
副部長 藤原 倫昌  
副部長 妹尾 賢  
副部長 内海 方嗣

**感染制御部**  
感染制御部長 齊藤 誠司  
副部長 片山 智之  
副部長 福井 洋介

**医師業務支援部**  
医師業務支援部長 常光 洋輔  
部長補佐 平 和宏  
副部長 藤田 勲生  
副部長 森岡 頼彦

**ワークライフバランス部**  
ワークライフバランス部長 岩瀬 瑞恵  
副部長 住井 遼平

**薬剤部**  
薬剤部長 濱岡 照隆  
副薬剤部長 中野 良

**看護部**  
看護部長 金子 眞由美  
副看護部長 仲田 雅江  
副看護部長 市樂 美千代

**事務部**  
事務部長 平 和宏

**救急医療部**  
救急医療部長 徳永 尚之

**医療安全管理部**  
医療安全管理部長 大塚 眞哉  
医療安全管理係長 高田 薫

**緩和ケア部**  
緩和ケア部長 高橋 健司

**集中治療部**  
集中治療部長 友塚 直人

## 【センター】

**小児医療センター**  
センター長 荒木 徹

●**新生児センター**  
センター長 岩瀬 瑞恵  
副センター長 猪谷 元浩

**内視鏡センター**  
センター長 豊川 達也  
副センター長 常光 洋輔

**脊椎・人工関節センター**  
センター長 甲斐 信生  
副センター長 宮本 正  
副センター長 宮澤 慎一

**頭頸部腫瘍センター**  
センター長 中谷 宏章  
副センター長 三河内 明

**画像センター**  
センター長 岸 亮太郎  
副センター長 中川 富夫

**心臓リハビリテーションセンター**  
センター長 廣田 稔  
副センター長 上田 亜樹

**低侵襲治療センター**  
センター長 寺石 文則  
副センター長 長谷川 泰久

**エイズ治療センター**  
センター長 齊藤 誠司

**外来化学療法センター**  
センター長 岡田 俊明  
副センター長 宮宗 秀明

**医療連携支援センター**  
センター長 常光 洋輔

**口腔相談支援センター**  
センター長 豊川 達也  
副センター長 藤原 千尋

**患者入院支援・周術期管理センター**  
センター長 友塚 直人

**患者支援センター**  
センター長 豊川 達也

**がんゲノム医療センター**  
センター長 三好 和也  
副センター長 高橋 健司  
副センター長 宮宗 秀明

## 【科】

**放射線診断科**  
技師長 小林 正直  
副技師長 小野 剛史

**臨床検査科**  
技師長 森川 祥史  
副技師長 平岡 健吾

## 【課】

**企画課**  
企画課長 岡本 隆志

**管理課**  
管理課長 森岡 頼彦

**地域医療連携課**  
地域医療連携係長 宮原 典子  
医療福祉係長 木梨 貴博

## 【室】

**栄養管理室**  
栄養管理室長 藤原 朝子

**経営企画室**  
経営企画室長 藤川 直也

**歯科衛生士室**  
主任歯科衛生士 藤原 千尋

**ME管理室**  
主任臨床工学技士 西原 博政

**診療情報管理室**  
診療情報管理係長 峯松 佑典

**地域医療連携室**  
地域医療連携室長 常光 洋輔

**成育医療研究室**  
成育医療研究室長 荒木 徹

**がん治療研究室**  
がん治療研究室長 内海 方嗣

**がん診療・病事情報研究室**  
がん診療・病事情報研究室長 岡田 俊明

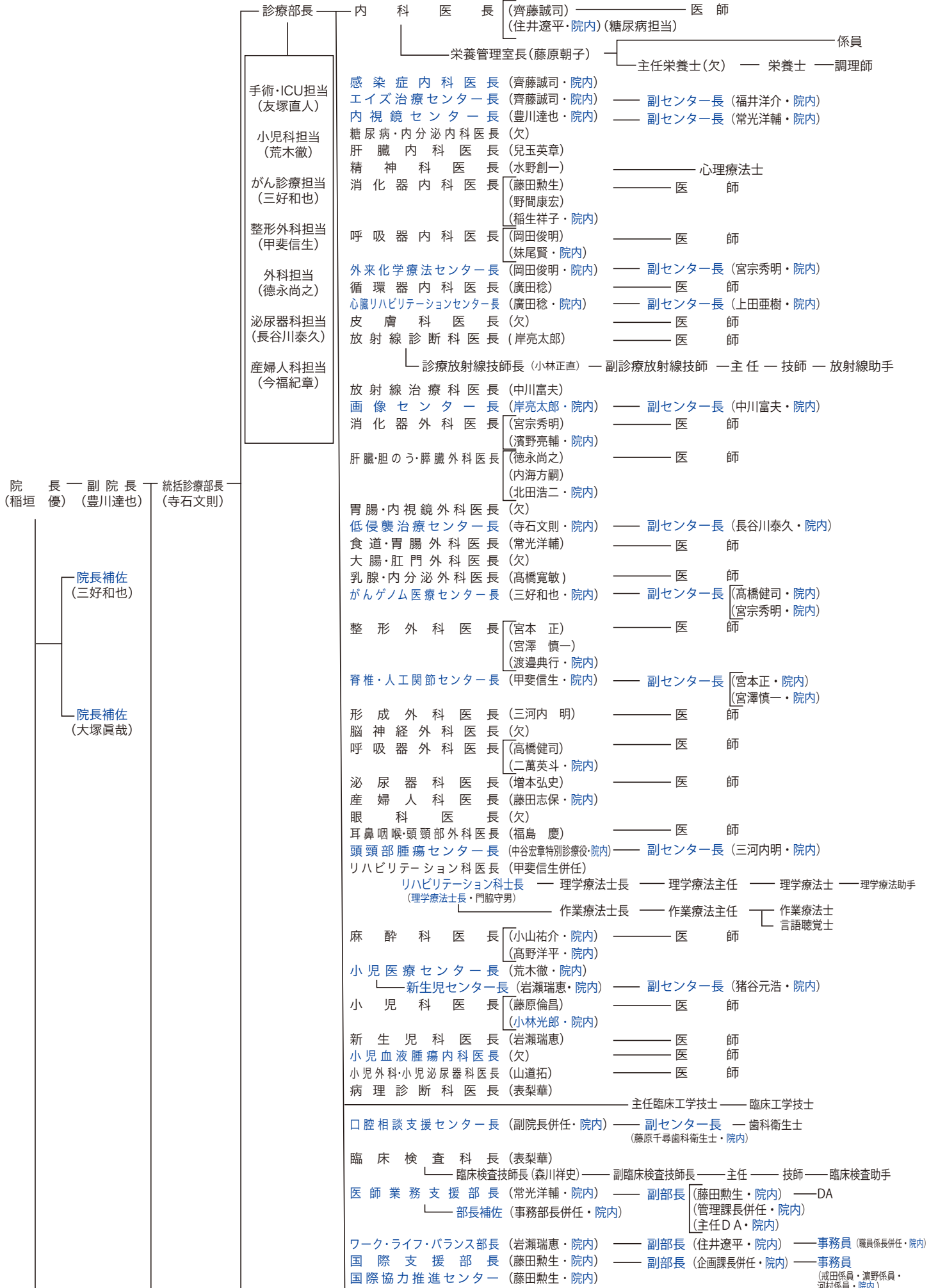
**がん相談支援室**  
がん相談支援室長 藤田 勲生

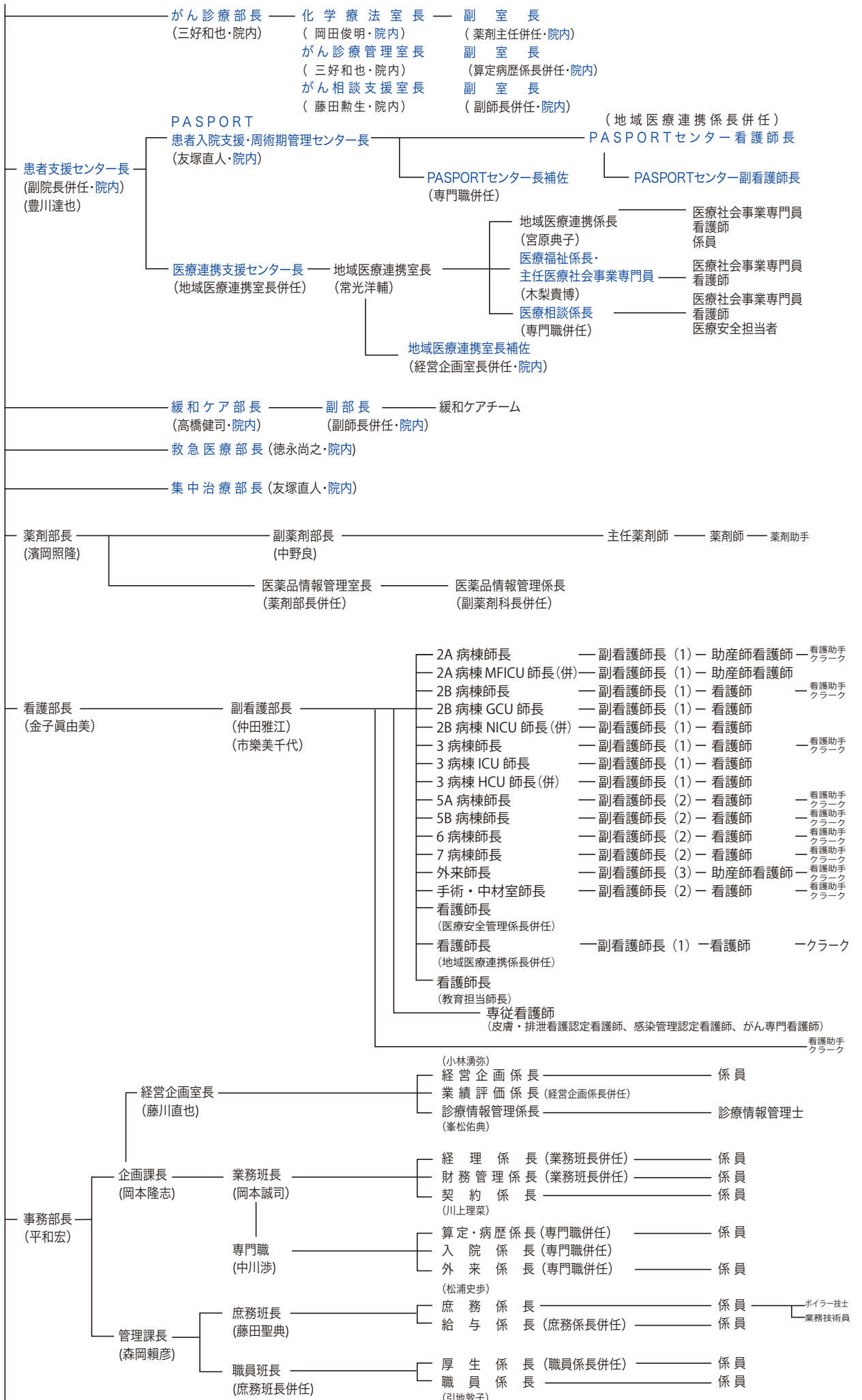
## 【医局】

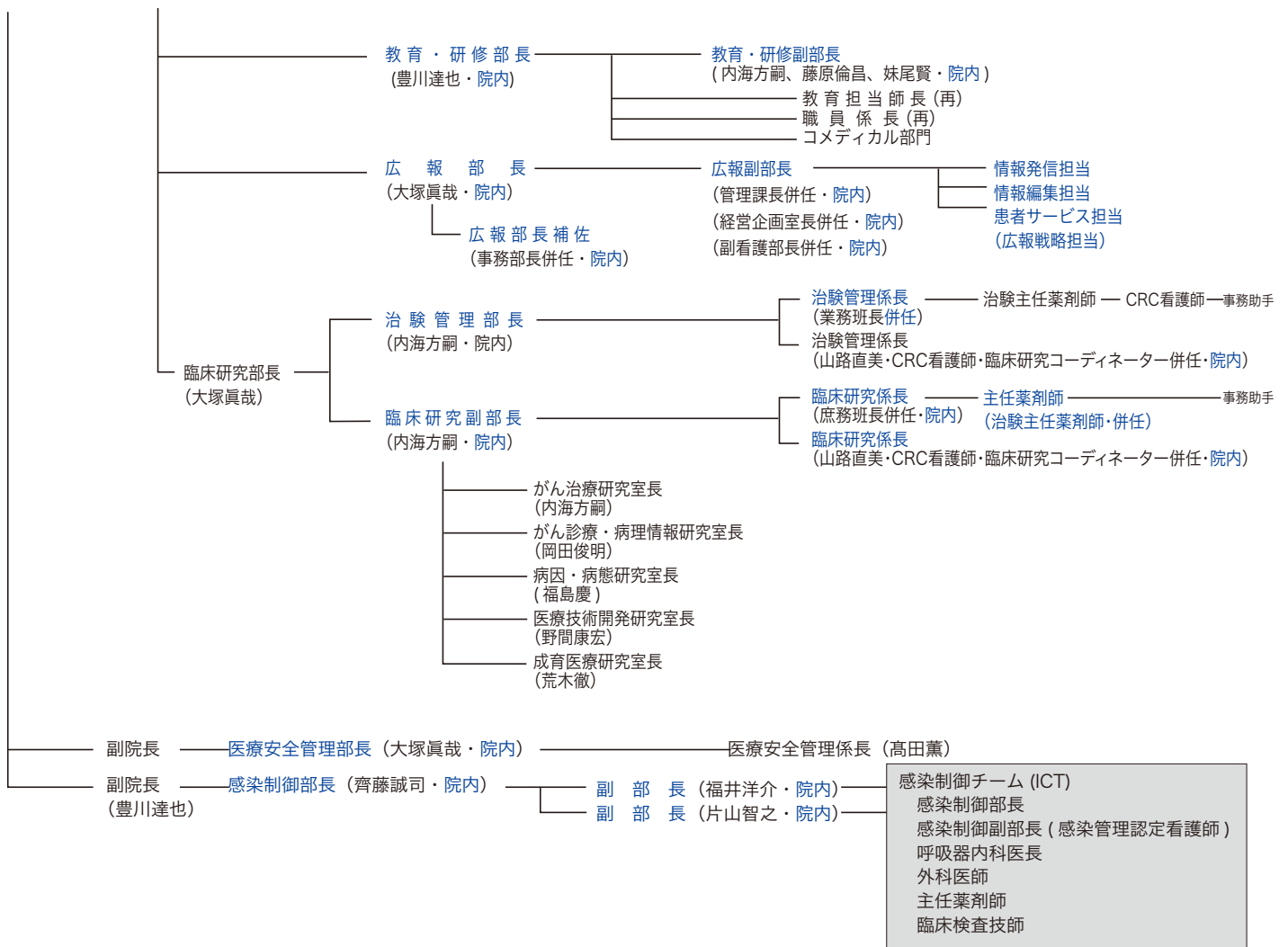
医局長 二萬 英斗

# 福山医療センター組織図 (令和8年4月1日現在)

凡例 青字:院内発令部門







# 概要

## 施設等認定の状況

病 院 名	独立行政法人 国立病院機構 福山医療センター	看護職員処遇改善評価料69	令和 7年 7月 1日
所 在 地	〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14番17号	医療DX推進体制整備加算	令和 6年 6月 1日
電 話 番 号	電話番号 084-922-0001(代表)	外来・在宅ベースアップ評価料	令和 6年 6月 1日
F A X 番 号	FAX番号 084-931-3969(代表)	入院ベースアップ評価料72	令和 8年 4月 1日
病 院 管 理 者	院長 稲垣 優	ウイルス疾患指導料	平成29年 7月 1日
病 床 数	350床(一般317床、ICU4床、HCU5床、NICU12床、GCU12床)	喘息治療管理料	平成21年 8月 1日
標 榜 診 療 科	内科、糖尿病・内分泌内科、肝臓内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、新生児科、外科、消化管外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、肛門外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、血管外科、小児外科、小児泌尿器科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科(全31科)	糖尿病合併症管理料	令和 4年 2月 1日
診 療 実 績	利用者数(令和7年度実績) 外来患者数(1日平均) 639.8名 入院患者数(1日平均)275.1名 新規入院患者数(1日平均)25.8名 平均在院日数(年間) 10.7日 手術件数(年間) 3,472件 分娩件数(年間) 411件 救急患者数(年間)3,639名(うち救急搬送2,092名)	がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年 4月 1日
施 設 基 準	一般病棟入院基本料急性期一般入院基本料1	がん患者指導管理料イ	平成22年 4月 1日
	総合入院体制加算2	がん患者指導管理料ロ	平成26年 4月 1日
	地域医療支援病院入院診療加算	がん患者指導管理料ハ	令和 元年 8月 1日
	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	がん患者指導管理料ニ	令和 2年 4月 1日
	救急医療管理加算	外来緩和ケア管理料	平成30年 5月 1日
	妊産婦緊急搬送入院加算	糖尿病透析予防指導管理料	平成24年 7月 1日
	診療録管理体制加算2	小児運動器疾患指導管理料	令和 2年 4月 1日
	医師事務作業補助体制加算1(15対1補助体制加算)	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	令和 3年11月1日
	急性期看護補助体制加算(25対1)	二次性骨折予防継続管理料1	令和 4年 8月 1日
	夜間(100対1)急性期看護補助体制加算	二次性骨折予防継続管理料3	令和 4年 8月 1日
	看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)	院内トリアージ実施料	平成26年 6月 1日
	夜間看護体制加算	夜間休日救急搬送医学管理料	平成30年 4月 1日
	看護補助体制充実加算2	救急搬送看護体制加算1	令和 2年 4月 1日
	療養環境加算	外来リハビリテーション診療料	平成26年 4月 1日
	重症者等療養環境特別加算	外来放射線照射診療料	平成24年 4月 1日
	緩和ケア診療加算	外来腫瘍化学療法診療料1	令和 6年10月 1日
	個別栄養食事管理加算	がん薬物療法体制充実加算	令和 6年 6月 1日
	がん拠点病院加算(がん診療連携拠点病院)	連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	令和 4年 8月 1日
	栄養サポートチーム加算	ニコチン依存症管理料	平成29年 7月 1日
	医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)	開放型病院共同指導料(I)	平成27年 4月 1日
	感染対策向上加算1	ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	平成24年 6月 1日
	患者サポート体制充実加算	がん治療連携計画策定料	令和 5年 4月 1日
	重症患者初期支援充実加算	肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年 4月 1日
	報告書管理体制加算	薬剤管理指導料	平成22年 4月 1日
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	医療機器安全管理料1	平成20年 4月 1日
	ハイリスク妊娠管理加算	医療機器安全管理料2	平成20年 4月 1日
	ハイリスク分娩管理加算	婦人科特定疾患治療管理料	令和 6年11月 1日
	呼吸ケアチーム加算	診療情報提供料(I)(地域連携診療計画加算)	令和 元年11月 1日
	後発医薬品使用体制加算1	持続血糖測定器加算	平成26年 4月 1日
	病棟薬剤業務実施加算1	遺伝学的検査	平成30年 7月 1日
	データ提出加算2	BRCA1/2遺伝子検査	令和 4年 4月 1日
	入退院支援加算1	がんゲノムプロファイリング検査	令和 4年 4月 1日
	地域連携診療計画加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	平成26年 4月 1日
	入院時支援加算	検体検査管理加算(I)(IV)	令和 2年 4月 1日
	総合機能評価加算	国際標準検査管理加算	令和 2年 3月 1日
	認知症ケア加算1	遺伝カウンセリング加算	令和 4年 9月 1日
	せん妄ハイリスク患者ケア加算	遺伝性腫瘍カウンセリング加算	令和 4年10月 1日
	精神疾患診療体制加算1	植込型心電図検査	平成22年 4月 1日
	精神疾患診療体制加算2	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成26年 4月 1日
	地域医療体制確保加算	胎児心エコー法	平成22年 4月 1日
	特定集中治療室管理料5	皮下連続式グルコース測定(一連につき)	平成26年 1月 1日
	新生児集中治療室管理料2	小児食物アレルギー負荷検査	平成18年 4月 1日
	新生児回復室入院医療管理料	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	令和 4年 5月 1日
	小児入院医療管理料2	センチネルリンパ節生検(片側)	平成22年 4月 1日
		画像診断管理加算2	令和 6年10月 1日
		ポジトロン断層撮影	令和 2年 4月 1日
		ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	令和 2年 4月 1日
		ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 (アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)	令和 8年 1月 1日
		CT撮影(64列以上のマルチスライス型の機器)	令和 2年 4月 1日
		CT撮影(4列以上16列未満のマルチスライス型の機器)	令和 2年 4月 1日
		冠動脈CT撮影加算	平成23年 2月 1日
		大腸CT撮影加算	平成24年 4月 1日
		MRI撮影(3テスラ以上)	令和 2年 4月 1日
		MRI撮影(1.5テスラ以上)	令和 2年 4月 1日
		心臓MRI撮影加算	平成27年12月 1日
		乳房MRI撮影加算	平成28年 4月 1日
		小児鎮静下MRI撮影加算	平成30年 4月 1日

# 施設等認定の状況

施設基準				
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年 4月 1日	膀胱水圧拡張術及びハノナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）	平成22年 4月 1日	
外来化学療法加算	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成25年 9月 1日	
無菌製剤処理料	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）	令和 6年 6月 1日	
心大血管疾患リハビリテーション料(I)（早期加算）（初期加算）	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	平成26年 4月 1日	
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)（早期加算）（初期加算）	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）	令和 5年 12月 1日	
廃用症候群リハビリテーション料(I)（早期加算）（初期加算）	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下小仙骨固定術	令和 3年 8月 1日	
運動器リハビリテーション料(I)（早期加算）（初期加算）	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下小仙骨固定術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）	令和 6年 7月 1日	
呼吸器リハビリテーション料(I)（早期加算）（初期加算）	平成28年 4月 1日	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	平成24年 9月 1日	
廃用症候群リハビリテーション料(I)（早期加算）（初期加算）	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下直腸切除・切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和 6年 9月 1日	
摂食嚥下機能回復体制加算2	令和 4年 10月 1日	腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和 6年 10月 1日	
がん患者リハビリテーション料	平成29年 7月 1日	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和 6年 11月 1日	
エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	平成26年 4月 1日	腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和 6年 11月 1日	
エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	平成26年 4月 1日	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	令和 7年 5月 1日	
一酸化窒素吸入療法	平成22年 4月 1日	周術期栄養管理実施加算	令和 4年 11月 1日	
ストーマ合併症加算	令和 6年 7月 1日	輸血管理料(I)（輸血適正使用加算1）	平成24年 6月 1日	
センチネルリンパ節加算	平成26年 9月 1日	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年 4月 1日	
組織拡張期による再建手術（乳房の場合）	平成26年 4月 1日	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成24年 4月 1日	
椎間板内酵素注入療法	令和 2年 11月 1日	医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術	平成27年 4月 1日	
乳がんセンチネルリンパ節加算	平成24年 11月 1日	麻酔管理料(I)	令和 6年 7月 1日	
前立腺針生検法	令和 4年 5月 1日	麻酔管理料(II)	令和 2年 4月 1日	
乳頭乳輪温存乳房切除術	平成30年 6月 1日	放射線治療専任加算	平成25年 9月 1日	
緊急整備固定加算	令和 8年 4月 1日	外来放射線治療加算	平成25年 9月 1日	
緊急挿入加算	令和 8年 4月 1日	高エネルギー放射線治療	平成14年 7月 1日	
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	平成26年 4月 1日	1回線量増加加算	平成30年 4月 1日	
経皮的冠動脈形成術	平成26年 4月 1日	強度変調放射線治療(IMRT)	平成27年 1月 1日	
経皮的冠動脈ステント留置術	平成26年 4月 1日	画像誘導放射線治療(IGRT)	平成30年 10月 1日	
ペースメーカー移植術／交換術（電池交換を含む）	平成18年 4月 1日	体外照射呼吸性移動対策加算	平成25年 10月 1日	
植込型心電図記録計移植術／交換術	平成22年 4月 1日	定位放射線治療	平成25年 10月 1日	
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	平成18年 4月 1日	定位放射線治療呼吸性移動対策加算	平成27年 1月 1日	
腹腔鏡下胆嚢悪性手術	令和 4年 7月 1日	画像誘導密封小線源治療加算	平成28年 6月 1日	
胃瘻造設術（内視鏡下瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	平成27年 4月 1日	保険医療機関間の連携による病理診断	平成26年 6月 1日	
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	令和 3年 8月 1日	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	令和 3年 10月 1日	
胆管悪性腫瘍手術	平成30年 2月 1日	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	平成26年 6月 1日	
体外衝撃波胆石破砕術	平成27年 12月 1日	術中迅速病理組織標本作製料	平成26年 6月 1日	
腹腔鏡下肝切除術	平成28年 4月 1日	術中迅速細胞診	平成26年 6月 1日	
体外衝撃波膀胱石破砕術	平成27年 12月 1日	病理診断管理加算1	令和 3年 5月 1日	
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	令和 2年 4月 1日	悪性腫瘍病理組織標本加算	令和 3年 12月 1日	
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	平成24年 4月 1日	マルチプレックス遺伝子パネル検査	令和 4年 3月 1日	
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年 4月 1日	入院時食事療養費(I)	平成 2年 8月 1日	
内視鏡的ポリープ切除術	令和 5年 12月 1日	食堂加算	平成 9年 6月 1日	
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	平成27年 12月 1日			

## 認定施設

認定学会名等	区分	認定年月日	認定学会名等	区分	認定年月日
日本整形外科学会	認定医研修施設	昭和59年 4月	日本臨床細胞学会	認定施設	平成15年 4月
日本泌尿器科学会	専門医教育施設	昭和61年 4月	日本消化器外科学会	専門医修練施設	平成16年 1月
日本消化器病学会	認定施設	昭和63年 10月	日本周産期・新生児医学会	専門医暫定研修施設	平成16年 4月
日本循環器学会	専門医研修施設	平成 2年 4月	日本栄養治療学会	NST稼働施設	平成17年 11月
日本医学放射線学会	医学放射線学会専門医修練機関	平成 4年 4月	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診施設	平成18年 5月
日本消化器内視鏡学会	指導施設	平成 5年 12月	日本呼吸器学会	認定施設	平成18年 12月
日本麻酔学会	麻酔科認定病院	平成 7年 7月	日本大腸肛門病学会	認定施設	平成19年 10月
日本形成外科学会	認定医研修施設	平成 9年 4月	日本がん治療認定医機構	認定研修施設	平成19年 11月
日本乳癌学会	認定施設	平成10年 11月	日本肝胆膵外科学会	高度技術医修練施設	平成20年 6月
日本肝臓学会	認定施設	平成11年 4月	日本臨床腫瘍学会	認定研修施設	平成21年 4月
日本病理学会	登録施設	平成13年 4月	日本感染症学会	認定研修施設	平成21年 3月
日本内科学会	教育関連施設	平成13年 9月	日本小児外科学会	教育関連施設	平成22年 12月
日本放射線腫瘍学会	認定施設	平成13年 11月	JCOG乳がんグループ	参加施設	平成23年 4月
日本核医学会	専門医教育病院	平成14年 1月	日本栄養療法推進協議会	NST稼働施設	平成25年 3月
日本小児科学会	小児科専門医研修施設	平成14年 4月	日本小児外科学会	専門医育成認定施設	平成25年 4月
日本産科婦人科学会	連携施設	平成14年 11月	呼吸器外科専門医合同委員会	専門医研修連携施設	平成26年 4月
日本外科学会	専門医制度修練施設	平成15年 1月	National Clinical Database	NSD施設	平成27年 12月
日本形成外科学会	教育関連施設	平成15年 4月	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	ストーマ認定施設	平成28年 7月

## 認定施設

認定学会名等	区分	認定年月日	認定学会名等	区分	認定年月日
JCOG胃がんグループ	参加施設	平成29年 6月	日本アレルギー学会	専門医教育研修施設	令和 5年 4月
日本女性医学学会	認定研修施設	平成29年 9月	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構	協力施設	令和 5年 4月
日本小児外科学会	認定施設	平成30年 1月	日本炎症性腸疾患学会	IBD指導施設	令和 6年 4月
日本糖尿病学会	教育関連施設	平成30年 10月	日本医学放射線学会(JRS)	画像診断管理認証施設(MRI安全管理に関する事項)	令和 6年 4月
日本緩和医療学会	認定研修施設	平成31年 4月	出生前検査認証制度等運営委員会	NIPTを実施する医療機関(連携施設として)	令和 6年10月
日本適合性認定協会	臨床検査室認定	令和 2年 1月	日本胃癌学会	認定施設 B	令和 7年 4月
特定行為研修	指定研修機関	令和 3年 2月	日本消化器外科学会	学会連携(腹腔鏡下肝切除術)	令和 7年 4月
日本医療教育財団	外国人患者受入れ医療機関認証機関	令和 3年 10月	日本核医学会	PET 撮像施設認証 (I)	令和 7年 9月
日本集中治療医学会	専門医研修施設	令和 3年 10月	日本東洋医学会	指定研修施設	令和 8年 2月
日本呼吸器内視鏡学会	認定施設	令和 5年 1月			

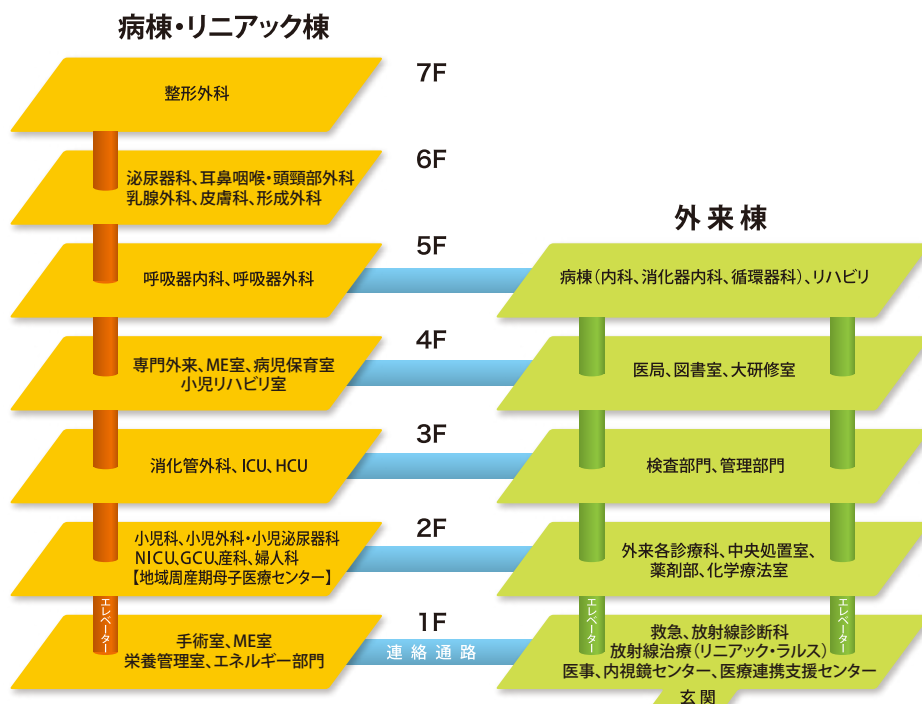
## 指定医療機関

保険医療機関(健康保険・国民健康保険)、母子保健法指定医療機関(養育医療)、障害者総合支援法(更生医療・育成医療・精神通院)指定医療機関、戦傷病者特別援護法指定医療機関、原子爆弾被爆者指定医療機関(一般疾病・健康診断)、生活保護法指定医療機関、労災保険法指定医療機関、特定疾患指定医療機関、難病患者指定医療機関、小児慢性特定疾病指定医療機関、精神保健法指定医療機関、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第37条の2指定医療機関、国指定地域がん診療連携拠点病院、広島県難病診療分野別拠点病院(骨・関節、消化器分野)

## 保育施設

院内保育園(杉の子保育園)

## 各フロア



# 病棟



1階



2階



# 外来・リニアック棟

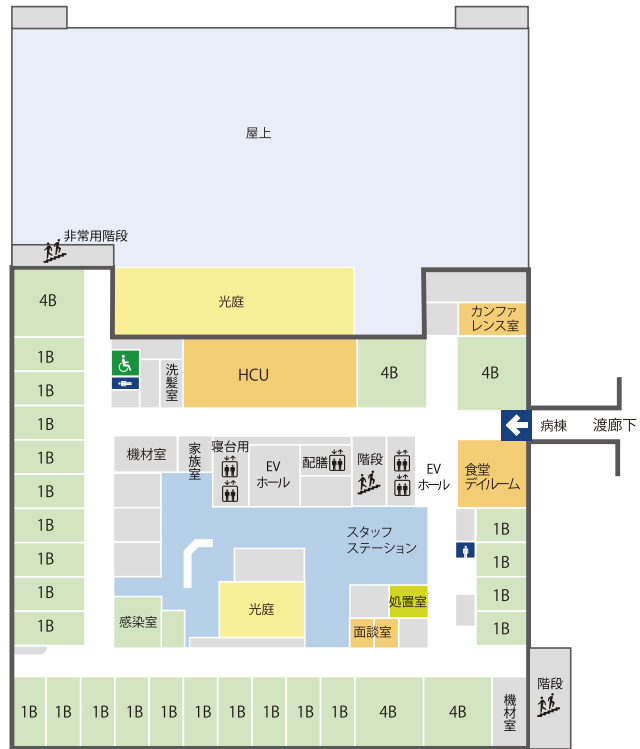


1階



2階

# 病棟

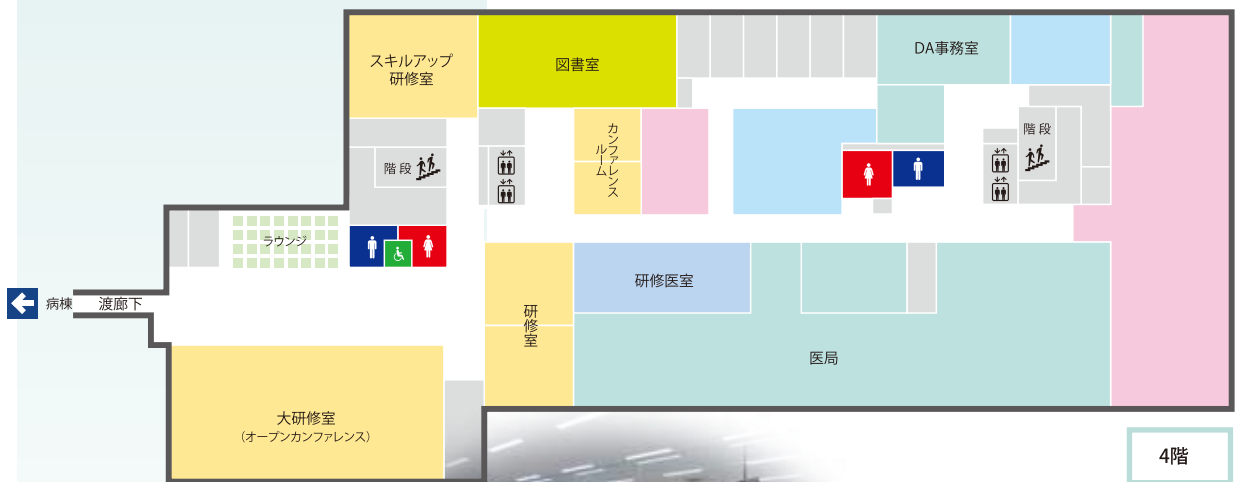


3階



4階

# 外来棟



# 病棟



5階



6階



7階



# 外来棟



5階



# 沿革

明治41年 4月 1日	福山衛戍病院として創立
昭和12年 4月 1日	福山陸軍病院と改称
昭和20年 12月 1日	厚生省へ移管、国立福山病院となる(病床数230床)
昭和28年 4月 15日	併設伝染病院発足、定床35床
昭和41年 7月 4日	現在地に新築移転、定床350床(一般249床・結核51床・伝病50床)
昭和47年 6月 16日	定床460床(一般410床・伝病50床)(北病棟=2ヶ病棟増設)
昭和48年 4月 1日	附属高等看護学院開設(S50.4=附属看護学校と改称)
昭和49年 4月 15日	事務部設置(庶務課・会計課の2課制、総看護婦長は看護部長、栄養班は栄養管理室となる)
昭和53年 2月 7日	輪番制病院群第2次救急医療病院に指定
昭和55年 11月 25日	へき地中核医療開始
昭和56年 2月 6日	臨床研修病院に指定
昭和58年 9月 1日	母子医療センター開設
昭和60年 4月 6日	事務部3課制(庶務課・会計課・医事課)となる
平成 6年 8月 26日	エイズ治療拠点病院に指定
平成 8年 7月 1日	ICU(4床)開設
平成11年 3月 30日	地域周産期母子医療センターに認定
平成11年 9月 1日	第2種感染症医療機関に指定《第2類感染症》H11.9.1~H16.3.31(10床)
平成12年 9月 1日	外来全科予約制開始
平成13年 3月 26日	基本構想が明確化される。「がん」「成育医療」「骨・運動器疾患」の専門医療
平成14年 12月 1日	NICU(3床)開設
平成15年 8月 31日	へき地中核医療指定取消
平成16年 4月 1日	独立行政法人国立病院機構へ移行、NHO福山医療センターとなる 第2種感染症医療機関《第2類感染症10床》を取消
平成17年 7月 19日	開放病床開設(5床)
平成18年 8月 31日	地域医療支援病院承認
平成19年 5月 1日	NICU(3床→6床)増床
平成19年 5月 7日	外来化学療法室開設
平成20年 2月 1日	緩和ケア病床開設
平成20年 3月 31日	附属看護学校閉校
平成20年 9月 9日	病棟等更新築整備工事承認
平成21年 3月 19日	病棟等建替整備準備工事着工
平成21年 4月 1日	DPC対象病院となる
平成22年 5月 1日	NICU(6床→9床)増床
平成22年 5月 1日	7対1入院基本料算定開始
平成22年 11月 16日	広島県指定がん診療連携拠点病院
平成23年 5月 1日	GCU(12床)開設
平成23年 9月 23日	新病棟等完成・稼働開始
平成25年 4月 1日	NICU(9床→12床)増床
平成25年 9月 21日	外来管理棟等建替整備準備工事着工
平成26年 4月 1日	耳鼻咽喉・頭頸部外科開設
平成27年 7月 1日	各診療科をセンター化
平成27年 11月 24日	外来管理棟建替整備工事(I期工事)完成・稼働開始
平成28年 1月 5日	PET-CT導入・共同利用開始
平成28年 3月 18日	職員宿舎(RC地上5階建3,331.64㎡)完成・入居開始
平成29年 7月 3日	外来管理棟建替整備工事(II期工事)完成・稼働開始
平成29年 10月 6日	JIH認証
平成29年 12月 31日	外来管理診療棟工事完了
平成30年 9月 25日	エイズ治療中核拠点病院に選定
平成31年 4月 1日	HCU開設(5床)
平成31年 4月 1日	定床350床
令和 元年 10月 1日	MFICU6床開設(稼働3床)
令和 2年 1月 24日	ISO15189取得(全範囲)
令和 2年 3月 1日	MFICU6床稼働
令和 2年 3月 27日	地域がん診療連携拠点病院(国指定)認定
令和 2年 6月 5日	公益財団法人 日本医療機能評価機構「病院機能評価」認定取得
令和 3年 2月 4日	ジャパンインターナショナル ホスピタルズ(JIH)推奨
令和 3年 2月 22日	特定行為研修指定研修機関指定
令和 3年 4月 20日	がんゲノム医療連携病院(岡山大学病院)
令和 3年 9月 21日	外国人患者受入れ医療機関認証制度 JMIP (Japan Medical Services Accreditation for International Patient)認定
令和 5年 4月 1日	広島県難病診療分野別拠点病院(消化器・骨・関節)指定
令和 5年 8月 1日	紹介受診重点医療機関指定



# 福山医療センター：学会指導医・専門医・認定医等取得一覧

R8.4.1

ICD制度協議会	認定医	北田 浩二	日本形成外科学会	専門医	井上 温子
ICD制度協議会	認定医	小山 祐介	日本形成外科学会	専門医	三河内 明
ICD制度協議会	認定医	齊藤 誠司	日本形成外科学会	指導医	三河内 明
ICD制度協議会	認定医	坂田 達朗	日本形成外科学会	指導医	三河内 明
ICD制度協議会	認定医	友塚 直人	日本外科学会	指導医	稲垣 優
ICD制度協議会	認定医	藤原 倫昌	日本外科学会	指導医	大塚 眞哉
ICD制度協議会	認定医	山道 拓	日本外科学会	指導医	北田 浩二
日本アレルギー学会	専門医	小林 光郎	日本外科学会	指導医	常光 洋輔
日本アレルギー学会	指導医	藤原 倫昌	日本外科学会	指導医	寺石 文則
日本アレルギー学会	専門医	福島 慶	日本外科学会	指導医	徳永 尚之
日本アレルギー学会	専門医	藤原 倫昌	日本外科学会	指導医	濱野 亮輔
日本医学放射線学会	専門医	兼安 祐子	日本外科学会	指導医	宮宗 秀明
日本医学放射線学会	専門医	道家 哲哉	日本外科学会	指導医	三好 和也
日本医学放射線学会	専門医	中川 富夫	日本外科学会	指導医	山道 拓
日本医師会	認定産業医	大塚 眞哉	日本外科学会	専門医	稲垣 優
日本医師会	認定産業医	兼安 祐子	日本外科学会	専門医	内海 方嗣
日本医師会	認定産業医	坂田 達朗	日本外科学会	専門医	大塚 眞哉
日本医師会	認定産業医	中川 富夫	日本外科学会	専門医	北田 浩二
日本医師会	認定産業医	福井 洋介	日本外科学会	専門医	高橋 健司
日本医師会	健康スポーツ医	坂田 達朗	日本外科学会	専門医	高橋 寛敏
日本移植学会	認定医	稲垣 優	日本外科学会	専門医	常光 洋輔
日本移植学会	認定医	山道 拓	日本外科学会	専門医	寺石 文則
日本遺伝性腫瘍学会	専門医	宮宗 秀明	日本外科学会	専門医	徳永 尚之
日本エイズ学会	指導医	齊藤 誠司	日本外科学会	専門医	二萬 英斗
日本エイズ学会	指導医	坂田 達朗	日本外科学会	専門医	濱野 亮輔
日本栄養治療学会	認定医	山道 拓	日本外科学会	専門医	宮宗 秀明
日本炎症性腸疾患学会	認定医	豊川 達也	日本外科学会	専門医	三好 和也
日本炎症性腸疾患学会	指導医	豊川 達也	日本外科学会	専門医	山道 拓
日本核医学会	専門医	岸 亮太郎	日本外科学会	認定医	稲垣 優
日本核医学会	専門医	中川 富夫	日本血栓止血学会	認定医	齊藤 誠司
日本感染症学会	指導医	齊藤 誠司	日本呼吸器学会	指導医	岡田 俊明
日本感染症学会	専門医	齊藤 誠司	日本呼吸器学会	専門医	岡田 俊明
日本肝臓学会	指導医	兒玉 英章	日本呼吸器学会	専門医	妹尾 賢
日本肝臓学会	指導医	坂田 達朗	日本呼吸器学会	専門医	松浦 宏昌
日本肝臓学会	専門医	兒玉 英章	日本呼吸器外科学会	専門医	高橋 健司
日本肝臓学会	専門医	坂田 達朗	日本呼吸器外科学会	専門医	二萬 英斗
日本肝臓学会	専門医	住井 遼平	日本呼吸器外科学会	胸腔鏡安全技術認定医	高橋 健司
日本肝胆膵外科学会	高度技能指導医	稲垣 優	日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医	大森 洋樹
日本肝胆膵外科学会	高度技能専門医	内海 方嗣	日本産科婦人科学会	指導医	今福 紀章
日本肝胆膵外科学会	高度技能専門医	北田 浩二	日本産科婦人科学会	指導医	藤田 志保
日本肝胆膵外科学会	高度技能専門医	徳永 尚之	日本産科婦人科学会	指導医	山本 暖
日本がん治療認定医機構	認定医	内海 方嗣	日本産科婦人科学会	専門医	今福 紀章
日本がん治療認定医機構	認定医	大塚 眞哉	日本産科婦人科学会	専門医	藤田 志保
日本がん治療認定医機構	認定医	岡田 俊明	日本産科婦人科学会	専門医	山本 暖
日本がん治療認定医機構	認定医	常光 洋輔	日本耳鼻咽喉科学会	指導医	中谷 宏章
日本がん治療認定医機構	認定医	寺石 文則	日本耳鼻咽喉科学会	指導医	福島 慶
日本がん治療認定医機構	認定医	豊川 達也	日本耳鼻咽喉科学会	専門医	竹内 薫
日本がん治療認定医機構	認定医	中川 富夫	日本耳鼻咽喉科学会	専門医	中谷 宏章
日本がん治療認定医機構	認定医	二萬 英斗	日本耳鼻咽喉科学会	専門医	福島 慶
日本がん治療認定医機構	認定医	長谷川 泰久	日本周産期・新生児医学会	暫定指導医	山本 暖
日本がん治療認定医機構	認定医	濱野 亮輔	日本周産期・新生児医学会	代表指導医	岩瀬 瑞恵
日本がん治療認定医機構	認定医	増本 弘史	日本周産期・新生児医学会	認定外科医	山道 拓
日本がん治療認定医機構	認定医	山道 拓	日本周産期・新生児医学会	専門医	猪谷 元浩
日本緩和医療学会	緩和医療認定医	高橋 健司	日本周産期・新生児医学会	専門医	岩瀬 瑞恵
日本気管食道科学会	専門医	中谷 宏章	日本周産期・新生児医学会	専門医	藤田 志保
			日本周産期・新生児医学会	専門医	山道 奈都子

# 福山医療センター：学会指導医・専門医・認定医等取得一覧

R8.4.1

日本集中治療医学会	専門医	友塚 直人	日本小児外科学会	指導医	山道 拓
日本循環器学会	専門医	上田 亜樹	日本小児外科学会	専門医	宇賀 菜緒子
日本循環器学会	専門医	廣田 稔	日本小児外科学会	専門医	山道 拓
日本消化器外科学会	指導医	稲垣 優	日本小児血液がん学会	認定外科医	山道 拓
日本消化器外科学会	指導医	内海 方嗣	日本小児循環器学会	専門医	荒木 徹
日本消化器外科学会	指導医	大塚 眞哉	日本女性医学学会	暫定指導医	山本 暖
日本消化器外科学会	指導医	北田 浩二	日本人工関節学会	認定医	宮澤 慎一
日本消化器外科学会	指導医	常光 洋輔	日本睡眠学会	認定医	水野 創一
日本消化器外科学会	指導医	寺石 文則	日本整形外科学会	専門医	甲斐 信生
日本消化器外科学会	指導医	徳永 尚之	日本整形外科学会	専門医	日野 知仁
日本消化器外科学会	指導医	濱野 亮輔	日本整形外科学会	専門医	松下 具敬
日本消化器外科学会	指導医	宮宗 秀明	日本整形外科学会	専門医	宮澤 慎一
日本消化器外科学会	専門医	稲垣 優	日本整形外科学会	専門医	宮本 正
日本消化器外科学会	専門医	宇賀 菜緒子	日本整形外科学会	専門医	渡邊 典行
日本消化器外科学会	専門医	内海 方嗣	日本脊椎椎髄病学会	指導医	甲斐 信生
日本消化器外科学会	専門医	大塚 眞哉	日本創傷外科学会	専門医	三河内 明
日本消化器外科学会	専門医	北田 浩二	日本大腸肛門病学会	指導医	大塚 眞哉
日本消化器外科学会	専門医	常光 洋輔	日本大腸肛門病学会	指導医	寺石 文則
日本消化器外科学会	専門医	寺石 文則	日本大腸肛門病学会	指導医	宮宗 秀明
日本消化器外科学会	専門医	徳永 尚之	日本大腸肛門病学会	専門医	大塚 眞哉
日本消化器外科学会	専門医	濱野 亮輔	日本大腸肛門病学会	専門医	寺石 文則
日本消化器外科学会	専門医	宮宗 秀明	日本大腸肛門病学会	専門医	宮宗 秀明
日本消化器外科学会	認定医	稲垣 優	日本頭頸部外科学会	指導医	中谷 宏章
日本消化器内視鏡学会	指導医	坂田 達朗	日本頭頸部外科学会	専門医	中谷 宏章
日本消化器内視鏡学会	指導医	豊川 達也	日本内科学会	指導医	齊藤 誠司
日本消化器内視鏡学会	指導医	藤田 勲生	日本内科学会	指導医	坂田 達朗
日本消化器内視鏡学会	専門医	大塚 眞哉	日本内科学会	指導医	豊川 達也
日本消化器内視鏡学会	専門医	坂田 達朗	日本内科学会	指導医	藤田 勲生
日本消化器内視鏡学会	専門医	住井 遼平	日本内科学会	専門医	上田 亜樹
日本消化器内視鏡学会	専門医	豊川 達也	日本内科学会	専門医	岡田 俊明
日本消化器内視鏡学会	専門医	野間 康宏	日本内科学会	専門医	齊藤 誠司
日本消化器内視鏡学会	専門医	原 友太	日本内科学会	専門医	坂田 雅浩
日本消化器内視鏡学会	専門医	藤田 勲生	日本内科学会	専門医	妹尾 賢
日本消化器内視鏡学会	認定医	日野 真太郎	日本内科学会	専門医	豊川 達也
日本消化器病学会	指導医	坂田 達朗	日本内科学会	専門医	藤田 勲生
日本消化器病学会	指導医	豊川 達也	日本内科学会	認定医	上田 亜樹
日本消化器病学会	指導医	藤田 勲生	日本内科学会	認定医	金吉 俊彦
日本消化器病学会	専門医	表 梨華	日本内科学会	認定医	齊藤 誠司
日本消化器病学会	専門医	住井 遼平	日本内科学会	認定医	坂田 達朗
日本消化器病学会	専門医	豊川 達也	日本内科学会	認定医	妹尾 賢
日本消化器病学会	専門医	野間 康宏	日本内科学会	認定医	豊川 達也
日本消化器病学会	専門医	原 友太	日本内科学会	認定医	野間 康宏
日本消化器病学会	専門医	日野 真太郎	日本内科学会	認定医	原 友太
日本消化器病学会	専門医	藤田 勲生	日本内科学会	認定医	廣田 稔
日本小児科学会	指導医	荒木 徹	日本内視鏡外科学会	技術認定取得医	内海 方嗣
日本小児科学会	指導医	岩瀬 瑞恵	日本内視鏡外科学会	技術認定取得医	寺石 文則
日本小児科学会	指導医	藤原 倫昌	日本内視鏡外科学会	認定医	長谷川 泰久
日本小児科学会	専門医	荒木 徹	日本内視鏡外科学会	認定医	増本 弘史
日本小児科学会	専門医	猪谷 元浩	日本内視鏡外科学会	認定医 <small>（小児科）</small>	寺石 文則
日本小児科学会	専門医	岩瀬 瑞恵	日本乳癌学会	指導医	三好 和也
日本小児科学会	専門医	北田 邦美	日本乳癌学会	専門医	高橋 寛敏
日本小児科学会	専門医	坂本 朋子	日本乳癌学会	専門医	三好 和也
日本小児科学会	専門医	藤原 倫昌	日本乳癌学会	認定医	兼安 祐子
日本小児科学会	専門医	細木 瑞穂	日本乳癌学会	認定医	中川 富夫
日本小児科学会	専門医	山道 奈都子			

# 福山医療センター：学会指導医・専門医・認定医等取得一覧

R8.4.1

日本乳がん検診精度管理中央機構	認定医	中川 富夫
日本乳がん検診精度管理中央機構	認定医	三好 和也
日本肺癌学会	暫定指導医	岡田 俊明
日本泌尿器科学会	指導医	長谷川 泰久
日本泌尿器科学会	指導医	増本 弘史
日本泌尿器科学会	専門医	長谷川 泰久
日本泌尿器科学会	専門医	増本 弘史
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	認定医	長谷川 泰久
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会	認定医	増本 弘史
日本病理学会	専門医	表 梨華
日本ペインクリニック学会	専門医	小山 祐介
日本ペインクリニック学会	専門医	友塚 直人
日本ヘリコバクター学会	認定医	豊川 達也
日本放射線腫瘍学会	専門医	兼安 祐子
日本放射線腫瘍学会	専門医	中川 富夫
日本麻酔科学会	指導医	小山 祐介
日本麻酔科学会	指導医	高野 洋平
日本麻酔科学会	指導医	友塚 直人
日本麻酔科学会	指導医	西本 れい
日本麻酔科学会	専門医	小山 祐介
日本麻酔科学会	専門医	高野 洋平
日本麻酔科学会	専門医	友塚 直人
日本麻酔科学会	専門医	西本 れい
日本麻酔科学会	専門医	村上 裕亮
日本麻酔科学会	専門医	宮阪 牧子
日本輸血細胞治療学会	認定医	齊藤 誠司
日本リウマチ学会	専門医	松下 具敬
日本リハビリテーション医学会	専門医	松下 具敬
日本リハビリテーション医学会	認定医	宮澤 慎一
日本臨床腫瘍学会	指導医	岡田 俊明
肺がんCT検診認定機構	認定医	二萬 英斗
分子病理専門医	専門医	表 梨華

※五十音順

# 診療科紹介

## 総合内科

消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患、糖尿病、感染症、血液疾患など、構成スタッフの備える専門的な視点から総合的に診療を行います。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

各専門科に分化した病院にあって、どの診療科にかかればよいのか分からない患者さん、多くの症状を抱える患者さん、あるいは早急な初期治療が必要な患者さんなどを中心に診療を行います。総合内科で適切な担当診療科が確定した場合には、速やかに担当科に紹介します。

主に外来初診患者さんを中心に、総合内科医、消化器内科医、循環器内科医が毎日交代で診療します。初診時に問診、身体診察、血液検査などを必要に応じて行い、最適な治療を選択します。消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患、糖尿病、腎疾患、感染症、血液疾患など、構成スタッフの備える専門的な視点から総合的に診療を行います。

### ■ スタッフ

副院長(消化器内科) 豊川 達也 循環器内科医長 廣田 稔  
消化器内科医長 藤田 勲生 感染症内科医長 齊藤 誠司  
消化器内科医師 稲生 祥子 感染症内科医師 福井 洋介



## 糖尿病・内分泌内科

糖尿病内科では、岡山大学病院腎臓・糖尿病・内分泌内科と連携し、外来・入院中の糖尿病患者の血糖管理を行っています。

内分泌内科では、岡山大学病院内分泌センターと連携し、適切な内分泌機能検査や外科的治療なども検討します。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

#### 【糖尿病内科】

糖尿病内科では岡山大学からの非常勤医師と連携しながら、当院へ入院されている患者の血糖管理を行っています。

高血糖緊急症や糖尿病教育入院についても可能な範囲で対応させていただきます。また循環器内科とも協力しながら、保険診療での肥満症治療にも対応しております。

#### 【内分泌内科】

内分泌内科では、非常勤専門医による外来診療を毎週火・水曜日に行っています。具体的な診療内容として、視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの内分泌臓器疾患に対応しています。各種ホルモンの分泌過剰あるいは欠乏などに由来する病態について精査を行い、適切な治療を行います。入院精査加療や手術加療が必要な場合は、岡山大学病院内分泌センターと連携して対応します。



### ■ スタッフ

内科医師 住井 遼平  
内分泌内科医師(非常勤) 石井 貴大  
内分泌内科医師(非常勤) 寺坂 友博  
糖尿病内科医師(非常勤) 須江 美裕  
糖尿病看護認定看護師 戸田 滋久

# 診療科紹介

## 循環器内科

近隣の心臓血管外科施設と緊密な連携をとり、シームレスな診断治療を心がけています。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当科では、主に高血圧、虚血性心疾患、心不全、不整脈をはじめとする様々な循環器疾患の診断、治療を行っています。

高血圧に関しては、一般的な本態性高血圧に加え、若年者の二次性高血圧、当院の特徴である母子医療を支えるため妊娠高血圧の診断治療、食事療法、運動療法そして病態に応じた薬物療法を行い、脳血管障害、心不全、虚血性心疾患、腎機能障害などの臓器障害の予防と安全な分娩をサポートするべく診療を行っています。

また虚血性心疾患に関しては、運動負荷心電図を、負荷心筋シンチ、冠動脈CTなど種々の検査で検討を行い、必要に応じて冠動脈造影検査による確定診断を行っています。虚血性心疾患の患者様には、薬物療法、心臓リハビリテーションに加え、必要に応じて近隣の医療機関と連携し、PCI(ステント留置術などの経皮的冠動脈インターベンション)または冠動脈バイパス術といった追加治療を選択しています。

心臓リハビリテーションに関しましては2013年度より開始しています。心肺運動負荷試験(CPX)により嫌気性域値(AT値)測定などの評価を行い、患者様の心肺能力に応じた安全、効率的な心臓リハビリテーションを行っています。

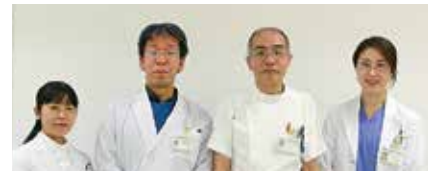
2016年4月からは念願のセンター化が実現し、看護部、リハビリテーション科、薬剤科、栄養管理室、医療連携支援センターといった各部門の担当者と密に連携をとり、診療面のみならず日頃の生活、精神的サポートなどを含めたトータルマネジメントを行い、患者様のさらなる

当科では、主に高血圧、虚血性心疾患、心不全、不整脈をはじめとする様々な循環器疾患の診断、治療を行っています。

高血圧に関しては、一般的な本態性高血圧に加え、若年者の二次性高血圧、当院の特徴である母子医療を支えるため妊娠高血圧の診断治療を、食事療法、運動療法そして病態に応じた薬物療法を行い、脳血管障害、心不全、虚血性心疾患、腎機能障害などの臓器障害の予防と安全な分娩をサポートするべく診療を行っています。

また虚血性心疾患に関しては、運動負荷心電図を、負荷心筋シンチ、冠動脈CTなど種々の検査で検討を行い、必要に応じて冠動脈造影検査による確定診断を行っています。虚血性心疾患の患者様には、薬物療法、心臓リハビリテーションに加え、必要に応じて近隣の医療機関と連携し、PCI(ステント留置術などの経皮的冠動脈インターベンション)または冠動脈バイパス術といった追加治療を選択しています。

心臓リハビリテーションに関しましては2013年度より開始しています。心肺運動負荷試験(CPX)により嫌気性域値(AT値)測定などの評価を行い、患者様の心肺能力に応じた安全、効率的な心臓リハビリテーションを行っています。



#### ■ スタッフ

循環器内科医長 廣田 稔 循環器内科医師 上田 亜樹  
診療援助医師 梶川 隆 診療援助医師 池田 昌絵

## 血液内科

患者さんの納得と同意をいただいたうえで患者さんの意思を尊重し適切な医療を行います。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

血液内科は、血液病を中心とした内科疾患の診療、診断困難な血液検査異常の解析、難治性血液疾患の治療を行う診療科です。

血液疾患の中には、外来通院治療のみで可能なものから、入院治療を不可欠とするものがあります。近隣の血液内科病棟を有する病院と綿密な連携をとりながら、患者さんの納得と同意をいただいたうえで患者さんの意思を尊重し適切な医療を行います。

関係する症状とは

血液に異常があると血液の働きが十分に行われなくなって、以下のような症状が出現します。

- ・皮膚の色が悪くなる:血液中のヘモグロビンが減少すると蒼白化し、顔面だけでなく皮膚の色も失われて悪くなります。なお、赤血球が異常に増加すると、逆に顔面が紅潮し、他の皮膚も赤味を帯びてきます。
- ・立ちくらみと倦怠感:赤血球の減少→ヘモグロビンの減退→酸素運搬能力の低下となり、身体の各部に酸素欠乏に伴う症状がみられるようになります。その代表的なものが立ちくらみであって、めまいが現れることもあります。ただし、立ちくらみの場合にはそのほとんどが低血圧が原因の

脳貧血であって、実際に貧血が存在するのはせいぜい30%くらいといわれています。また鉄欠乏性貧血では、特に午前中に倦怠感が強く、午後から夜にかけては回復してくるといった特徴があります。

- ・悪心、動悸、息切れ:赤血球の減少状態が続くと、悪心、呼吸困難といった症状が現れます。ただし、こういった症状は何も貧血特有のものではありませんので、厳密には検査してみないと正確な判断はできません。
- ・感染症にかかりやすくなる:白血球が減少してくると、白血球の機能が不十分なものとなって、細菌やウイルスに対する抵抗力が低下してきます。
- ・出血が止まらないということも:血小板に異常があると、出血しやすくなることも特徴的な症状です。また、血液中の凝固因子(主に肝臓で産生される)に異常があると、出血したらなかなか血が止まらない、といった症状も考えられます。

受診の際のお願い

過去に職場健診や人間ドックなどで血液検査を受けられたことがありましたら、その時の検査結果をお見せいただくと、診断がより正確なものとなります。

#### ■ スタッフ

血液内科医師 近藤 匠



## 総合内科・感染症内科

HIV感染症は抗ウイルス薬を内服し続けることで健常者と同様に日常生活を送ることができる慢性疾患となりました。当院ではHIVと共に生きる人々(PLWH ; People Living With HIV)の抱える課題や問題点を明らかにして、患者さんが長期にわたり安心して医療享受できるよう活動しています。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴

福山医療センターは政策医療であるHIV感染者の治療において、広島県東部地区を一手に担っておりますエイズ治療拠点病院です(1994年7月に広島県より指定)。エイズ治療拠点病院においては様々なHIV感染症/エイズ症例に対応可能な、総合的で高度な医療を提供することが求められるとともに、HIV/エイズ診療に関しては、これからも治療は進歩を続け、その予後は改善し長期療養の重要性が増していく中で、それらの情報の収集および地域の医療機関や長期療養施設への情報提供・教育を行うことも役割の一つとされています。

近年、抗HIV療法は治療効果が高だけでなく、副作用もほとんどない薬剤が開発され、2か月に1回の注射剤の登場など患者さんの服薬の負担軽減を目指した治療が主体となっています。その治療ガイドラインは毎年改定され、より良い治療法の提供が求められるため、それらの情報の収集が欠かせません。そのために本院では国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター、大阪医療センター、中国・四国ブロック治療拠点病院である広島大学病院、岡山県の中核治療拠点病院である川崎医科大学病院などからHIV/エイズに造詣の深い外来講師を招聘して毎年研修会を開催しています。さらにHIV診療チームの各スタッフはHIV/エイズ関連の学会(日本エイズ学会、日本感染症学会など)・研究会・研修会に積極的に参加し、HIV/エイズに関する最新の情報を得よう心がけています。また当院では毎年、広島県が主催する広島県エイズ治療中核拠点病院等連絡協議会及び医療従事者等研修会に参加しておりますが、広島県東部地区の医療従事者が参加しやすいように、令和2年度より隔年ごとに、当院が主催となって、福山医療センターにて開催される運びとなりました。当診療科が中心となって、広島県東部地区の周辺医療機関にHIV診療に関する情報を提供していきます。

### ■ 具体的な診療内容

HIV感染症は治療方法が確立され、生活習慣病と同じようにコントロールできる慢性疾患となりましたが、現在のところ根治療法はなく、PLWHは生涯にわたる医療受療を余儀なくされています。また、その医療的側面のみならず、経済的側面、患者自身および患者を取り巻く心理社会的側面、特にセクシュアリティの問題など数多くの課題を抱えており、HIV診療はチーム医療が求められる疾患の原点とも言えます。当院では2009年に医師、看護師、薬剤師、臨床心理士(カウンセラー)、ソーシャルワーカー(MSW)、歯科衛生士、臨床検査技師や事務職員から構成される『HIV診療チーム』を立ち上げ、これらスタッフ間で連絡を取り合うとともに、毎月1回チームカンファレンスを開催しています。カンファレンスでは自分の関わりのなかから意見を出し合い、情報を交換しながら患者さんの抱える課題や問題点を明らかにして、PLWHが長期にわたり安心して医療享受できるよう活動しています。HIV診療における

チーム医療の目的は、患者自身が服薬も含め自己管理を行い、自身の健康を向上・維持できるようになることです。

当院では2003年以降受診患者数が漸増し、2008年からは新規受診患者数は毎年4~7名となり、2026年3月末までに受診したHIV/AIDS累積診療件数は107件、2026年3月末時点での通院患者数は80名であり、中国四国地方ブロックにおけるエイズ治療拠点病院ではトップ5に入る診療施設となっています。また周産期センターの産科医師、小児科医師と連携を行い、HIV陽性妊婦の出産例も対応した経験があります。こういった当院の診療実績と診療体制が評価され、2019年9月25日付けで、福山医療センターは全国で60施設目となるエイズ中核拠点病院(以下、中核拠点病院)に選定されました。現在、中国四国地方ブロックでは中核拠点病院が12施設あり、その多くが大学病院クラスの大規模な病院です。広島県内ではエイズ拠点病院が5施設ありますが、2006年より中核拠点病院として機能している広島市立広島市民病院と県立広島病院について3番目の中核拠点病院となります。広島県西部、広島市周辺地域ではエイズ拠点病院が4施設あり、ブロック拠点病院である広島大学病院を中心に、互いに連携を取り合い、人口密集地域である県西部のエイズ診療に対応しています。広島県東部地区における拠点病院は福山医療センターのみであり、当院が広島県内さらには中国四国地方のエイズ診療において果たす役割は大きいと考えます。当院のエイズ診療チームの構成メンバーは、日本エイズ学会指導医1名、内科医師1名、専任の看護師3名(うちエイズ学会認定看護師1名、感染管理認定看護師1名)、薬剤師4名、臨床心理士1名、社会福祉士1名、歯科衛生士1名、臨床検査技師2名で、各職種の専門スタッフがエイズ診療に携わっております。

2021年より日本エイズ予防財団の事業として新たにスタートした「訪問看護・介護職員向けHIV感染者・エイズ患者の医療に係る実地研修」の実習生をこれまでに2回 計3名の受け入れを行いました。また2025年度よりHIV認定薬剤師研修の研修施設として登録され、初年度に1名の研修生を受け入れております。福山医療センターではこれからも引続き、地域に根差した医療機関として、また東部地区のエイズ中核拠点病院として、多くのHIV患者さんを受け入れ、患者さんが安心して地域の医療機関を受診できる体制の構築を目指していきます。



### ■ スタッフ

感染症内科医師 齊藤 誠司 感染症内科医師 福井 洋介

# 診療科紹介

## 消化器内科・肝臓内科

「医療の中心は患者さん」を肝に命じ、低侵襲で的確な医療の提供に向け、日夜努力しています。

## feature & contents

### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

#### ◎消化器内科

当院の特徴として、低侵襲治療を目指していることが挙げられます。内視鏡的に切除できる腫瘍は積極的に内視鏡的切除を施行し、内視鏡による治療で結石を取り除くこともできます。消化管や胆管の狭窄にステントを入れたり、風船で拡張したり、食道静脈瘤の治療も内視鏡で行います。効果が同じかあるいはその方が優れているのであれば、身体にかかる負担が少ない方が良いのは当然のことです。

当院では、最先端の内視鏡診断(画像強調内視鏡、超音波内視鏡下生検、カプセル内視鏡検査、小腸内視鏡検査など)と低侵襲な内視鏡的治療(内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的総胆管結石治療、超音波内視鏡下ドレナージ術、内視鏡的拡張術(ステント)、内視鏡的静脈瘤治療、内視鏡的胃瘻造設術など)を導入し、患者さんのニーズにあった、必要かつ十分な医療を提供しています。当院では検診業務を行っていないため、多くは精密検査目的や他院からの紹介患者さんの内視鏡検査であり、ドッグ検査を含まない年間6,000件以上の内視鏡検査数は全国トップレベルと考えます。治療内視鏡検査、特殊内視鏡検査の件数も多く、習熟した消化器内視鏡医からレジデントまで、お互い協力し合い、切磋琢磨して患者さんのために技術、知識の向上に努めています。

内視鏡だけでなく、悪性腫瘍に対する化学療法・放射線療法、潰瘍性大腸炎やクローン病などいわゆる炎症性腸疾患に対する治療、ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法なども常に日本のトップレベルと同等かあるいはそれ以上の医療レベルを保ちながら、患者さんへ最適な治療を行っています。特に炎症性腸疾患の治療に関しては、これから世に出てくるであろう新薬の治験にも多く携わっています。

#### ◎肝臓内科

常勤の肝臓専門医・指導医が中心となり消化器内科スタッフ全員で協力しながら診療にあたっています。当院は「広島県肝疾患診療支援ネットワーク」専門医療機関であり、公費助成制度を利用してC型肝炎への経口抗ウイルス治療、B型肝炎への核酸アナログ治療を数多く行っています。また、肝障害をきたす原因は他にもアルコール性、自己免疫性、薬物性、代謝性など多岐にわたりますが、その病期(急性肝炎、慢性肝炎、肝線維化・肝硬変、肝不全、肝癌)を見極め、患者さんの年齢、自然経過などを十分考慮したうえで適切な治療を提供できるよう心がけています。

すべての慢性肝疾患例に対しては、超音波検査、CTやMRI検査などで定期画像診断を行い、肝癌の早期発見に努めています。特に、超音波検査についてはGE HealthCareのハイエンド機であるLOGIQ E10をはじめ、TOSHIBAやALOKAの上位モデルも取りそろえると共に、医師と検査技師が切磋琢磨し、高い技術の維持と向上に努めています。最近では、他科からの研修も受け入れ、個別のニーズに応じた技術を習得して頂くことが出来ています。

肝細胞癌に対する低侵襲性治療、集学的治療など本領域における診断・治療法の進歩はめざましく、外科医師、放射線科医師とも互いに協力しながら最新の医療を提供しています。内科の技術面においては、VIVAシステムを用いたラジオ波焼灼療法(RFA)やIVR-CTを併用したカテーテル治療を行っています。また進行肝癌については肝予備能を考慮しつつ最新のエビデンスに基づいて化学療法を行っています。最後に、肝臓は代謝の中心臓器であり、私達はNSTの協力を得ながら、栄養治療の面からも肝機能維持とQOLの向上を計っています。



#### ■スタッフ

豊川 達也 兒玉 英章 藤田 勲生 野間 康宏 日野 真太郎 稲生 祥子 原 友太  
住井 遼平 住井 裕梨 岡本 晃一 佐藤 大直 平岡 凌河 木村 美名子 中城 健  
宇田 陽紀 村上 敬子 高木 桃季 高田 皓平 小西 史哲 前原 弘江

丁寧な説明と適切な治療を心がけ、日々の診療にあたっています。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

#### 外来診療

小児科の一般診療(かぜ、乳児検診・予防接種など)に加えて、循環器外来(先天性心疾患・不整脈・川崎病など)、アレルギー外来(食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支ぜんそくなど)、摂食嚥下外来など様々な専門外来を開設しております。医療的ケア児は、小児外科や耳鼻咽喉科とも連携して診療にあたっています。専門分野の診療だけでなく、小児医療センターの特性を生かして相互に密接に連携をとりながら総合的な小児医療を提供しています。

#### 入院診療

小児病棟では、年間約1,000人のこどもたちが入院しています。感染症(肺炎・気管支炎・咽頭炎、急性胃腸炎、尿路感染)をはじめとした急性疾患に加えて、川崎病・ぜんそく発作・てんかんや熱性けいれんなどさまざまな病気に対応しています。最近ではCT・MRIなどの画像検査や、食物アレルギーの経口負荷試験・アトピー性皮膚炎の教育入院、低身長ホルモン分泌刺激試験など検査目的の入院も増加傾向にあります。胃ろうによる経腸栄養や気管切開・人工呼吸管理中の患者様など医療的ケア児の入院も多くあります。またプレイルームがあり小児病棟専属の保育士が常駐していることも特徴です。

\*外来・入院を問わず、当科では痛み止めのシールや塗り薬を積極的に使用して注射や採血時の痛みの軽減につとめています。痛み止めを希望される場合は担当医または看護師にご相談ください。

#### こども出前講座

2022年4月より地域貢献活動として、さまざまなこどもの病気に関する最新の知識や技術を提供すべく、「こども出前講座」を開設しました。現在主に福山市内のこども園・幼稚園・保育園・小中学校向けに医師・看護師・薬剤師が講演を行っており、おかげ様で好評をいただいております。遠方の方はWEB対応もしております。ご希望される保育施設や学校関係者の方はぜひこちらからお申込みください。

#### 専門外来

##### 循環器

当院における小児循環器診療は2001年が始まりです。循環器診療の中心はエコーによる診断ですが、2000年以前は外来、入院を合わせて年間100件程度と非常に少ない件数でしたが、その後、年々検査数は増加し2006年には1000件を突破しました。以後、その件数をほぼ維持しています。

対象の中心となる分野は先天性心疾患であり、出生直後の新生児から20代の成人まで、フォローしています。出生直後から集中的な治療が必要となる新生児循環器疾患の子どもは、NICUでの管理が中心となります。新生児専門医と協力し人工呼吸管理、プロスタグランジン投与などの治療により全身状態を整え、手術が必要なケースではスムーズに手術を受けられることを目標にしています。

手術やカテーテル治療が必要となる例では、広島県東部には小児の心臓手術が出来る施設がないため、主に岡山大学、広島市民病院などと協力し合い、総合的に管理しています。遠方での受診・治療となりますが、当院でのフォローを綿密にして紹介先の受診回数を減らしたり、術前後管理を当院で行ったりして、子どもとその家族の負担を軽減することが可能となっています。

不整脈では、期外収縮をはじめとして上室性頻拍症、心房粗動、心室性頻拍症、房室ブロック、QT延長症候群などを診療しています。循環動態に問題が出てくるようであれば抗不整脈薬による治療や、電気ショック治療を行



うこともあります。また、電気生理学的検査、カテーテルアブレーションが必要な症例では、岡山大学や大阪市立総合医療センターなどと共同で治療をすすめています。

川崎病は小児に多くみられる原因不明の中型血管炎です。中心となる治療はガンマグロブリン投与で、当院では2g/kgを24時間で投与を行います。解熱しなければ再投与を行いますが、ガンマグロブリンが無効または効果が乏しいと判断したときは、ステロイドパルス療法やインフリキシマブ、シクロスポリンなどの免疫抑制剤を使って治療を行っています。現在は、冠動脈瘤をはじめとした心臓後遺症を残す例は少なくなりましたが、合併症を残した例では、抗血小板、抗凝固療法を行い、心筋梗塞発症の予防に努めています。

##### アレルギー

アレルギー患者さんは、アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・気管支ぜんそく・アレルギー性鼻結膜炎・花粉症など様々なアレルギー疾患をしばしば合併しています。診断は血液検査だけでなく、詳細な身体診察・経口負荷試験・呼吸機能検査などを行い、総合的に診療を行います。また、それぞれのアレルギー疾患に対して診療ガイドラインが作成され標準的な治療が示されており、当科ではこのガイドラインに沿った標準的な治療を心がけており、アトピーや食物アレルギーが治りにくい患者さん、ぜんそくや鼻炎の治療を受けていても症状が良くならない患者さん、重症の患者さんに対して適切な治療法と一緒に考えていきます。小児アレルギーエデュケーターという専門資格を持った看護師の指導を受けることもできます。

注)初診の患者さんには、30分から1時間かけてこれまでの症状や治療経過などについてしっかりとお話を伺いながら診察を行います。受診に際しては、必ず紹介状をお持ちください。

##### アトピー性皮膚炎

保湿・スキンケアに加えて、ステロイド外用薬や免疫調整薬を用いた標準的な治療を行っています。スキンケアや外用指導、ステロイド外用薬の適切な使用方法・副作用について丁寧な説明を心がけています。コントロールが難しい患者さんには、1週間程度の教育入院をさせていただくこともあります。

##### 食物アレルギー

現在食物アレルギーをもつ患者さんは年々増加傾向にありますが、その一方で食物アレルギー発症のメカニズムや予防方法についての知見が蓄積されつつあります。赤ちゃんの湿疹に対して適切な外用を行わないと、食物など様々なアレルギーを皮膚から獲得することがあり、湿疹のないすべすべの肌にしておくことが食物アレルギーの予防に重要な役割を果たすことが分かっています。また様々な食物を必要以上に制限せず食べつづけることで食物へのアレルギー反応を抑えることも分かっています。

ガイドラインでは食物アレルギー診療の基本に「必要最低限の食物除去」と「症状誘発時の適切な対応」が挙げられています。「必要最低限の除去」とは、アレルギーが心配だから念のため食べさせないようにすることや、一度診断されたあとに漫然と制限し続けることを避け、食物アレルギーがあっても安全に摂取できる範囲内で食べることを意味しています。

その範囲(安全に摂取できる量を調べる目的や、診断する目的、治ったか

# 診療科紹介

どうかを調べる目的で食物経口負荷試験を行っています。2022年度は外来で約250件、入院で約100件の負荷試験を行っており、アレルギー専門医や看護師立ち合いのもと慎重に症状を観察しています。「症状誘発時の適切な対応」については、自宅や学校等で症状が誘発される危険性がある患者さんに対して、アドレナリン自己注射器(エピペン®)の処方を行い、適切な注射方法について具体的に指導を行っています。

## 気管支ぜんそく

ぜんそく日誌やぜんそくコントロールテスト、ピークフローメーターなどで普段のぜんそくの状態を把握し、呼吸機能検査を行いながら患者さんに最適な治療を行います。

## アレルギー性鼻結膜炎・花粉症

標準的な薬物療法に加えて、ダニとスギ花粉の舌下免疫療法により鼻炎症状の根治を目指しています。

## 小児四肢疼痛発作症

当科では小児四肢疼痛発作症の診断(遺伝子検査)・治療を行っております。

詳細は「小児四肢疼痛発作症のウェブサイト

(<http://www.med.akita-u.ac.jp/~ielp/index.html>)」をご参照ください。

## 消化器・肝臓

国内、とくに中国地方では数少ない小児の消化器病・肝臓病を専門的に診療する診療科です。難治性消化管疾患であるクローン病や潰瘍性大腸炎は、発症の低年齢化も加わり増加の一途をたどっています。その他、好酸球性消化管疾患、ピロリ菌感染の他、胆道閉鎖症、アラジール症候群、進行性家族性肝内胆汁うっ滞症(PFIC)、自己免疫性肝炎など黄疸を伴うような慢性肝疾患、またウィルソン病やシトリン欠損症などの代謝性疾患の診療も行っております。現段階では月1回の外来ですが、小児消化器肝臓病を専門に診療を行っています。

担当医:近藤宏樹 日本小児科学会専門医・指導医  
日本肝臓学会肝臓専門医  
日本小児栄養消化器肝臓学会認定医

## 摂食・嚥下

食べることは本能ではなく、口を閉じて飲み込む、舌と上あごで押しつぶす、歯ぐきや奥歯で噛みつぶす、と順を追って獲得していくものです。先天性の疾患などで食べることを獲得していくことが難しい、食べるのが苦手なお子さんもいらっしゃいます。

この外来では、離乳食の進め方や食事の食べ方、食事形態、食べることをむせるなど、お子さんの食べること飲み込むことに関する診察をいたします。

お食事を食べる様子を拝見し、お子さんの食べる機能の発達の現状を評価して、食べる姿勢、食事の形態、食べるためのお口のトレーニング法などお子さんの食べる様子に合った方法をお伝えしています。

むせる、飲み込めないなど嚥下(えんげ:飲み込み)のレントゲンでの検査(嚥下造影検査)もいたします。

ご予約をお取りいただき、当日は普段食べているものやスプーンなどお持ちください。

また、診察室で食べることが難しい場合もございますので普段の食事の様子動画などお持ちいただくと助かります。

通われている保育園や療育施設、学校などお子さんの食べることにに関する情報のやり取りや食べる状況の説明もいたします。

午前は言語聴覚士さんと、午後は歯科衛生士さんと拝見しています。

お子さんの食べることで心配事がございましたら、どうぞいらしてください。

担当医:綾野理加(歯科)

## ■ スタッフ

診療部長(小児科担当) 荒木 徹

小児科医長 藤原 倫昌

新生児科医長 岩瀬 瑞恵

新生児科医師 坂本 朋子

小児科医師 山道 奈都子

新生児科医長 猪谷 元浩

小児科医師 小林 光郎

小児科医師 北田 邦美

## 新生児科

入院すると決まったその時から、退院後の家族生活を見据えた医療を提供できるよう心がけています。

# feature & contents

## ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当院は地域周産期母子医療センターに指定されており、新生児センターはNICU 12床、GCU 12床の合計24床で構成されています。治療が必要な新生児を365日24時間体制で受け入れています。近隣の医療施設からの新生児搬送も受け入れており、必要時は当院医師が迎え搬送を行います。日本周産期・新生児医学会専門医(新生児)、新生児集中ケア認定看護師らが中心となり、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、臨床心理士、病棟保育士、メディカルソーシャルワーカー等多職種でチーム医療を行っています。小児外科、脳神経外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、形成外科、眼科、整形外科、泌尿器科等、他科と連携を図り外科的処置を必要とする新生児の治療も行っています。退院後は、発達の経過観察、合併症の管理等、外来でのフォローアップも行っています。

## ■ スタッフ

新生児科医長 岩瀬 瑞恵

新生児科医師 坂本 朋子

新生児科医長 猪谷 元浩

新生児科医師 山道 奈都子



## 小児外科・小児泌尿器科

新生児から15歳以下の幅広い外科疾患に対応しています。  
内視鏡外科を含めた低侵襲手術を積極的に採用しています。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

広島県東部で唯一の日本小児外科学会認定施設です。小児外科学会指導医1名、専門医1名を含め2名で診療を行っています。

新生児から15歳までの消化器、呼吸器、泌尿生殖器などが対象となります。皮下腫瘍や副耳・耳瘻孔、正中頸嚢胞など体表の疾患も担当しております。また、小児特有の疾患では、高校生以降も当科で対応可能です。主な疾患は、ソケイヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣、虫垂炎、幽門狭窄症、腸重積症などです。食道閉鎖症や胆道拡張症など高難度の内視鏡手術も当院で施行可能です。内視鏡手術以外でも「低侵襲」を目標としてお子様の未来をみすえた治療を心がけております。また、小児外科の大きな役割として新生児外科があります。主な新生児疾患は卵巣のう腫、各種先天性消化管閉鎖（食道閉鎖、十二指腸閉鎖、回腸閉鎖）、嚢胞性肺疾患、分画症、横隔膜ヘルニア、腹壁異常（臍帯ヘルニア、腹壁破裂）、鎖肛などで、重症例を含め新生児センターにて手術前後の治療管理を行っています。胃瘻造設や誤嚥性肺炎防止のた

めの喉頭気管分離術・噴門形成術を行っています。臓器移植（肝臓・小腸）が必要な場合は他施設に紹介し術後のフォローは当科で行います。

小児外科は急性虫垂炎や腸重積・腸閉塞・腹部外傷など緊急手術が多いことも特徴の一つですが、積極的に小児外科疾患の救急を受け入れることで広島県東部地域において完結できる小児外科診療を提供できるよう努めます。



#### ■ 常勤スタッフ

小児外科・小児泌尿器科医長 山道 拓  
小児外科・小児泌尿器科医師 宇賀 菜緒子

## 呼吸器内科

「複数の選択肢」を提示することで、何より患者様の「治療選択の権利」を大切に考えています。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当院では基本的に学会の定めたガイドラインに基づき、病期（ステージ）に合った標準的治療をお勧めしております。そのため肺がん治療には最新のエビデンス・ガイドラインを熟知した呼吸器腫瘍内科医・呼吸器外科医と放射線治療医の存在が不可欠です。

しかしもちろん患者さん一人一人の御状態に合わせて、患者様ご自身とご相談しながら治療方針を決定していることは言うまでもありません。例えば非小細胞がんI期でも患者様の呼吸機能が手術に耐えられなければ放射線治療をお勧めすることもありますし、IV期でも骨転移や脳転移の症状が強ければ、まず放射線治療を化学療法に先行して開始していただくなど、柔軟に対応しています。

当院呼吸器科（呼吸器内科）は、肺がんを中心とした呼吸器腫瘍内科の診療を専門としており、現在4名のスタッフで構成されています。

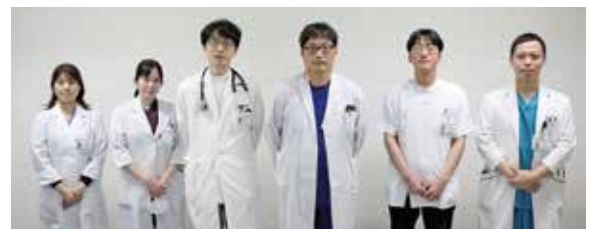
診断面では、最新の高分解能CT（HR-CT）および気管支鏡などを駆使し、すばやく正確な確定診断をモットーにしていますが、検査に対する不安を抱えた患者さん・ご家族の立場にたち、より安全な検査の施行を心がけています。

治療は最新のエビデンスに基づいて行っており、抗がん剤および分子標的薬剤を含めた化学療法、化学療法と外科的切除あるいは放射線照射を組み合わせた集学的治療を実施しています。治

療方針に関しては十分に納得していただけるまで詳しく説明し、セカンド・オピニオンにも積極的に対応しています。また呼吸器外科医・放射線診断医・放射線治療医とのチーム医療を実践することで、福山の患者様にも大都市のがんセンターに勝るとも劣らない最新の肺がん診療を提供させていただけると自負しております。

最近話題になっているアスベスト関連疾患（悪性胸膜中皮腫など）については、専門施設として、詳しい問診から呼吸器外科による局所麻酔下胸腔鏡などによる診断・最新の抗がん剤による治療まで一貫した対応が可能です。

これからも当院呼吸器科は地域の医療機関の先生と連携を取りながら、福山のみならず広島県東部および岡山県西部にかけての胸部腫瘍センターとして、更に努力を重ねて参ります。



#### ■ スタッフ

呼吸器内科医長 岡田 俊明 呼吸器内科医師 妹尾 賢  
呼吸器内科医師 松浦 宏昌 呼吸器内科医師 大森 洋樹

# 診療科紹介

## 産婦人科・婦人科

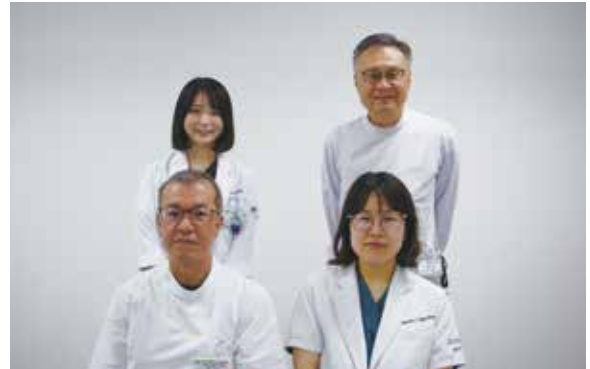
産科領域で広島県東部地域の周産期センターとして異常妊娠・異常分娩の診療に携わっています。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

産科領域で広島県東部地域の周産期センターとして位置づけられ、異常妊娠・異常分娩の診療に携わっています。救急母体搬送は2025年で71件を受け入れています。切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群などの疾患が多くみられます。2025年の分娩総数は414例で、帝王切開分娩は198例で、40歳以上の高年妊婦の分娩は53例となっています。双子妊娠が30例、奇形児は4例ありました。低出生体重児の分娩は1000g未満が3例、1000g～1500g未満が9例、2500g未満が85例で、総数は97例となります。

婦人科領域で広島県東部地域の婦人科がんセンターの役割を担っています。子宮頸癌の放射線治療装置(子宮腔内照射)が設置されているのは当院に限られ、広島県東部地域の子宮頸癌症例の治療を行っています。2025年に子宮頸癌;19例、子宮体癌;14例、卵巣癌;6例の治療を行いました。当院では進行症例が多く、手術療法、化学療法、放射線療法などを駆使して、集学的な治療を行っています。



### ■ スタッフ

診療部長(産婦人科担当) 今福 紀章 産婦人科医師 藤田 志保  
産婦人科医師 末森 彩乃 特別診療役 山本 暖

## 乳腺・内分泌外科

患者さんの気持ちをうかがいながら、根治性を損なうことなく、できるだけ負担のかかる乳がん治療をお勧めしています。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

日本人の乳がんは、増加傾向が続いており、女性のがんのトップです。日本人女性の12人に1人が、一生のうちに乳がんを経験するといわれています。当院では、乳腺外科医師、放射線科医師、形成外科医師、および、乳がん看護認定看護師を中心としたコメディカル・スタッフからなるチームで、年間170名ほどの、新規の乳がん患者さんを、診療しています。

#### 【診断】

乳がんの早期発見のためには、マンモグラフィが重要です。当院では、2015年に最新のデジタルマンモグラフィのソフトコピー診断システムを導入しました。読影については、日本乳がん検診精度管理中央機構による読影認定医師(乳腺・内分泌外科 三好・高橋、放射線治療科 中川)が、院内のみならず、福山市および広島県の検診フィルム読影についても、積極的に貢献しています。マンモグラフィで発見される非触知石灰化病変を的確に診断する腹臥位式ステレオガイド下マンモトーム生検装置を、2018年には、最新のトモシンセシス式に更新しました。

#### 【手術療法】

乳がんにかかったとき、生命を最優先しながら、できれば乳房も失わなくてすむように、乳房温存療法を積極的に行っています。また、合併症のもととなる、過剰なリンパ節郭清を防ぐために、アイソトープを用いたセンチネルリンパ節生検を行っています。形成外科の協

力により、乳房切除後の再建例も増えています。2025年の新規乳がん手術件数は128件、うち50件が乳房温存療法、78件が乳房切除術でした。乳房切除術のうち4件に、形成外科との協働のもと、乳房再建術を行いました。

#### 【薬物療法】

国際的なガイドラインに準じ、かつ、患者さんに優しい、薬物療法を心がけています。臨床試験については、国立がんセンターが主導しているJCOG(Japan Clinical Oncology Group)乳がんグループのメンバーとして、JCOG studyのみならず、いくつかのトライアルを手がけています。

#### 【放射線療法】

精度の高い放射線照射装置を用いて、乳房温存療法における胸壁照射や乳がん骨転移に対する照射について、すぐれた成績を得ています。



### ■ スタッフ

診療部長(がん診療担当) 三好 和也 乳腺・内分泌外科医長 高橋 寛敏  
乳腺・内分泌外科医師 檜原 友希 乳がん看護認定看護師 藤原 礼子

## 泌尿器科

受診→診断→治療方針決定→治療後の社会復帰までの流れを無駄なく迅速に行うことを心がけています。十分な病状説明を基本とし(病名告知)、国内外の最新診療ガイドラインに沿って手術、放射線治療、薬物治療(抗腫瘍化学療法、ホルモン療法、分子標的治療、免疫療法)、緩和医療などを提示します。そのうえで生活様式や希望を考慮し、より良い治療方法を相談していく方針です。

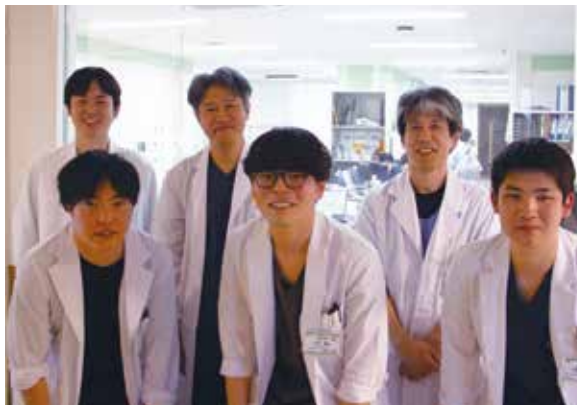
## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

尿路性器および周辺臓器の腫瘍性疾患(副腎腫瘍、後腹膜腫瘍、腎がん、腎盂・尿管癌がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がん、陰茎がん)を主な診療対象としています。それ以外にも、生活の質を低下させる良性疾患(前立腺肥大症、骨盤臓器脱(膀胱瘤、子宮脱など)、腹圧性尿失禁)や尿路感染症、尿路結石といった成人泌尿器科領域の診療を行っています。泌尿器科カンファレンスや他職種(看護師、薬剤師)を含めた病棟カンファレンスを週に一回ずつ行い、偏りのない診療方針となるよう心がけています。

当科では2002年に後腹膜鏡下腎摘除術を導入して以降、備後医療圏では率先して低侵襲術式の導入を行ってきました。腎摘除以外にも副腎摘除、腎尿管全摘、腎部分切除、前立腺全摘、膀胱全摘、腎盂形成、仙骨腫固定といった泌尿器科で取り扱う腹腔鏡手術は、いずれも広島県東市以東から岡山県倉敷市以西において当院が初めて導入した術式です。術者の経験や医療機器の進歩により2014年以降、泌尿器科における主要手術(副腎、腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺)の95%超が腹腔鏡手術で対応可能となっております。手術については安全性はもとより、制癌性および機能温存の両立を心がけて行い、2025年においては良悪性含めて年間約181症例の腹腔鏡手術を泌尿器腹腔鏡技術認定医2名を中心に行いました。主要手術以外でも2016年にはMRI超音波融合画像ガイド下前立腺生検、2023年には膀胱癌に対する光力学診断(photodynamic diagnosis: PDD)を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術を、2025年10月には前立腺肥大症に対する低侵襲治療のひとつである経尿道的前立腺水蒸気治療(Water vapor energy therapy: WAVE)を導入し、検査精度や手術成績の向上に取り組んでいます。

2023年12月より、これまで積極的に取り組んできた腹腔鏡手術にロボット支援手術機器 da Vinci Xi (ダビンチXi)が加わりました。非常に便利な道具で、今まで行ってきた手作業の腹腔鏡手術がより精緻に再現性をもって行えるようになりました。ロボット支援手術への移行がすみやかに進み、すでに前立腺全摘術、膀胱全摘術、腎部分切除、腎摘除、腎尿管摘除、仙骨腫固定術、腎盂形成術についてダビンチXiを使用して手術を行っています。導入から2年間で300症例を超えるロボット手術を行い、良好な手術成績を収めております。



### ■ スタッフ

診療部長(泌尿器科担当) 長谷川 泰久

泌尿器科医長 増本 弘史

泌尿器科医師 桐島 史明

泌尿器科医師 松原 佑吾

泌尿器科医師 石井 康道



# 診療科紹介

## 消化器・一般外科

高度で良質な医療を提供するため、スタッフ一同、日々努力し、最善の医療を地域に還元することを目指しています。

### feature & contents

#### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

当院消化器・一般外科は院長以下、スタッフ、レジデント12名で日々診療を行い、様々な消化器疾患や一般外科の分野の疾患の治療にあたっています。スタッフは専門分野に分かれ、それぞれの得意な分野を担当し、医療に携わっています。分野としては大きく分けて、がんを中心に食道、胃、小腸・大腸、直腸、肝胆膵、ヘルニア、イレウスと多岐に渡っており、手術は毎日行い、地域連携基幹病院として緊急手術にも対応しております。2025年は外科手術総数909件、うち緊急手術は231件でした。また、低侵襲の腹腔鏡下手術も胃ならびに大腸、肝胆膵領域でも積極的に取り入れています。2023年末、泌尿器科で導入したda Vinci Xiによるロボット手術も消化器外科領域でも2024年から大腸癌手術や肝臓及び膵切除術に導入開始し、良好な成績を上げています。

緊急手術も地域中核病院(2.5次救急を担う)として、夜間・休日を問わず対応しています。しかし、コロナ禍の診療制限の中で始まった「福山方式」として急性胆嚢炎、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの緊急手術は当院や基幹病院で対応困難時に近隣の病院で対応して頂き大いに助かりました。コロナは収束しましたが、2024年4月からは「医師の働き方改革」が始まり、勤務医の時間外労働が規制されました。特に外科医減少の中、引き続き厳しい状況が続きます

#### ■スタッフ

院長(肝胆膵外科) 稲垣 優 院長補佐・臨床研究部長(消化器外科) 大塚 眞哉 統括診療部長(大腸外科) 寺石 文則 診療部長(外科担当) 徳永 尚之  
食道・胃腸外科医長 常光 洋輔 消化器外科医長 宮宗 秀明 消化器外科医長 濱野 亮輔 肝胆膵外科医長 北田 浩二  
肝胆膵外科医長 内海 方嗣 外科医師 岡林 弘樹 外科医師 高橋 立成 外科医師 加藤 雄也

が、緊急手術も可能な限り対応して行きたいと思っています。週2回、術前・術後カンファレンスを早朝に行い、手術のプレゼンテーションを行っています。また、内科病理とのカンサーボードを週1回開催し、各々の症例を総合的に討論し、偏りない治療方針を決定し、他科の医師とも連携を深く保ち、日々の医療に役立てています。また、これらのカンファレンスとは別に、消化管、肝胆膵外科の専門的なカンファレンスを毎週行い、各々の症例を個々にさらに深く、討議しています。最新の医療情報を共有するため、英語論文を抄読する学術カンファレンスも毎週開催しています。

当院は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本大腸肛門病学会、日本胃癌学会の認定施設となっており、専門医、指導医を育成、多数輩出しています。



## 食道外科

安易に切除を行うのではなく、内科や放射線科と連携し個人の状態に応じた外科治療を心がけています。

### feature & contents

#### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

当科では2016年から2025年の10年間で43例の食道手術を行っておりますが、その多くを占めるのが食道癌の症例です。食道癌手術は多くの場合、頸部胸部腹部の3領域にまたがる侵襲の大きい手術となります。また治療法として手術以外に放射線療法、化学療法などがありますので、安易に切除を行うのではなく、内科や放射線科と連携し個人の状態に応じた外科治療を心がけています。標準的な切除再建術を基本としておりますが、2010年からステージ0、1の症例、2023年からステージ2、3の一部の症例に対して低侵襲手術である胸腔鏡下、腹腔鏡下の切除再建術を採用しております。術後の回復も早く、傷も小さく良好な成績をあげています。

ステージ2、3の症例に対しては科学的根拠に基づいた術前化学療法を行っております。



■スタッフ 食道・胃腸外科医長 常光 洋輔

## 胃外科

傷跡の小さな、患者さんに負担の少ない手術を心がけています。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当院は日本胃癌学会の認定施設に認定されており、2025年は65件の胃・十二指腸の手術を行いました。ヘリコバクターピロリの罹患率の低下や、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）で切除可能な症例の増加により年々、胃癌の手術症例は減少しておりますが、2025年は胃癌手術症例は44件でした。胃癌に対しては備後地区でもいち早く、2005年から低侵襲の腹腔鏡下胃切除術を採用しており、内視鏡的切除（ESD）適応外の早期胃癌及び進行胃癌に対して行っており、術後の回復も早く、傷も小さく良好な成績をあげています。最近では完全腹腔鏡下胃幽門側切除（LDG）と言ってリンパ節の郭清、胃切除、吻合再建まですべてを腹腔内で行い、臍部に2.5-3cmの切開をして切除胃を取り出す手術を行っています。進行度の高い胃癌に対しては通常の開腹手術を行っておりますが、リンパ節転移が著明な症例、切除可能かどうか判断が難しい症例に対しては術前化学療法も行っています。切除不能症例に対してはノーベル医学賞で話題となった免疫チェックポイント阻害薬もガイドラインに沿って使用しております。GISTな

どの胃粘膜下腫瘍に対しては消化器内科と協力してLECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）と言う最新の手術を取り入れています（現在まで21例施行）。

外来紹介の折は直接紹介していただくか、当院、地域連携室にご連絡ください。



#### ■ スタッフ

院長補佐・臨床研究部長(消化器外科) 大塚 眞哉  
食道・胃腸外科医長 常光 洋輔  
消化器外科医長 濱野 亮輔

## 大腸・小腸外科

“からだにやさしい”最前線を、地域に。一口ロボット手術で支える大腸がん治療

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当院は日本大腸肛門病学会の認定施設で、指導医3名が在籍しており、広島県内でも有数の大腸・小腸手術症例を誇っています。2025年度は年間130を超える大腸がん手術を実施し、腹腔鏡やロボット支援手術といった低侵襲手術が90%以上を占め、ロボット支援手術は90例（結腸がん51例、直腸がん39例）行いました。当施設には大腸領域では備後地域で唯一の日本内視鏡外科学会認定のロボット支援手術プロクター（指導医）ならびに日本ロボット外科学会 Robo-Doc Pilot 国内A級に認定された医師が在籍しており、質の高いロボット支援手術の普及と人材育成に取り組んでいます。ロボット支援手術は、従来の開腹手術と比べて術後の痛みが少なく、早期退院が可能です。（当院のロボット支援大腸がん手術後の平均在院日数12日）

また、局所進行直腸がんに対しては術前放射線化学療法を取り入れ、他臓器への浸潤例では泌尿器科・婦人科などと連携して根治手術を目指します。さらに、肝転移や肺転移を伴う進行大腸がんにも積極的に対応しており、手術・薬物療

法の組み合わせによって良好な治療成績をあげています。治療切除が困難な再発例についても、各種治験に参加し、最新の分子標的薬を含む個別化治療を行っています。

診療方針は大腸癌治療ガイドラインに基づき、毎週の消化器外科カンファレンスで慎重に検討した上で決定しています。虫垂炎や憩室炎などの炎症性腸疾患、穿孔症例、他科疾患に対する外科的対応も行っております。緊急手術の対応には限りがございますが、可能な限りお引き受けいたします。ご紹介の際は、地域連携室または担当医までお気軽にご相談ください。



#### ■ スタッフ

院長補佐・臨床研究部長(消化器外科) 大塚 眞哉  
統括診療部長(消化器外科) 寺石 文則  
消化器外科医長 宮宗 秀明  
消化器外科医師 岡林 弘樹

## 肝胆膵外科

当院は日本肝胆膵外科学会の高度技能医修練施設【A】に認定され、また、当学会認定の高度技能指導医のもと、高度技能医の育成にあたっています。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

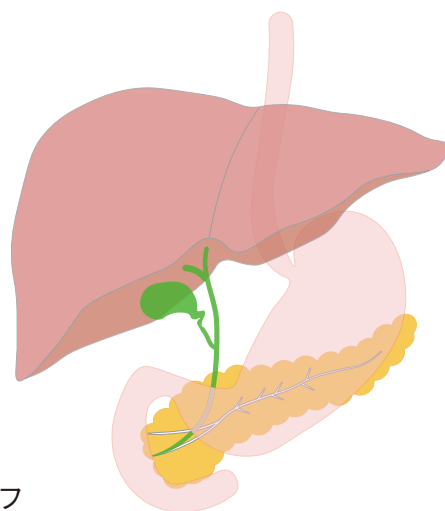
肝切除術は、系統的肝切除術を基本として施行しており、門脈腫瘍栓合併例に対する門脈合併切除、下大静脈浸潤例には下大静脈合併切除等、進行肝細胞癌に対しても積極的に拡大肝切除を行っています。また、大腸癌を始めとする肝転移に対しても積極的に肝切除を施行しており、術前後に補助化学療法を追加することにより、肝内、肝外再発の予防による予後の改善に努めております。切除不能の肝転移症例に対しては、化学療法にて腫瘍を縮小させ、切除可能になった時点でコンバージョン肝切除を行っています。また、腹腔鏡下肝切除も適応を拡大し、亜区域切除や葉切除といった系統的肝切除にも積極的に導入しております。同時性の大腸癌肝転移に対しては原発巣と同時に転移巣の切除も腹腔鏡下に行っており、患者様への侵襲を最小限にすることに日々努力しています。

胆道では胆嚢癌、肝門部胆管癌に対する拡大肝切除を含めた根治手術を施行しております。肝門部胆管癌では胆管に広範囲に進展している場合も多く、切除する肝容量が多くなり過ぎ、術後肝不全を発症する頻度が高くなるため、その対策として術前に門脈塞栓術を行うことで安全に大量肝切除を行っています。遠位胆管に発生した悪性腫瘍に対しては亜全胃温存膵頭十二指腸切除を中心に施行しています。胆嚢結石・胆嚢腺筋腫・胆嚢ポリープなどの良性疾患に対しては可能な限り腹腔鏡下に胆嚢摘出術を行っており、症例により適応を決定し、通常手術後3～5日で退院可能となっています。また、総胆管結石症で内視鏡的治療が困難な症例に対し、腹腔鏡下総胆管切石術も導入しています。胆嚢隆起性病変に対しては超音波検査(EUSなど)やCT・MRI検査を行うことにより悪性疾患との鑑別を図り、鑑別困難な場合には術中迅速病理検査を追加することでより精度の高い診断・治療方針の決定に努めています。近年発展の目覚ましい当分野の化学療法も積極的に導入し、術後の予後改善に努めています。

膵臓癌では現在、切除可能膵癌に対しても術前化学療法を施行した後に、根治手術を行っています。術後は主にティーエスワンを用いた術後補助化学療法を施行することで予後を向上しています。また、切除可能境界膵癌に対し、従来よりのレジメンに加え新規抗癌剤も含めた術前化学療法を導入することにより予後の改善を図っております。手術不能膵癌に対しても

化学療法、化学放射線療法によりダウンステージを行うことで、コンバージョン手術の適応の拡大を図っております。

肝胆膵領域での内視鏡外科は、膵臓の体尾部に発生した悪性膵腫瘍や非進行膵癌に対してこれまでも積極的に腹腔鏡下手術を行ってまいりましたが、近年ではリンパ節郭清を伴う膵癌手術にも適応を拡大してきております。また、肝臓癌に対しても内科的に腫瘍焼灼療法(ラジオ波、マイクロ波等)が困難な部位にある症例に対して腹腔鏡下に焼灼することにより、安全に、また患者様の手術ストレスを軽減することが可能となっています。さらに肝切除に関しても腹腔鏡用の超音波破碎装置と最新の凝固切開装置を用い、前述したような高難度手術に対しても出血量も少なく安全に手術を行い、手術侵襲の軽減に取り組んでいます。令和5年12月から当院にも導入された手術支援ロボット(DaVinci Xi)を用いた肝切除・膵切除手術にも積極的に取り組んでおり、現在は肝部分切除・膵体尾部切除に適応を限定していますが、今後はその適応拡大を目指します。



### ■ スタッフ

院長 稲垣 優 (日本肝胆膵外科学会高度技能指導医)

診療部長(外科担当) 徳永 尚之 (日本肝胆膵外科学会高度技能専門医)

肝胆膵外科医長 内海 方嗣 (日本肝胆膵外科学会高度技能専門医)

肝胆膵外科医長 北田 浩二 (日本肝胆膵外科学会高度技能専門医)

## ヘルニア外科

近年ではより低侵襲な腹腔鏡手術も取り入れ、早期退院をめざしています。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当科で扱うヘルニア疾患としては鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、内ヘルニア、臍ヘルニア、白線ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、傍ストーマヘルニア、横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニアなどがあります。最も一般的な鼠径ヘルニア手術の症例数は40例前後で推移しています。(2021年24例※、2022年40例、2023年59例、2024年39例、2025年69例 ※コロナ禍で良性疾患の手術制限あり)

鼠径ヘルニアの術式は相談の上決定しますが、担当医の慣れた(得意な)術式を提示させていただきます。鏡視下手術も両側の確認ができることなどのメリットもあり取り入れてあります。また多くの併存疾患があり全身麻酔や腰椎麻酔が難しい症例でも膨潤麻酔(局所麻酔の一種)を用いて良好な除痛を図った上での安全な手術も行っております。ヘルニア疾患の内、嵌頓症例など緊急疾患にも幅広く対応しています。その他のヘルニアや稀なヘルニアについても御相談いただければ幸いです。



#### ■ スタッフ

※消化器外科医師で適宜担当させていただきます。

## イレウス外科

手術の方法は様々ですが、癒着をなるべく少なくするために、可能な場合は腹腔鏡での手術を行っています。

### feature & contents

#### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

イレウスは機械的イレウスと機能的イレウスに分類され、機械的イレウスはさらに単純性イレウスと複雑性(絞扼性)イレウスに分類されます。閉塞の原因は、術後の癒着や炎症性疾患、癌関連(癌自体による閉塞だけではなく腹膜播種性転移)、内外ヘルニア、腸重積、腸軸捻転など多岐にわたり、老若男女に発症する可能性があります。実臨床において頻回に経験する病態です。また患者さんによっては長年つきあっていかにざるを得ない場合もあります。治療法も状況により保存的治療(絶食、輸液やイレウス管留置など)～外科的治療などさまざまありますが、治療方法の判断が難しい場合もしばしばあります。また緊急処置を施さないと脱水から循環動態が悪化したり、感染症(敗血症)などを引きおこしたりして生命にかかわる状態に陥ることもあります。時間外や休日など緊急時にも対応しますので、お困りの症例があればいつでも遠慮無く紹介してください。



#### ■ スタッフ

※消化器外科医師で適宜担当させていただきます。

# 診療科紹介

## 呼吸器外科

肺がんの治療では病期、患者様の体力など個々に応じた治療の選択が必要です。特に手術、化学療法、放射線治療などを組み合わせた集学的治療が必要となる場合も少なくありません。当科は呼吸器内科、放射線治療科、放射線診断科とも緊密に連携して集学的な肺がん診療を行っています。一人一人に最もあった治療を誠実にまいりますので遠慮なくご相談下さい。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当科は2人の常勤呼吸器外科専門医で診療を行っています。そのうち1名は日本呼吸器外科学会の胸腔鏡安全技術認定制度で認定を受けています。当院の2025年の手術数は152例で、そのうち肺がん手術が最も多く83例となっています。肺がんの手術では4Kの最新胸腔鏡システムを使用した完全鏡視下手術を主に行っています。2025年末からは手術支援ロボットDa Vinci Xiを使用したロボット支援下手術も導入しています。2025年は肺がん手術の約74%が完全鏡視下の手術でした。低侵襲で体にやさしく、傷も小さい鏡視下手術を行っていますが、最も重視すべきは安全性と根治性と考えていますので進行がんの症例や高度分葉不全、気腫肺などリスクが高いと判断した場合には10-15cm程度の開胸で手術を行っています。

他にも自然気胸が18例、転移性肺腫瘍が20例、縦隔腫瘍が2例、膿胸が11例と多岐にわたる疾患に対し手術を行っております。これらもほとんどは胸腔鏡下手術を行っています。

入院病棟は呼吸器内科と同じ病棟であり、放射線科も含めて毎週1回カンサーボードを行い、お互いに緊密に連携し一緒に診療にあたっています。外来は月曜日を高橋健司と二萬英斗、火曜日午前が高橋健司、木曜日を二萬英斗が担当しています。中核病院として幅広い呼吸器疾患に対応していきたいと考えていますので遠慮なくご相談いただければ幸いです。



### ■ スタッフ

呼吸器外科医長 高橋 健司  
呼吸器外科医師 二萬 英斗

## 整形外科

当科では脊椎・脊髄疾患と、変形性関節症や関節リウマチなどの様々な関節疾患、小児整形外科疾患に主に取り組んでいます。外傷、スポーツ整形などあらゆる整形外科疾患に対応しています。また、心疾患や糖尿病、高血圧症、脳血管疾患、悪性腫瘍などの合併症や既往歴のある患者さんでも、他科と連携して治療に向けて取り組むことができます。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

我が国は急速な高齢化社会を迎えており、脊椎・脊髄疾患や関節疾患のため、歩行などの日常生活に支障をきたしている高齢者が増加しています。当科ではこれまで脊椎と関節疾患の診療に主に取り組んできました。これからも、より多くの脊椎・脊髄疾患に対する迅速且つ高度な診断と治療、また人工関節置換術を中心とした関節再建を推進、発展させたいと考えており、2014年4月に脊椎・人工関節センターを整形外科内に設立いたしました。数多くの患者さんの生活の機能と質を回復させることが、当センターの使命と考えております。

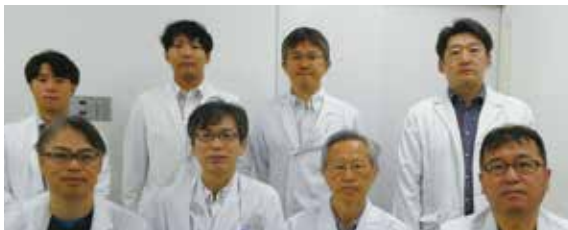
当センターの特徴として、まずMRI、CT、RI、CTナビゲーションシステムなどの機器を利用し、三次元的に骨の形を見ることが出来るため、より正確な手術計画、診断と治療の方針の決定が可能です。2025年3月には広島県下初の病院で唯一O-arm術中イメージングシステムを導入し、これまで以上に高精細な3D画像を用いた術中ナビゲーションが実現しています。また、患者さんの負担をなるべく少なく出来るよう、手術では傷をより小さく術後の痛みをより少なく、回復をより早くするための技

術、最小侵襲手術(MIS)に取り組んでいます。例えば、脊椎の内視鏡手術ではPED内視鏡手術を取り入れ、局所麻酔下で手術が行えるため翌日退院が可能となりました。人工股関節手術では、OCM approachにて全く筋腱切離をしないで手術をおこなっており、在院日数は3週に短縮しています。変形性膝関節症に対しては全人工膝関節置換術(TKA)と単顆型人工膝関節置換術(UKA)、高位脛骨骨切り術(HTO)などをその重症度などに応じて選択して治療することが可能です。TKA、UKAはナビゲーションシステムを導入しており正確なインプラント設置が可能です。近年はスポーツ外傷による前十字靭帯損傷、肩関節脱臼、半月板損傷、半月板後根断裂に対して低侵襲な関節鏡視下手術を行い早期復帰を目指しています。

肩関節疾患にも治療しており鏡視下腱板断裂手術、解剖型人工肩関節置換術、反転型人工肩関節置換術を行っており症例は増加傾向にあります。反転型人工肩関節置換術は肩甲下筋を切離さない術式(NDS)を採用しており術後早期回復が可能です。手術室にはバイオクリーンルームが2室あり、きわめて清潔な状態で手術を行うことができるなど、周術期の感染予防に最大限の取り組みを行っています。また、院内には骨バンクを設けており、骨欠損の大きな患者さんにも同種骨移植で対応することが出来ます。輸血の必要な手術では、術前術中に自己血を貯血し自分の血液を使うことで輸血による病気の伝染を確実に防ぐことが可能です。

### ■ スタッフ

診療部長(整形外科担当) 甲斐 信生 特別診療役 松下 具敬  
整形外科医長 宮澤 慎一 整形外科医長 宮本 正  
整形外科医師 渡邊 典行 整形外科医師 日野 知仁  
整形外科医師 古島 裕次郎 整形外科医師 大石 聖明



## 皮膚科

それぞれの患者にあった診療、ていねいな診療、わかりやすい診療を心がけています。

### feature & contents

#### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

皮膚にでているあらゆる発疹、皮膚で感じるあらゆる症状に関しては、まず、皮膚科を受診してください。皮膚だけの疾患、皮膚科だけの診療で十分な場合もあれば、内科、小児科、形成外科との綿密な連携が必要な疾患もあります。診ただけで診断がつく場合もあれば、皮膚生検などが必要な場合もあります。同じ診断でも、治療方法や治療薬に対する反応も様々です。また高齢化がすすみ、皮膚の異常を訴える患者もたくさんおられます。それぞれの患者にあった診療、ていねいな診療、わかりやすい診療を心がけています。



#### ■スタッフ

皮膚科医師 藤井 江利子

皮膚科医師(非常勤) 下江 敬生

## 耳鼻咽喉・頭頸部外科

他科の医師だけでなく、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、ソーシャル・ワーカーなどとも定期的なカンファレンスを行い、最適な治療を目指しています。

### feature & contents

#### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

当科では耳鼻咽喉科領域のほとんど全ての疾患の治療が可能です。受診患者は耳・鼻副鼻腔・咽頭疾患が多く、手術も中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃・アデノイド疾患の手術が多くを占めています。これらの手術の入院期間は、鼓膜チューピング手術は手術当日、アデノイド切除術は手術翌日、扁桃摘出術や内視鏡下鼻副鼻腔手術は術後4、5日、鼓室形成術は術後5日程で退院となります。

当科では頭頸部腫瘍の治療も行っていますが、根治性のみならず、頭頸部領域が関与する種々の機能(食事、会話、呼吸など)を温存するQOLに配慮した治療を行っています。

#### ■当科で取り扱う疾患

【耳疾患】外耳・中耳炎、真珠腫、耳硬化症、難聴、めまい、顔面神経麻痺など

【鼻・副鼻腔疾患】鼻出血、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎、鼻副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など

【口腔・咽頭疾患】アデノイド増殖症、扁桃炎、扁桃肥大、睡眠時無呼吸症候群、口内炎、咽頭炎、嚥下障害など

【喉頭疾患】喉頭炎、声帯結節・声帯ポリープ・反回神経麻痺などの音声障害など

【唾液腺疾患】唾液腺炎、唾石症、シェーグレン症候群など

【甲状腺疾患】橋本病、バセドウ病、亜急性甲状腺炎など

【唾液腺疾患】唾液腺炎、唾石症、シェーグレン症候群など

【甲状腺疾患】橋本病、バセドウ病、亜急性甲状腺炎など

【顔面・頸部疾患】顔面外傷、頸部リンパ節炎、深頸部膿瘍など

【良性腫瘍】聴神経腫瘍、顔面神経鞘腫、唾液腺・甲状腺・頸部良性腫瘍など

【悪性腫瘍】外耳・中耳癌、鼻・副鼻腔癌、口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺癌、甲状腺癌など



#### ■スタッフ

耳鼻咽喉・頭頸部外科医長 福島 慶

特別診療役 中谷 宏章

耳鼻咽喉・頭頸部外科医師 竹内 薫

耳鼻咽喉・頭頸部外科医師 佐藤 直弥

# 診療科紹介

## 形成外科

先天性および後天性の身体外表の形態異常や色調の変化などの醜状障害、また皮膚腫瘍に対して機能的・整容的に再建することを目的とします。そうすることで精神的な悩みや負担を軽減し、社会復帰を図ることを目指します。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当科は『日本形成外科学会認定施設』です。形成外科のほぼ全般を取り扱いますが、美容外科等の私費医療は病院の性格上現在取り扱っておりません。対象疾患は1.新鮮外傷、新鮮熱傷2.顔面骨折および顔面軟部組織損傷3.唇裂・口蓋裂4.手・足の先天異常、外傷5.その他の先天異常6.母斑、血管腫、良性腫瘍(※1)7.悪性腫瘍およびそれに関連する再建(※2)8.瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕・ケロイド9.褥瘡、難治性潰瘍10.美容外科等に大別されます。

(※1)平成26年4月より色素レーザー(キャンデラ社のV beam)を導入いたしました。単純性血管腫・いちご状血管腫(乳児血管腫)・毛細血管拡張症に対して保険適応が認められており当科での加療が可能となりました。月曜日または水曜日の午後に予約制とさせていただきます。通常は日帰り治療が可能ですが部位・性状によっては入院・全身麻酔が必要になる場合があります。

眼周囲で色素レーザーの当てにくい症例や色素レーザーで治療抵抗性の症例などは小児科協力のもと、βブロッカーの内服治療も行っております。

(※2)平成25年、乳癌手術後に膨らみを再現する「人工乳房(=シリコンインプラント)」が保険適用となりました。以前は自費診療で自己負担額が80~100万円と高額でしたが、保険適用により負担額が軽減されます。

当院は日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会からエキスパンダー実施施設・インプラント実施施設の認定を受けております。(一次一期・一次二期・二次再建対応)



### ■ スタッフ

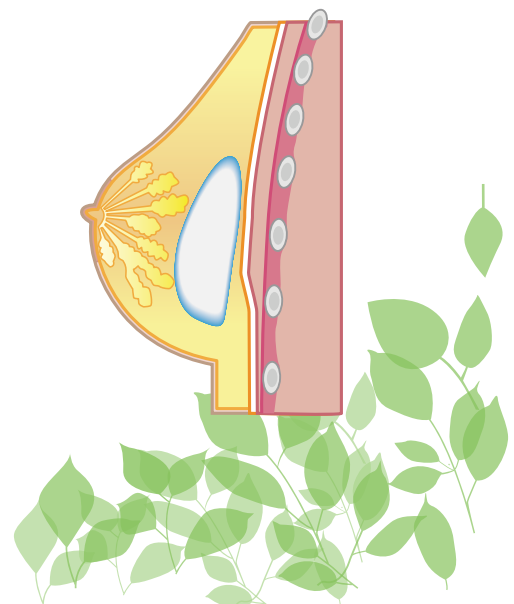
形成外科医長 三河内 明 形成外科医師 河田 真由美  
非常勤医師 井上 温子

2025年 「年間の麻酔別及び疾患大分類別手技数」			
集計期間	2025年1月1日~2025年12月31日		
	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	123		123
腰麻・伝達麻酔での手技数	4		4
局所麻酔・その他の手技数	64	253	317
入院または全身麻酔の手技数計：191			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数：253			
合計係数：317.5			

※件数の条件

- ・入院手術または全身麻酔手術の手技数の合計が認定施設150以上、教育関連施設80以上であること
- ・「入院手術または全身麻酔手術1例を係数1.0」、「外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他1例を係数0.5」とした場合の合計係数が認定200以上、教育関連施設130以上であること

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	10		13			56	79
先天異常	16					1	17
腫瘍	75		24			120	219
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1		2			1	4
難治性潰瘍	10	2	14			9	35
炎症・変性疾患	10	2	8			9	29
美容(手術)							
その他	1						1
Extra レーザー治療			3			57	60



## 放射線診断科

高速撮影の可能なマルチスライスCT、高磁場のMRI装置、IVR-CT、備後地区で2台目の導入となるPETCTと通常核種のためのSPECT装置、コンピュータィッド・ラジオグラフィ、骨塩定量測定装置など各種・最新の画像診断機器がそろっています。

## feature & contents

### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

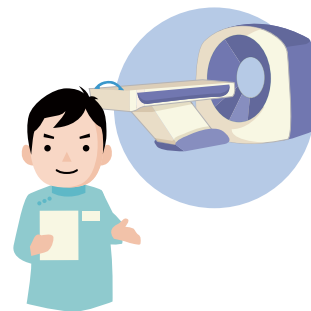
マルチスライスCTは、撮影時間も短く、高い空間分解能で小さな構造も描出され、画像診断全般に非常に有用です。高磁場のMRI装置では、高いコントラストで描出でき、組織に埋もれた病変を浮かせ上がり、婦人科病変や乳癌、整形外科領域で大きな力を発揮します。通常の血管造影装置にCTを合体させているIVR-CTは、肝臓などの血管造影とそれを利用した治療時により正確な診断・治療が可能となります。核医学検査装置は代謝に関係した物質を放射線同位元素で標識することによって、形態のみならず機能の評価ができ、PETCTは癌など悪性腫瘍がどの程度進行しているかの診断や治療効果判定に極めて有用で治療方針を決定するために大きく役立ちます。SPECTは、全身の骨腫瘍の検出や心機能、肝機能の評価などに力を発揮します。コンピュータィッド・ラジオグラフィは通常の単純写真がデジタル化されたものであり、撮影後の処理が簡便で、安定した画像の供給が可能です。すべての検査で画像情報は電子化されコンピュータ(画像サーバー)に原則永久保存しています。地域連携室経由でCT、MRI、PETCT、SPECT検査について近隣医療機関と連携しています。

【放射線診断】医療ではまず症状の原因を調べ(診断)それをもとに病気の原因を治療します。診断には理学所見や血液検査とならびレントゲン検査等の画像検査があります。近年、マルチスライスCT、高磁場MRI装置、核医学のSPECTやPETCTなどの画像診断装置の著しい進歩で、診断における画像診断の役割が非常に大きくなっていて、高度医療、救急疾患やがんの診断・治療を行うにあたり欠かせないものとなっています。当院ではマルチスライスCTは約16,600件/年、高磁場MRI装置では6,900件/年、PET-CTは約900件/年、PET-CT以外の核医学検査は約900件/年の撮影をしています。CT、MRI、PETCT、核医学検査の大半について、画像診断を専門とした医師(放射線診断専門医かつPET専門医取得)が原則よく診療日までに当該診療科にレポートを報告、高度医療に貢献しています。コンピュータ(画像サーバー)上のデジタルデータをモニターで診断するにあたり、常に最適化した画像(拡大や画像濃度等)で可能な限り過去の検査と比較、より正確、高度で臨床に役立つ診断ができるように努力しています。放射線診断医と臨床放射線技師が力を合わせ、より良い画像を得られるように撮影条件を最適化しています。被曝量の比較的多いCTではできるだけ低被曝での検査になるように撮影条件の最適化に努力しています。

【診断モダリティ】一般撮影装置、乳房撮影装置、DR透視装置、64列CT、1.5TMRI、3TMRI、IVR-CT、PETCT、SPECT、骨塩定量測定装置と、各種レントゲンモダリティがそろっていて、それぞれ電子化された画像データをサーバーで原則永久的に保存していて、必要に応じてCD-R等で他施設と連携しています。他院から紹介されたレントゲン画像の電子データも一括して画像サーバーで管理しています。CTでは0.5mm~1mm厚のスライスも数ヶ月間は保存しており、その期間は後からでも自由な方向の断層面の画像を再構成したり、3D画像を作成可能としています。

【インターベンショナルラジオロジー(IVR)】種々の放射線診断手技を応用した疾患の診断および治療手技をインターベンショナルラジオロジー(IVR)といい、低侵襲的であることが特徴です。IVRは血管系のIVRと、実質臓器を対象とした非血管系のIVRとに大きく分けられます。血管系IVRとして、肝細胞癌や心臓ステントなどあり、それぞれ肝臓内科、循環器内科が担当しています。当科では大量出血に対する動脈塞栓療法、リザーバー動注療法、胃静脈瘤に対する硬化療法(BRTO)などを行っています。非血管系ではCTガイド下針生検、肺の小病変の胸腔鏡下手術前にCTを用いたマーキング(VATSマーカー)挿入などを行っています。岡山大学医学部放射線医学教室の関連病院として、大学病院と密接に協力しあつてより高度なIVRにも対応していきます。当科はベッドを持っておらず当院各診療科からの依頼として施行しています。

【診療支援体制】岡山大学医学部放射線医学教室の関連病院として、大学病院と密接に協力し、連携のとれた高度な放射線診療を行っています。



### ■スタッフ

放射線診断科医長 岸 亮太郎 放射線診断科医師 西垣 貴美子  
放射線診断科医師 道家 哲哉 放射線診断科医師 竹本 有里  
放射線診断科医師 石城戸 輪也

# 診療科紹介

## 放射線治療科

高精度放射線治療(強度変調放射線治療・体幹部定位照射・脳定位照射)を行っています。子宮頸がん・子宮体がんに対する密封小線源治療や甲状腺がん術後・甲状腺機能亢進症・前立腺がん多発骨転移に対するラジオアイソトープ治療が実施可能です。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

当科では患者さんにやさしい放射線治療を目指します。高度な治療技術(IGRT、SBRT、IMRT)を駆使して、正確に病変を捕らえて治療するとともに障害発生を低減させます。治療の目標をしっかりと納得して頂くための分かり易く丁寧な説明を心がけます。また、日々の治療を受けて頂く際には親切なスタッフが患者様の困り事や不安にいつでも対応致します。

#### 【実施している治療内容】

外来にて診察し、病状と治療効果と副作用を勘案して放射線治療が有用と判断したら、治療をお勧めします。外来での通院治療が一般的です。入院はがんの種類により各診療科での入院になります。当科自体での入院は受け入れていません。

基本的な外部照射の方法は3次元固定多門原体照射(3DCRT)、体幹部定位照射(SBRT)、強度変調放射線治療(IMRT)の3通りを疾患に応じて使い分けています。画像誘導放射線治療(IGRT)を併用して正確な位置合わせを行っています。2025年7月から乳がん患者については体表面位置照合を利用します。また転移性脳腫瘍に対する脳定位照射も可能となります。特に重点を置いている治療は以下の通りです。

- ◎頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療(IMRT)
- ◎肺腫瘍に対する体幹部定位照射(SBRT)

◎乳房温存療法における腹臥位全乳房照射(Prone Breast Irradiation)

◎乳房温存療法における寡分割照射(Hypofractionated RT)

◎乳房温存療法における深吸気息止め照射(Deep Inspiration Breath Hold: DIBH Irradiation)による心臓線量の低減

◎子宮頸がんに対する画像誘導小線源治療(CT/MRI-based IGBT)および組織内照射併用腔内照射(Hybrid-BT)

なお、がん診療や放射線治療に関するセカンドオピニオンを希望される方は病院窓口でご相談下さい。



■ スタッフ 放射線治療科医長 中川 富夫  
放射線治療科医長 兼安 祐子

## 精神科

職場や学校、家庭内での日常的な問題がきっかけで、精神的不調を生じることが、まれではありません。当科では、うつ病や不安障害、適応障害などを中心に、多様な精神疾患に対する治療を行っています。

## feature & contents

### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

ストレスの多い現代社会において精神的不調に陥ることは、多くの方が抱える身近な問題です。当科では、うつ病や不安障害、適応障害、睡眠障害、てんかん、精神病など多様な疾患に対して、診断や治療方針の決定、生活指導などの精神科プライマリーケアを行っています。外来での薬物療法や精神療法が中心であり、いわゆる専門外来(精神分析、認知行動療法、児童思春期外来、摂食障害、断酒会など)は行っておりません。また、当院には精神科の入院病床はないため、重症の患者さんに対応することができません。入院が必要と判断される場合は、適切な精神科専門病院を紹介させて頂いております。

是非お気軽に受診して下さい。



■ スタッフ 精神科医長 水野 創一  
心理療法士 飯塚 暁子

## 麻酔科

手術の安全を支える麻酔科。手術前の管理から麻酔管理、術後の痛みのケアまで一貫して担当します。患者さんに寄り添い、不安を和らげ、安心して手術に臨める環境を整えています。

## feature & contents

### ■診療科の特徴と具体的な診療内容

麻酔科医は「全身管理」を得意とする科です。状態の悪い患者では、心臓を良くする治療をしたら感染症が悪化する場合があります。こうした複雑な病態を持つ患者や命の危機に瀕した患者に対して「全身管理」をして総合的な治療をしています。

具体的な麻酔科の業務は下記の4つになります。

- ①手術麻酔
- ②周術期管理
- ③集中治療

#### ①手術麻酔

麻酔科医の最も基本となる業務は手術麻酔です。

全身麻酔とは寝ているだけではありません。寝ていても痛ければ目が覚めますし、寝相が悪く動く人がいます。そのため、手術中に「意識がなく鎮静薬」に加えて「痛み止めの薬」と「筋肉が弛緩する薬」を使いますので、患者さんの自発呼吸は停止します。しかし、呼吸が止まると大変なことになりますので麻酔科医が口から肺にチューブを挿入し人工呼吸器で呼吸をサポートをします。同時に血圧・脈拍・体温・血液データといった様々な情報を元に「全身管理」をして状態を安定させます。

当院では1年間に3,000件を超える全身麻酔症例を常勤麻酔科医師5人と非常勤の麻酔科医師で安全に施行しております。他にも脊椎くも膜下麻酔(俗にいう半身麻酔)などの麻酔も担当しています。

#### ②周術期管理

無事に手術を成功させるために手術前に入念な準備が必要です。福山医療センターではPASPORT/PERIOチームを立ち上げ患者さんのサポートを行っています。手術や検査が決まると、看護師や薬剤師、麻酔科医、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多くの専門職がチームとなり、体の状態や服用中の薬の確認、不安や疑問への対応、入院生活の説明などを行います。具体的には血液をサラサラにする薬の中止時期を指定したり、心臓にステントが入っている患者に心臓超音波などの検査を追加したりします。また呼吸機能が悪い患者では、呼吸リハビリを術前にして痰を出しやすくしたりします。このように、個人個人に合わせて必要な検査や処置をすることで、手術のリスクをできる限り減らします。患者さん一人一人に合わせてオーダーメイドの「全身管理」ができるように医療スタッフが一丸となって周術期管理に取り組んでいます。

#### ③集中治療

当院に入院する重症患者さんの中で人工呼吸や透析などの高度な医療が必要となった方に対して集中治療室で麻酔科が中心となって治療を行っています。敗血症や急性膵炎など生命の危機に瀕する疾患は麻酔科が中心となって「全身管理」し、主治医や他の専門医と共に加療する体制となっています。



### ■スタッフ

- 診療部長(手術・ICU担当) 友塚 直人
- 麻酔科医師 小山 祐介
- 麻酔科医師 高野 洋平
- 麻酔科医師 西本 れい
- 麻酔科医師 山下 浩司
- 麻酔科医師 村上 裕亮
- 麻酔科医師 宮阪 牧子
- 麻酔科医師(非常勤) 稲井 舞夕子

# 診療科紹介

## 病理診断科

病理診断科は、患者さんから採取された臓器や組織から顕微鏡標本を作製し、癌などの病気を正確に診断する部門です。当病理検査は大きく分けて『病理組織検査』、『細胞診検査』、『病理解剖』があります。

## feature & contents

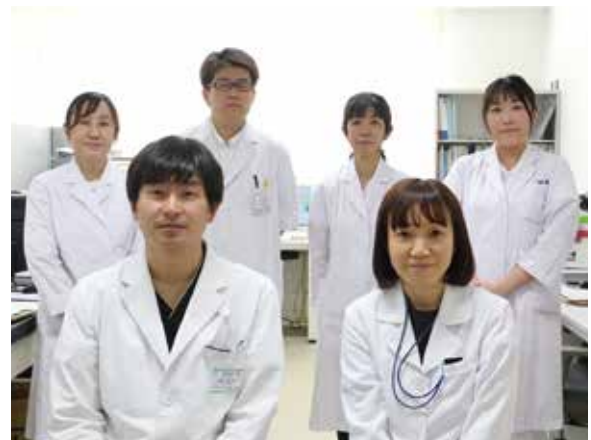
### ■ 診療科の特徴と具体的な診療内容

『病理組織検査』は、内視鏡や手術により摘出された組織材料を調べる検査です。検体の種類により生検と手術材料に分かれます。生検とは内視鏡、気管支鏡、針生検などにより採取された組織片から、病気の種類を確定診断する検査です。その後の治療法を決めるのに重要な情報となります。手術材料の検査では、手術前に生検や画像診断などある程度分かっている病気の種類について、さらに詳しい病理組織診断を行います。内視鏡や手術などにより取り出された臓器・組織はパラフィンで固めて薄く切ります。その切片を染色して、半永久的な標本に仕上げます。ここまですが臨床検査技師の仕事です。この標本を、病理医が顕微鏡で観察して、良性・悪性の鑑別、診断名、病変の本態や病変の広がり、治療効果や予後の判定など形態的な診断を行います。必要に応じて、特殊染色や免疫染色も行い診断に役立っています。診断結果は主治医に届けられ、診断と治療に反映されます。

『細胞診検査』は、尿・腹水・胸水・喀痰中に脱落剥離した細胞や、子宮癌検診で採取された細胞を顕微鏡で検査します。また、乳腺や甲状腺などに細い針で穿刺吸引して採取された細胞を検査することもあります。細胞を集めてブロック化し、生検組織と同様に顕微鏡で診断します。病理組織検査と比べて、患者さんの負担が少ないという利点があります。スクリーニングは現在4名の細胞検査士が担当しています。

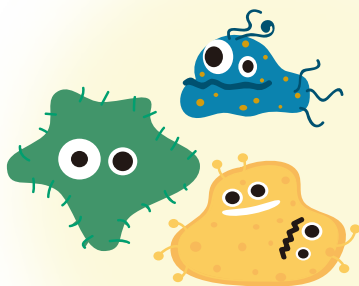
『病理解剖』は、不幸にしてなくなった患者様をご遺族の承諾のもとに死体解剖保存法に基づいて解剖させていただくことです。病理医と臨床検査技師により、必要最小限の切開を加え、臓器を取り出した後、ご遺体は清拭されてご遺族のもとに戻されます。摘出された臓器は、肉眼的・組織学的に詳細に観察し、最終的な診断書を作成し、診断は主治医を通じてご遺族に伝えていただきます。

当院では、標本作製やその管理などを担当する検査助手を含めて、総勢8名のスタッフで病理業務を行なっています。



### ■ スタッフ

医長 表 梨華



## 薬剤部

患者さんが有効かつ安全に薬物療法を受けられるよう業務を推進しています。

# feature & contents

### ■部門の特徴

安全・安心な医療が求められる昨今、医療の高度化、疾病の多様化、医薬品の開発により薬物療法は複雑化しています。そのような状況の中、私たち病院薬剤師には薬の専門家として各種医療チームの中で重要な役割を担い、その活躍が期待されています。当薬剤部の理念『患者に寄り添い、適正かつ安全な薬物療法の支援を実施し、良質な医療の提供に貢献する』を掲げ、セントラル業務のみならず各病棟に複数名の薬剤師を配置(常駐)し、認定(専門)薬剤師を中心とした薬剤師間での討議を行いながら、医師や他職種と協働した薬学的管理を行っています。

各種専門・認定薬剤師の育成支援、薬科大学学生の実務実習施設として薬学教育にも力を注いでおり、日本病院薬剤師会より、がん薬物療法認定薬剤師研修事業「暫定研修施設」、HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設(～2030年3月31日)日本医療薬学会より、がん専門薬剤師研修施設(基幹施設)(～2030年3月31日)、薬物療法専門薬剤師研修施設(基幹病院)として認定され、薬剤師の研修・育成施設と取り組んでいます。

### ■業務内容

#### 【調剤業務】

医薬品の量や相互作用などの確認、年齢・肝機能・腎機能の状態から用法用量の調節に対する提案等を行いながら、患者さん一人一人が安心・安全に薬物治療を受けることができるように努めています。

#### 【注射業務】

部門システムよりアンブルピッカー(注射薬自動払出装置)による注射薬の取り揃えを行っています。投与方法、投与間隔、投与量及び投与速度、混合時の安定性や配合変化、他の医薬品との相互作用、取り揃えられた注射薬に間違いがないかを確認し、患者さん毎に注射カートにセットしています。

#### 【抗がん剤・TPN無菌調製業務】

入院及び外来の抗がん剤については、レジメンチェックによる投与量・投与スケジュール等の確認を行い、無菌調製室に設置している安全キャビネットにて調製を実施しています(土日祝日を含め、薬剤部調製100%)。また、既製品で対応できない特殊疾患にTPN(Total Parenteral Nutrition)製剤もクリーンベンチ内で調製しています。

#### 【製剤業務】

診療上必要であるにもかかわらず適切な医薬品が製造されていない場合や、調剤業務の効率化及び迅速化を図るために院内において薬剤師が調製するものです。調製方法・保管方法などを十分に検討し、安全な製剤として提供できるよう努めています。

#### 【医薬品情報管理業務】

医薬品に関する各種情報の収集・提供・管理を行っています。定期的な情報発信の他に製品の中止・回収、厚生労働省プレスリリース等の突発的な情報場合は、迅速な情報提供を行います。

#### 【病棟関連業務(薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務)】

当院では病棟に担当薬剤師を配置しています。

薬剤管理指導業務では、入院患者さんのベッドサイドにお伺いして、服薬指導として患者さん一人ひとりのお薬の内容を確認し、正しい飲み方や注意点の説明を行うとともに相互作用や副作用等の状況把握を行っています。病棟薬剤業務では、入院患者さんの持参薬

及び服薬状況等の確認や医薬品投与前における説明、投与量の確認、処方提案なども積極的に行い、医師や看護師といった他職種と連携しながら治療のサポートを行います。

#### 【外来化学療法業務】

外来化学療法室で抗がん剤の投与が行われている患者さんに対して、医薬品の説明、投与スケジュール、想定される副作用の初期症状と発現時期等について指導を実施しています。現在5名の認定等取得しているがん関連において専門性の高い薬剤師が対応しております。

#### 【PASPORT(患者入院支援・周術期管理チーム)業務】

PASPORT(患者入院支援・周術期管理チーム)は、入院決定時から患者さんとの関わりをもつことで、安心して入院の準備が出来るようにそれぞれの医療専門職が支援を行うものです。薬剤部では、手術予定の患者さんに対する服薬状況やアレルギーの確認と手術前中止薬に対する中止時期の確認・指導を行っています。

#### 【薬業連携の取り組み】

外来化学療法における周辺の薬剤師会の皆さまの協力・連携のもと、薬剤師の質の向上と交流を目的とした活動(WEB 研修)を年2回行っています。

#### 【各種認定・専門薬剤師取得者一覧】(2026年度)

<がん・ゲノム>				
日本医療薬学会	がん指導薬剤師	高田 遼		
	がん専門薬剤師	高田 遼		
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療専門薬剤師	藤田 恵一	藤原 未稀	安岡 悠典
日本人類遺伝子学会	GMRC	中山 やちよ		
<感染・HIV>				
	感染制御認定薬剤師	高橋 俊樹		
	HIV感染症薬物療法認定薬剤師	野田 綾香	河野 泰宏	安岡 悠典
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	濱野 有里	辻 和美	
<周術期>				
周術期管理チーム認定制度	術後疼痛管理研修受講	宮武 未来	高橋 俊樹	河野 泰宏
	周術期管理チーム認定	宮武 未来	高橋 俊樹	河野 泰宏
<NST>				
日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士	船隠 恵子	渡邊 江未	
	40時間実地修練修了者	船隠 恵子	渡邊 江未	高橋 俊樹
<薬学・学生教育>				
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	濱岡 照隆	中野 良	中山 やちよ
		濱野 有里	船隠 恵子	高橋 俊樹
		河野 泰宏	平田 真琴	
日本医療薬学会	指導薬剤師	高田 遼		
	医療薬学専門薬剤師	高田 遼		
日本病院薬剤師会	薬学認定薬剤師	岩村 雪菜	高田 遼	高橋 俊樹
		河野 泰宏	安岡 悠典	平田 真琴
		濱岡 照隆	宮武 未来	中山 やちよ
日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	濱野 有里	船隠 恵子	河野 泰宏
<小児・アレルギー>				
日本小児臨床薬理学会	小児薬物療法認定薬剤師	上野 杏菜	宮武 未来	
		渡邊 江未	辻 和美	
アレルギー疾患療養指導士認定機構		アレルギー疾患療養指導士		
		渡邊 江未	辻 和美	
<循環器・内分泌>				
糖尿病療養指導士認定機構		糖尿病療養指導士		
		中野 良	岩村 雪菜	
<その他>				
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	濱野 有里		
日本アンチドーピング機構	スポーツファーマシスト	濱岡 照隆	中野 良	上野 杏菜
		宮武 未来	河野 泰宏	



## 臨床検査科

臨床検査室の国際規格である「ISO 15189(臨床検査室-品質と能力に関する要求事項)」の認定を2025年2月1日に更新しました。  
本認定により品質マネジメントおよび技術能力の基準を満たしている証となり、当科の検査報告書は国際的に適用されることが保証されています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

臨床検査科は、検体検査室(血液検査、一般検査、生化学・免疫検査、輸血管理室)、細菌検査室、病理検査室、生理検査室より構成されており、正確で迅速な検査結果を報告出来るように日々努力しています。

それぞれの検査室で手術前後の評価や病気の診断、治療の効果判定などを目的として検査を行っています。また、感染制御チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、糖尿病教室等にも参画し、医師、看護師などの他職種と連携をし、チーム医療の一端を担っています。

夜間、休日においても必要な緊急検査等を24時間体制で対応しています。

### ■業務内容

#### 【検体検査室】

患者さんから採取された血液や尿等を用いてその成分を調べます。

- 血液検査:血液の中の細胞の数や種類を調べることで、貧血や白血病等の血液疾患を見つけ出し、標本を観察しています。

- 一般検査:尿の成分や便潜血、髄液検査など主に血液以外の検体の測定を行っています。
- 生化学・免疫検査:血液や尿等に含まれる蛋白・酵素・脂質・糖・ホルモン・腫瘍マーカー・感染症等の測定を行っています。
- 輸血管理室:輸血のための血液型・不規則抗体検査、交差適合試験等を行っています。血液製剤の一元管理も行っています。

#### 【細菌検査室】

感染症が疑われる患者さんの尿、痰、便など各種の材料を用いて、病原菌の同定や薬が効くか効かないかという薬剤感受性検査等を行っています。

#### 【病理検査室】

患者さんの病変部から採取された組織や細胞を観察して、腫瘍の有無や良性・悪性の判断を行っています。

#### 【生理検査室】

直接、患者さんを検査し心臓や脳、筋肉などの動きを電気的にとらえて波形として表したり、体の内部の状態を超音波を利用して画像化して観察しています。



## 放射線技術部門

チーム医療を実践し、患者サービス向上を目標として努力していきます。

### feature & contents

#### ■部門の特徴

放射線技術部門には診療放射線技師21名が在籍しています。診療放射線技師は、エックス線検査、CT検査、MRI検査を中心とした画像診断の他、放射線治療や、放射性医薬品を用いて診断する核医学検査を担当しています。当部門では患者さんに優しく、医師に的確な医療情報を提供するため、チーム医療の実践、さらなる患者サービス向上を目標として日々努力しています。

#### ■業務内容

放射線技術部門では、我々診療放射線技師が、エックス線検査、CT検査、MRI検査、血管撮影、核医学検査の各検査および放射線治療を担当し、放射線技術の専門家としてチーム医療の一翼を担っています。乳腺撮影ではマンモグラフィー検診精度管理中央委員会の認定施設であり、同委員会認定技師が中心となって乳房撮影を担当しています。放射線治療では放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士等の有資格者が、高度な放射線治療技術であるIMRT等の治療、精度管理に努めてい

ます。そして、3テスラMRI装置、PET-CT装置など高精度医療機器を備え、院内検査のみならず、地域医療の一翼を担っています。

また、当院では人材育成に力を入れており、国内外の学会、研修会等に積極的に参加して、個々の技術を向上することで検査の質を担保し安全安心な医療を提供できるよう日々研鑽しています。



## リハビリテーション科

地域から信頼され、組織の期待に応えられるリハビリテーション科を目指して、高い臨床力と経営力のあるリハビリテーション体系の発展に取り組んでいます。

### feature & contents

#### ■部門の特徴

##### ■目標

- ①患者に寄り添い、患者中心の質の高いリハビリテーションの提供
- ②適正かつ健全なリハビリテーション運営を通じた病院経営への貢献
- ③安心して働ける公正な職場環境づくり
- ④持続可能な組織づくりを見据えた人材育成

#### ■業務内容

リハビリテーション科医長を筆頭に、理学療法士14名、作業療法士10名、言語聴覚士2名、助手2名の計28名で構成され、日々の業務に取り組んでいます。

主な対象疾患は、人工関節置換術後、脊椎疾患、骨折などの運動器疾患ですが、呼吸リハビリテーションや心臓リハビリテーション、廃用症候群への対応をはじめ、小児・新生児のリハビリテーションや、がん患者のリハビリテーションにも積極的に対応しています。運動器疾患や術後早期の患者様に対しては、土日祝日を含めたりリハビリテーションを提供しています。また、他職種との連携を重視し、領域ごとに定期的なチームミーティングやカンファレンスを実施することで、チーム医療のさらなる充実に努めています。



## 栄養管理室

安心・安全な食事提供の為に衛生管理の知識や技術の向上をはかり、季節の食材や行事を大切に「楽しみにしていただける食事」の提供を目指しています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

栄養管理室は、管理栄養士、調理師(写真①)、給食委託会社が協力し、入院患者さんに食事を提供する給食管理業務と治療継続に必要な栄養管理を行うための栄養指導等の臨床業務を行っています。

給食管理業務においては、食材の鮮度を保ちながら安全に殺菌できる「電解水生成装置」を使用し、昆布や鰹の出汁を使用する、手が自由に使えない方には一口大にカットした食材を串にさして提供する、魚は骨とり魚を使用するなどの工夫をしています。また、季節ごとの行事食(写真②③④)や出産祝膳の提供、手作りおやつ提供のほか、毎週水・木曜日にセレクトメニュー(写真⑤⑥⑦)、毎週月・火曜日に特別メニュー(写真⑧⑨)の提供も行っています。お食事についてご質問、ご意見などございましたら病棟担当管理栄養士へお気軽にお声かけください。

臨床業務においては、医師・看護師・管理栄養士・メディカルスタッフが連携して栄養管理が必要な方には「栄養管理計画書」を作成し、病棟担当管理栄養士が、摂取が十分でない方へ提供している食事の変更や栄養補助食品による不足栄養素の補給の提案などを行っています。また入院・外来個人栄養指導や集団指導、各種のチーム医療活動への参加を通して患者さんの栄養状態改善・向上へ貢献できるよう積極的に取り組んでいます。

### ■業務内容

#### 【給食管理業務】

「見て・食べて・聞いて・実践!!」をスローガンに退院後の食生活への参考にしていただけるよう、栄養指導時の提案内容を具現化した食事提供を目指しています。

毎週月・火曜日夕食に実施している特別メニューは3名の調理師それぞれが工夫を凝らしたこだわりメニューを提供し、患者さんにも「楽しみにしている」と好評を得ています。

小児科病棟での食物負荷試験食の提供や、離乳食から成人の食事も含め、卵、乳製品、小麦、大豆などの各種アレルギーの対応も行っています。

#### 【チーム医療活動】

##### ●栄養サポートチーム (NST)

食事摂取や栄養状態に問題のある患者さんについて、週1回カンファレンスとラウンドを行います。参加職種は医師、看護師、薬剤師、臨床検査師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士です。各職種の専門性を活かしながら、静脈栄養、経腸栄養を含め、一人一人の患者さんにあった栄養投与方法・内容や早期改善に向けた栄養療法の提案を行っています。定期的に情報交換、知識向上のためにNST委員会・勉強会を開催しています。

##### ●その他、チーム医療活動

その他、管理栄養士は病棟や診療科ごとに行われるカンファレンスや褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、摂食嚥下サポートチーム、認知症ケアチーム、PASPORT、糖尿病チーム、心臓リハビリテーションチーム、マタニティークラスに参加しています。多職種カンファレンスでは退院を見据えた栄養アセスメントを心がけています。またチームメンバーで分担する集団栄養指導では、疾病ごとに患者さんやご家族にとって身近な内容を選択し、患者さ

ん自身が実践できる食事療法の提案を行っています。

#### 【栄養指導】

##### ●入院・外来栄養指導

治療食を提供している患者さんには、入院時・退院時2回の栄養指導を行うことで、退院後の食生活を円滑にすごして頂けるよう取り組んでいます。

外来栄養指導では、当院に通院されている患者さんはもちろん、地域連携室を通して他院の患者さんの栄養指導も行っています。令和7年度は入院・外来を合わせて、1,520件の栄養指導を行いました。

#### 【食事相談】

入院中の患者さんには病棟担当管理栄養士が積極的にベッドサイドに伺い、アレルギーや食欲不振への食事提案など、患者さんの状態に応じた食事提供に努めています。特にアレルギーの聞き取りは、必ず栄養士が実施し、アレルギー除去と過剰除去の防止に取り組んでいます。



栄養管理室メンバー(写真①)



ひなまつり(写真②)

土用の丑の日(写真③)

世界糖尿病DAY(写真④)



夏野菜のキーマカレー  
セレクトメニュー(写真⑤)

醤油ラーメン  
セレクトメニュー(写真⑥)

あなご丼  
セレクトメニュー(写真⑦)



特別メニュー(写真⑧)

特別メニュー(写真⑨)

## ME管理室

医師・看護師・他職種スタッフとチームを組み、高度医療の提供に全員で日々努力しています。

# feature & contents

### ■部門の特徴

私たちは、医師の指示の下、呼吸・循環・代謝といった機能を代行したり、補助したりする装置「生命維持管理装置」の操作及び保守点検を業務としています。

臨床工学技士は医療・工学両方の知識を持つ職種であり、当院では手術室、ICU、NICU、心臓カテーテル室などの現場で活躍し、医師・看護師・他職種スタッフとチームを組み、高度医療の提供に全員で日々努力しています。

### ■業務内容

#### 【機器管理】

ME管理室では輸液ポンプ、シリンジポンプなど中央管理を行い、日常点検及び定期点検を実施しています。NICU部門では保育器、生体情報モニタ、体表冷却装置、眼底カメラ、レーザー治療器の点検を行い、手術室部門では内視鏡装置、麻酔器、電気メス、除細動器などを点検しています。

#### 【人工呼吸器業務】

安全に人工呼吸器を使用していただくため巡回点検を行い、医師との連携のもと設定の変更等に携わっています。また、2013年よりRST(呼吸サポートチーム)が発足され、医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士など他職種スタッフと協力して定期的なラウンドや症例検討を行っています。様々な視点から人工呼吸器を使用している患者様のサポートを行い、より良い医療の提供に日々努力しています。

#### 【内視鏡業務】

内視鏡室スタッフと連携し、カプセル内視鏡のセッティングや、EMR(内視鏡的粘膜切除術)、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)などの介助、処置具の操作等を行っています。その他にも、内視鏡装置や電子スコープ、洗浄機の点検、保守管理、トラブル対応を行っています。

#### 【循環器業務】

心臓カテーテル室でポリグラフを操作し生体情報のモニタリングや記録、血管内超音波(IVUS)、のセットアップ計測等の操作等、周辺機器の操作を行っています。その他、ペースメーカーが植え込まれている患者様の管理と手術の立ち会い、外来部門でのペースメーカーチェックを行っています。

#### 【血液浄化業務】

当院ではCHDF(持続的血液濾過透析)、エンドトキシン吸着療法(PMX-DHP)、G-CAP(顆粒球吸着療法)、L-CAP(白血球除去療法)、CART(腹水濾過濃縮再静注法)を行っています。

#### 【手術室業務】

手術室では、毎日手術前および手術中ラウンド点検を行い、各部署の機器の設定・動作確認、電源容量を確認し手術の安全性の向上に努めています。また、電気メスや内視鏡装置などME機器全般の点検を行い、機器の安全管理にも努めています。その他にも手術支援ロボットの導入から手術中のトラブル対応、整形外科手術での自己血回収装置、術中神経モニタリング、ナビゲーションシステムの操作、必要時にはイメージ操作補助を行っています。

#### 【NICU業務】

人工呼吸器のラウンド点検、回路更新、NO吸入療法や脳低体温療法などの補助業務を行っています。また在宅での治療を受ける患者様への支援として人工呼吸器、パルスオキシメータ、吸引器などの機種選定から使用法の説明まで幅広く取り組んでいます。

#### 【その他の業務】

経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)に使用する装置を医師の指示の下操作、補助を行っています。

#### 【勉強会】

医療機器の講習会、新規導入機器の勉強会を実施しています。また入職者や看護部を対象にした医療機器教育にも取り組んでいます。



# 部門紹介

## 臨床研究部

倫理性、科学性、透明性、質の高さを重視しながら、病院内で、あるいは、院外の他施設と共同で、多くの分野で医療の進歩に貢献すべく臨床に密接した研究を行っております。

## feature & contents

### ■ 部門の特徴

国立病院機構の持つ使命には、

1. より質の高い医療の提供
2. 次世代を担う医療人の教育
3. 臨床研究を通じた医療の進歩に貢献

という3つがあります。

病院内に設置された、臨床研究部は倫理性、科学性、透明性、質の高さを重視しながら、病院内で、あるいは、院外の他施設と共同で、多くの分野で医療の進歩に貢献すべく臨床に密接した研究を行っております。

当院の臨床研究部は2004年に開設されましたが、がん診療、骨・運動器、成育の分野を中心とした研究のみならず、消化器系、呼吸器系、循環器系などの領域においても臨床研究を展開しております。

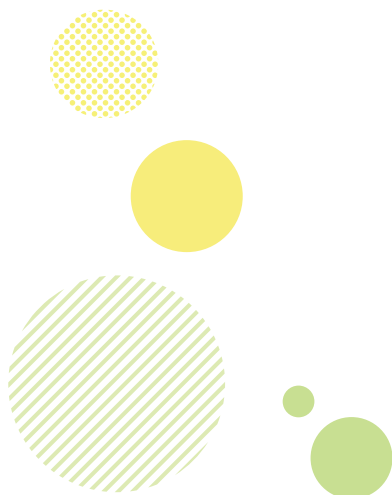
どうぞ、今後とも福山医療センターの臨床研究部にご期待ください。

### ■ 業務内容

国立病院機構の臨床研究部は医療の進歩に貢献すべく、20以上の分野に分けて多施設共同研究やEBM研究を推進しています。当院の臨床研究部は2004年4月に院内標榜として開設され、2008年4月には国立病院機構内において正式な研究部として認められ、今日に至っております。従来、福山医療センターは政策医療として、癌、骨/運動器、成育の分野で高度な医療を実施していましたが、現在は、当院の歴史をふまえつつ、更に消化器、呼吸器、循環器、感染症などの領域においても臨床研究活動を展開しております。医師を始め、各部門から学術委員を選出して23人と事務局で構成されていますが、組織図もHPに記載しておりますので、ご覧ください。当院の特色として、臨床研究は医師のみならずあらゆる職種に開かれており、病院全体として全国学会での発表が年々増加しております。また、国際学会での発表も着実に増えており、今後、更なる情報発信と福山医療センター発のエビデンスの創生が期待されています。

昨年はコメディカル部門でも薬剤部で英語論文の発表もありました。ただ、今後の課題として当院は論文発表が少ないため研修医を含め医師、その他の職種での論文発表を促して行きたいと思えます。

また、院内に設置された倫理審査委員会は臨床研究の開始にあたり、その倫理性、科学性、質の高さ、実行可能性、また透明性を担保するために活動しております。さらに、倫理審査委員会は医療倫理に関する現場の課題も取り扱っており、患者さんとそのご家族のために公明正大な医療が実現できる体制を整えております。ロボット手術導入を契機に2024年1月からは新技術導入、保険適応外使用、臨床現場における倫理的課題など臨床上の課題を審査する臨床倫理審査委員会も開催して審議を行っております。



## がん診療部

がんの診断・治療からその後の生活まで、患者さんに寄り添う、切れ目のないがん診療の充実を目指しています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

がん診療部は、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画に沿って、2007年9月に設立して以来、活動を続けています。その活動により、当院は、2010年4月、広島県から「がん診療連携拠点病院」に指定され、2020年4月に、厚生労働省指定の「地域がん診療連携拠点病院」に昇格することができました。がん診療のそれぞれの局面を担当する、化学療法室運営委員会、緩和ケア委員会、がん相談支援センター、がん登録委員会、および、地域医療連携室の各部門が、毎月一堂に会し、情報共有と目標設定を行っています。さらに、がんゲノム医療に対応する、遺伝子診療推進委員会を、2019年1月に発足しました。

年に1回、市民公開講座を行っており、2026年2月には、ロボット消火器がん手術をテーマで開催し、2023年に新規導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」について紹介しました。

### ■業務内容

#### ●化学療法室運営委員会

外来化学療法室の効率的な運用を行います。抗がん剤の誤投与や過剰投与を防ぐために治療内容(レジメ)の管理を行い、医師の処方最終的な監査を行います。新たな分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤の導入も管理しています。

#### ●緩和ケア委員会

緩和ケアチームが病棟回診を行い、鎮痛薬の管理を行います。患者さんの悩みのスクリーニングを行い、患者さんが憩えるがんサロンも開催しています。がんの手術後に発生するリンパ浮腫には、専門外来で対応しています。年に1回の緩和ケア研修会を担当し、2025年9月に開催しました。

#### ●がん相談支援センター

患者さんから、さまざまな相談をうかがい、それぞれに応じた対応策を提供します。就労支援や、職業との両立支援も行っています。AYA世代のがん患者さんの妊孕性温存に対応するワinstop窓も整備しました。

#### ●がん登録委員会

院内がん登録を、もれのないように行います。データは、広島県腫瘍登録委員会を通じて、厚生労働省に報告し、施策に生かされています。周辺の病院との比較など、フィードバックされたデータは、当院のホームページに、随時、掲載しています。

#### ●地域医療連携室

治療後の、転院支援、在宅サービス支援、社会復帰支援を行います。医療費や生活費に関する経済的支援についても、相談いたします。

#### ●遺伝子診療推進委員会

2021年4月に、岡山大学病院のがんゲノム医療連携病院の指定を受け、最先端のがんゲノム医療を実現できるようになりました。



# 部門紹介

## 広報部

人材交流・地域医療連携を密とするための情報を集約し、統括することによって効率よく対外的に発信することを目的としています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

2013年11月、当センターにおいて、広報委員会が設置されました。人材交流・地域医療連携を密とするための情報を集約し、統括することによって効率よく対外的に発信することを目的としています。これにより「高度医療を確実にやっている」「敷居が高くなく、誰にでも親しみやすい」という病院のイメージを作り、地域に貢献する医療機関として活性化を図ります。2025年1月から新メンバーとなり更に広報活動に力を入れています。

### ■業務内容

#### ①広報誌「福山医療センターだより」発行(毎月15日頃)

他院の広報誌と違い、診療情報や医療の話題だけでなく文化の薫りのする広報誌をコンセプトに院内配布(患者さん含む)並びに地域連携病院や全国の関係機関にも無料郵送しており好評を博しております。尚、バックナンバーはホームページでも閲覧できますのでご参照ください。

#### ②ホームページの整備更新を行いました。

若い世代をターゲットとして、スマートフォンやタブレット端末から、より新しい情報を迅速に獲得しやすいコンテンツにしていきます。またGoogleストリートビューにも病院建物内の案内を掲載し、利便性を向上させております。掲載情報も随時更新して参ります。

#### ③人材交流・地域医療連携に関する情報発信の広報業務

医学生、看護学生等への説明会、実習生や見学者に対する意見交換会などを積極的に行い、高校生を対象にした医療体験セミナーやふれあい看護体験、他施設への訪問などを行っています。マスコミ(テレビ、新聞、Community誌など)と連携し、連載番組や定期的な記事、臨時トピックス的なニュースを迅速に発表しています。コロナが明けて市民公開講座や各研究会も行っており、支援したいと思います。今後も市民公開講座や各研究会、オープンカンファレンス等も行っており、支援したいと思います。

#### ⑤当院でもインスタグラムを開業いたしました。

タイムリーな話題を提供いたして参りますので、是非フォローになって下さい。



nho\_fukuyama



広報誌「福山医療センターだより」



## 救急医療部

福山府中圏域における空床確保病院として、限られた人員の中でも地域医療に最大限貢献できる様、日々努力を続けています。

# feature & contents

### ■ 部門の特徴

当院は福山府中圏域の二次救急受け入れ基幹病院としてあらゆる疾患を総合的に受け入れており、その数は1年間に病院全体で救急搬送約2,100件、軽症者を含めた救急患者は約5,000件に上ります。平成28年4月より当院は福山府中圏域における受け入れ困難患者を受け入れ二次輪番病院のバックアップ病院としての役割を果たす空床確保病院として指定を受けました。搬送数増加を続ける圏域の救急医療情勢の中で、二次輪番病院にもご協力いただきながらなんとかこれに当たっている状況です。一般成人の救急搬送は、月に2回の日曜及び祭日の当番日(二次輪番日)を含め毎日の症候別搬送による救急搬送に常時受け入れ態勢を整えており、二次輪番病院、近隣の開業医、福山夜間診療所等からの救急依頼に常に対応しています。小児救急においては輪番による救急当番日は無くなりましたが、当院かかりつけ患者を中心に急変時対応を継続中です。また小児の外科的治療にも対応すべく小児外科医も当直・拘束体制に参加しています。産婦人科領域では県指定の東部周産期母子医療センターの使命に応えるべく、こちらも常時産婦人科医が拘束体制を組んで対応しています。加えての空床確保要請患者への対応は時に我々のcapacityを超えご期待に応えられない事態も起こり得ますが、そういった中でも限られた人的資源の中でより有効かつ円滑に救急患者の受け入れができるように日々試行錯誤を重ねながら改善に努めております。当院では救急医療委員会を月に1回開催し、院内各種専門職、消防署救急担当者を交えて救急患者の応需率や受け入れ困難事案の具体的な事例検討、現状を把握した上での問題点とその対策等の話し合いを行っています。圏域の救急医療において当院の果たすべき役割を理解しさらに地域に貢献できるよう活動していく所存ですが、1施設で解決できる問題には限りがあり保健所・医師会を含め他施設のご協力が必要不可欠と考えます。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

### ■ 業務内容

当院では平成29年7月に管理棟の新築に伴い従来の約2倍の広さの救急外来診察室となり、備品等のハード面も整備され充実した受け入れ体制が整いました。有事に備えて陰圧室を2室完備しておりましたが、コロナ禍においてこの2室を最大限活用し、導線の分離と院内への感染持ち込み防止に配慮しながら日常の救急業務に当たっています。また救急の初期対応を担う初期研修医や後期研修医も着実に増員しており、内科系・外科系・ICU・産科系・小児科系の各1名の当直(産科系は現在宅直となっております)に加えて、研修医が常時1~2名当直できる体制となりました。平成28年4月より福山府中圏域における受け入れ困難患者を受け入れ、二次輪番病院のバックアップ病院としての役割を果たす空床確保病院として指定を受け、当圏域における受け入れ困難事例(いわゆるたらい回し事例)の減少に微力ながら尽力しております。特定の診療科ではman power不足も顕在化してきており全てを賄うことは困難を極めておりますが、今後さらに多くの救急患者を円滑に受け入れることができるように体制を整えていきたいと思っております。当院の救急医療委員会で取り組んでいる内容を紹介します。

- ① 時間外選定療養費の導入(平成23年6月)
- ② 救急当番回数増加に対するマンパワーの配置
- ③ 救急医薬品の整備
- ④ 救急救命士の再教育研修受け入れ、気管挿管実習受け入れ
- ⑤ 地域協議会との調整、連絡
- ⑥ 現場トラブル事例の見直し
- ⑦ 救急車応需率、他院紹介患者応需率、輪番日・空床確保患者応需率の見直し
- ⑧ 救急外来診察室の適切な運用(ゾーニング等)や整備
- ⑨ 病院救急車の管理・運用と積極的な活用の促進 など。

# 部門紹介

## 感染制御部

感染制御部は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師より構成されており、各職種の専門性を生かし、感染対策の専門家集団として、院内はもとより地域における感染対策の司令塔的役割を担っています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

感染制御部は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師より構成されており、各職種の専門性を生かし、感染対策の専門家集団として、院内はもとより地域における感染対策の司令塔的役割を担っています。

### ■業務内容

#### 【院内感染防止対策】

感染対策は、医療機関に関わる全ての人が行わなければならない行為です。そのために当院では感染症専門医・指導医、感染管理認定看護師、感染症・抗菌療法に精通した抗菌化学療法認定薬剤師、微生物検査室専従の検査技師から成る感染制御チーム(Infection control team; ICT)が、院内で活動しています。ICTメンバーが集まり、院内感染対策指針・感染対策マニュアルの作成・改訂業務や、チームによる病院内の各部署・臨床現場のラウンドを毎週行い、感染防止対策に取り組んでいます。また各種サーベイランスの実施、院内の感染症発生動向の把握、アウトブレイクの早期発見と対策の立案・実行を行います。さらに職員の教育・指導のため、院内向けの感染対策に関する講習会を定期的に行い、感染症診療に精通した著名な医師や各職種の方々をお招きし、院内外向けにオープンカンファレンスを開催しております。

#### 【抗菌薬適正使用】

当院ではICTと同じコアメンバーから構成される「抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team; AST)」も活動しています。抗菌薬適正使用支援チームは週2回カンファレンスを行い、血液培養陽性例・耐性菌検出例・広域抗菌薬の長期使用例・重症難治性感染症例について、抗菌療法に精通した薬剤師を中心に各職種が意見を出し合い、抗菌療法が正しく行われているか検討を行っています。抗菌薬適正使用支援チームが目指すのは、抗菌薬の正しい使い方による治療効果の向上だけでなく、医療経済性をも保障し、さらには耐性菌の増加にも歯止めをかけることにあります。また、地域レベルでの感染対策の充実と抗菌薬の適正使用の推進を図るため、地域の医療機関と連携し合同カンファレンスの開催やコンサルテーションも実施しています。薬剤耐性(AMR)対策を推進するため、WHOが提唱する「AWaRe分類」に基づき、副作用や耐性菌のリスクが比較的低い「Access抗菌薬」の使用を促す目的で、抗菌薬適正使用体制加算が2024年度の診療報酬改定により新設されました。加算の取得要件は、直近6か月間の外来(経口・注射)抗菌薬使用のうち、Access抗菌薬の割合が60%以上、またはサーベイランス参加施設の中で上位

30%以内であることです。当院でもこの加算取得を目指し、院内の抗菌薬適正使用支援を推進していきます。

#### 【新興感染症に対する感染対策】

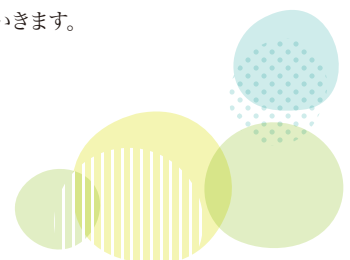
2020年以降、現代における未曾有の災害ともいえるCOVID-19のパンデミックを経験し、当院感染制御部ではコロナウイルスへの感染対策に力を入れ対応してきました。地球温暖化、グローバリゼーション、インバウンド需要の増加などを受け、これからも様々な新興感染症が発生する近年では、当院が広島県東部地区の基幹病院として果たす役割は大きいと考えます。今後も新興感染症が発生した際には、広島県等からの要請を受け、速やかに対応できる体制を維持していきます。

#### 【感染対策における地域連携】

当院では定期的に年に4回、感染対策連携強化加算を取得している地域の医療機関と合同カンファレンスを開催し、各施設で発生した感染対策における問題について話し合いを行っております。また連携施設である病院やクリニックへの訪問指導を定期的に行い、各医療機関や施設で院内クラスターなど問題が発生した際には、当院の感染管理認定看護師や医師が感染対策の現場指導に出向いております。

#### 【感染対策に関わる医療スタッフの育成】

当院の感染制御部の役割として、広島県東部地区における感染対策に関わる医療スタッフの育成にも力を入れています。2019年度より当院は日本感染症学会の専門医制度における認定研修施設に認定されました。これにより当院で研修を行い、必要な症例数を経験し、専門医試験に合格することで感染症専門医を取得することが可能です。当院で研鑽を積まれた若手医師1名が感染症専門医を取得し、臨床でご活躍されています。また感染管理認定看護師、抗菌化学療法認定薬剤師、日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師、日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師およびHIV感染症専門薬剤師、日本エイズ学会認定医および認定看護師の資格取得も支援しています。感染対策活動を通して患者さんに安心・安全な医療を提供することを目標にこれからも活動していきます。



## 治験管理室

当院治験管理室は、新規医薬品および医療技術の開発における重要な役割を担い、地域の皆さまが先進的な治療へ安全かつ適切にアクセスできる環境づくりを推進しています。近年は、がん領域をはじめ、神経疾患、希少疾患など多岐にわたる分野で革新的な治療薬が登場しており、これらの実用化には質の高い治験の実施が不可欠です。また、AI技術を活用した創薬研究の進展により、治験の重要性は一層高まっています。当院では、治験の適正かつ迅速な遂行、被験者の安全確保、医療者への支援体制の整備を重視し、治験実施に関わる全てのプロセスを統括しています。

内海肝胆膵外科医長を治験管理責任者として、日本臨床薬理学会認定CRCを中心に、看護師2名、薬剤師1人、事務職3名の体制で運営しています。各部門と連携しながら、倫理性・信頼性・透明性を確保した治験の実施に努めています。

当院治験管理室は、地域医療の発展と新規治療の創出に寄与するべく、今後も質の高い臨床研究の推進に取り組んでまいります。

## feature & contents

### ■部門の特徴

医薬品・医療機器として新たに使用するには、安全性や有効性を確かめる試験を行い、厚生労働省の承認を得る必要があります。この承認を得るための臨床試験を治験と言います。治験には健康な方を対象にした主に安全性の調査の第I相試験、少数の患者を対象にした主に使用量の調査である第II相試験、多数の患者を対象にした有効性と安全性の調査の第III相試験があります。海外では既に使用されている薬剤でも、日本では承認されていないことを「ドラッグ・ラグ」といい、大きな社会問題になっています。その為、日本の患者さんは諸外国に比べて最先端の治療を受けにくい状況が生まれています。国立病院機構では、機構本部に治験推進室を構え、政策医療ネットワークを活用して、入院治験をはじめとする難易度の高い治験を迅速で且つ高い質を保ちながら、新薬の誕生に携わっています。当院の治験管理室では、小児科、内科・消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、泌尿器科など全科にわたり多領域での治験を実施しています。毎月発行の医療センターだよりで随時、募集案内を掲載しています。興味のある方はお問い合わせ下さい。あるいは当院ホームページにも掲載しております。

### ■業務内容

【治験事務局・受託研究審査委員会事務局業務】

治験管理室内に治験事務局を設け、IRB(受託研究審査委員会)を毎月第2木曜日に開催しています。当院で行われる治験、臨床研究はIRBまたは倫理委員会の審議を経て実施されています。IRBの構成委員は院内の医師、薬剤師、看護師、事務職だけでなく院外の弁護士、学識

経験者などの非医療専門委員にも加わって頂き、安全性や有効性だけでなく、倫理的な審査も行っております。

【CRC業務】

臨床研究コーディネーター(CRC)は、安全かつ信頼性の高い治験を進められるよう患者さんへの説明補助やヒアリング、スケジュール調整等を行うほか、医師・看護・薬剤・検査等の関係部署との業務共有、製薬企業との窓口及び契約業務等を行っています。当院には3名のCRCのうち1名は日本臨床薬理学会認定CRC資格者が在籍しております。

【治験啓発活動、臨床研究推進活動 等】

治験の啓発活動として治験研修会や学会報告等を行っています。その他、機構本部の医師主導治験、共同研究、受託臨床研究、財団やJCOGなどの臨床研究もサポートしています。JCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)とは、国立がん研究センター研究開発費(旧がん研究助成金)研究班を中心とする日本を代表する共同研究グループで、がんに対する標準治療の確立と進歩を目的として様々な研究活動(多施設共同臨床試験)を行っています。当院では乳がん胃がんグループに参加させて頂いております。



## 医師業務支援部

「福山医療センター」を快く御利用いただけるよう日々業務に励み、向上心を忘れず頑張っています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

平成20年厚生労働省の診療報酬改定に伴い『医師事務作業補助者』という職務が誕生しました。負担が大きい医師の事務的業務を補助することによって、医師が本来の業務に専念し、より効率的な病院運営を行うことを目的としたもので、当院では平成22年7月、10名のドクターアシスタント(DA)としてスタートし、現在30名程度のスタッフが在籍しています。書類作成等の事務的業務の他に、電子カルテによる代行入力業務や、研究材料に必要なデータ収集等も行っています。患者さん側からは、目立った変化のない院内の様子かもしれませんが、「福山医療センター」を快く御利用いただける小さな力になりたいと、日々業務に励み向上心を忘れず頑張っています。

### ■医療関係者向け専門情報

平成22年7月よりスタートしたDAですが、厚生労働省より新設された職種のため業務内容も詳しく提示されておらず、見本や前例

がないため「何をしてもらうのか?」「何をすればよいのか?」と、当院も漏れなく毎日が試行錯誤でした。

病院での医療事務や医療クラーク経験者を僅かながら採用し、「医師の業務軽減を目指し、自分たちができること」から開拓してきました。医師の指示の下での事務作業代行が主な業務であるため、自己のスキルアップは欠かせません。疾患や検査、薬剤等習得すべき課題は多く、各診療科に所属し日々の業務の中で多職種間連携を図りながら、医師の負担軽減・質の高い医療提供に貢献するべく日々研鑽に努めています。

また、月に1回のDA全体ミーティングで、情報共有も行っています。



# 部門紹介

## 輸血管理室

輸血療法の安全性の確保、血液製剤の適正使用、有効利用の推進および副反応の把握と防止に努めています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

輸血管理室は、輸血療法委員会規程に沿い輸血療法の安全性の確保、血液製剤の適正使用、有効利用の推進および副反応の把握と防止に努めています。さらに「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤の使用指針」に準拠した輸血医療の質の向上と維持する管理体制を目指しており、平成24年6月より輸血管理料Iの施設基準を取得致しました。

福山医療センターでは、宗教等の理由により輸血を希望されない患者様及びご家族のお気持ちに配慮し、可能な限り輸血を行わない治療を致します。しかし、患者様の治療上、輸血が絶対に必要と判断した場合には、輸血を行います(相対的無輸血の方針)。但し、時間的余裕があり、この方針を受入れられない場合は転院をお薦めすることになります。

### ■業務内容

#### 1. 輸血関連検査

自動輸血検査機器を導入し、血液型、不規則抗体検査、交差適合試験、直接クームス、間接クームス試験等を実施しています。

#### 2. 輸血用血液製剤の管理

照射赤血球液、新鮮凍結血漿、照射血小板、自己血およびアルブミン製剤の必要数の確保および薬事法に準じた品質管理と適正使用に努めています。

#### 3. 輸血前検体保管管理、輸血後感染対策

輸血前検体を2年間保管することにより輸血後感染症の精査に対応しています。

#### 4. 輸血療法に関する安全への取り組み

・輸血療法委員会の開催(年6回以上)

## 歯科衛生室

口腔の健康は全身の健康の第1歩です。

全身の入口である「口腔」を適切に評価し、早期に質の高い口腔ケアを提供していきます。また病院から地域へつなぐ架け橋となるよう歯科医療連携推進に努めています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

近年、誤嚥性肺炎をはじめとする呼吸器感染症の予防や重篤な合併症を予防するため、医療の中でも口腔ケアの重要性は認識されてきました。当院は歯科の併設はありませんが、歯科衛生士が、個々の患者さんに合った口腔ケアだけでなく、必要な支援までの「オーラルマネジメント(口腔管理)」を行います。小児から高齢者まですべての方にオーラルマネジメントを実施し、また、病院から在宅までオーラルマネジメントが実施できるように地域歯科医療連携も行っています。

### ■業務内容

#### 1. 口腔ケアラウンド

日々の病棟ラウンドは、全科を対象に回っています。オーダーメイド(個別)の口腔ケアを提供しており、口腔衛生管理だけでなく口腔機能の維持・向上のため口腔トレーニング・摂食機能療法も実施しています。日常的な口腔ケアが徹底できるようセルフケア指導および看護師と連携しています。

#### 2. 周術期口腔機能管理システム(地域歯科連携)

がん治療をはじめとする全身麻酔下で手術を行う方には、術前歯科受診をしてもらいます。(全国でも先駆的に開始した当院のシステムは「福山モデル」と呼称されている)。現在、159件の歯科医療機関が参画しており、尾三地区や府中地区、井笠地区の歯科医院とも連携をしています。

#### 3. 口腔相談支援センター

入院患者のみならず、外来・地域の方に対しても、口腔に対する啓発を実施するために、無料口腔相談、イベントの開催、サロンの開催、院内掲示を実施しています。また、地域歯科医療者の教育を担うべく、研修会の開催だけでなく実習の受け入れもしています。

#### 4. 多職種連携&チーム医療

NST(栄養サポートチーム)・RST(呼吸サポートチーム)・HIV医療チーム・糖尿病センターのチーム・摂食嚥下サポートチームに参画しています。また、看護師との連携を強化するために、オーラルマネジメント委員会活動では院内の口腔ケアの質の向上に努めています。

#### 5. 地域歯科医療連携

当院は歯科を標榜していませんが、入院患者さんに早期に歯科治療が必要な場合は、地域歯科医療機関へ紹介を行っています。必要に応じて訪問歯科も依頼しています。また、退院後に継続的にかかりつけ歯科医院へ受診していただけるよう支援をしています。



## 医療安全管理室

医療安全は医療の質に関わる重要な課題であり、安全な医療の提供は医療の基本となるものです。

院長をはじめとする当院の職員全員が質の高い医療の提供と医療安全の推進に努めています。

## feature & contents

### ■部門の特徴

#### 1. 当院の医療安全管理室

医療安全管理室長(副院長)と医療安全管理部長(院長補佐)、専従の医療安全管理係長(看護師長)、医療安全専任の薬剤師、各部署の医療安全推進担当で構成され、安全な医療の提供のための様々な活動を行っています。

- 1) 患者誤認防止:フルネームで確認します。患者さんにもフルネームと生年月日を名乗っていただきます。
- 2) ダブルチェック:2名で行う『2人同時双方向型』、1人で行う『1人双方向型』を採用し安全に努めています。
- 3) 指差し声だし確認:安全確認行動を行っています。  
(何もしない場合に比べて誤りの確率が6分の1になると言われています)

私たちの安全確認行動にどうぞ患者さんもお参加ください。

#### 2. 患者相談窓口の設置

患者さんからの相談及び支援に適切に対応できるように『患者相談窓口』を設置しています。

#### 3. 患者さんも治療のために力を合わせるチームの一員です。

検査の結果を遠慮せず、必ず聞いてください。

### ■業務内容

福山医療センターは医療安全対策加算1、医療安全対策地域連携加算1の施設基準を取得しています。

医療安全対策の企画立案・実行・評価を含め、組織横断的活動を行います。

#### 医療安全管理体制の整備

1. 医療安全管理指針・規程の整備
2. 医療安全管理委員会月1回定期開催(臨時開催あり)
3. 医療安全カンファレンス週1回開催  
(参加者:医療安全管理部長、看護部長、事務部長、薬剤部長、医療安全管理専任薬剤師、医事専門職、医療安全管理係長)  
毎週30~50事例報告されるインシデントレポートから重要と思われる事例を選び、医療安全管理部門で共有し対策の提言を行っています。
4. 定期的に院内ラウンドを行い医療安全確保のための対策を推進しています。
5. 医療安全部会は院内各部署の医療安全推進担当で構成され、主にインシデント事例の評価や分析、再発防止策の検討を行っています。
6. 看護部会では「誤与薬」「転倒・転落」「生体情報モニター」の

小グループを結成して防止活動に取り組んでいます。

#### 7. 医療事故事例やインシデント事例を収集しています。

令和6年度のインシデント報告件数は1823件。報告部署別割合:医局 6.8%、看護部 78.9%、メディカルスタッフ 14.3% でした。当院は安全文化醸成のため報告し続ける文化(悪い情報並びに未然に防ぐことが出来た良い情報を報告する文化)を大切にしています。

また、インシデント報告は職員の善意に基づく自主的改善案として、医療安全管理室では間違いを発生させないシステム作りを努めています。インシデント報告は職員の善意に基づいており「報告したことを理由に不利益処分を行ってはならない」と医療安全管理規程に明記しています。

#### 8. 当院のヒューマンエラー事例分析手法はImSAFERを採用し、毎月1事例は検討会を行い改善に役立てています。

#### 9. 医療事故発生時の対応についてマニュアルの整備

#### 10. 医療事故報告体制の確保:医療事故情報収集等事業参加医療機関であり、日本医療機能評価機構への報告義務対象医療機関です。

#### 11. 職員教育:全職員対象参加必須研修会(2回/年)、他にも感染・医薬品・医療機器について実施しています。

#### 12. 2017年10月からRapidResponse System(院内急変対応システム)を立ち上げ稼働しています



# 部門紹介

## 診療情報管理室

診療記録の管理に努め情報を活用することで、医療の質向上や、より良い医療サービス還元の一助となるよう、日々業務に取り組んでいます。

## feature & contents

### ■部門の特徴

診療情報管理室は主に診療情報を扱い、それらの情報を管理・提供する部門です。当院は平成22年7月より電子カルテが導入され、より診療情報の活用が行いやすい環境となり益々情報の管理が重要となってきています。

また、当部門は診療情報を通して各部署と連携できる位置づけにあり、そのためにも正確でかつ内容の充実した診療記録の作成が求められます。

当部門の役割として診療記録の管理に努め情報を活用することで、医療の質向上や、より良い医療サービス還元の一助となるよう、日々業務に取り組んでいます。

### ■業務内容

当部門では、診療情報を活用し医療やマネジメントの問題点を改善することで、質の高い効率的な医療に繋げていくことを目標に掲げています。

近年では電子カルテなどのIT化やDPC導入に伴い、他施設間における疾患毎の診療情報の透明化が進み、自院の状況と比較することで診療の標準化や効率化に繋げることも可能となっています。

このような基準となる指標を用いることで客観的に自院の問題点を確認し、改善につなげられるような支援をすることも目標としております。そのためにも診療記録の管理が重要になってきますが、最終的には医療・経営や患者満足度などの質向上を目指し、業務に取り組んでまいりたいと考えております。



## 国際支援部 –Department of International Support–

外国人患者受け入れのための院内整備を中心に活動している部門です。2017年12月よりジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH) の一員として推奨を受け、2021年9月には外国人患者受け入れ医療機関認証制度「Japan Medical Services Accreditation for International Patients (JMIP)」の認証をうけ、さらなる病院の国際化に取り組んでいます。

## feature & contents

### ■ 部門の特徴

日本には数多くの外国人が居住しており、福山においても日常診療のなかで外国人患者に触れることが多くなってきています。新型コロナウイルスの影響による入国制限も緩和され、今後訪日外国人数も回復が見込まれます。

外国人患者が日本の医療機関で治療をうけるには言葉の壁・制度の問題・習慣の違いなど数多くのハードルが存在します。今後すすんでいく医療のグローバル化に対応するために、国際的な医療活動を支援する部門として「国際支援部」が2017年4月に設立されました。

外国人患者受け入れの体制を確立するため、「Medical Excellence Japan (MEJ)」が主催する「MEJフォーラム」に参加し、2017年12月、広島県で初めて「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH)」の推奨を受けました。これは渡航受診者の受け入れに意欲のある病院の受け入れ体制や取り組み、診断・治療の実績を調査し、所定の基準を満たす病院が推奨されるものです。

そして2021年9月には、広島県で初めて外国人患者受け入れ医療機関認証制度「Japan Medical Services Accreditation for International Patients (JMIP)」の認証を得ました。JIHは基本的にはインバウンドが対象ですが、当院の外国人患者は日本在住者がメインなので、当院の実態により即した客観的な指標はJMIPだと考えて認証を取得しており、院内表示の多言語化や通訳ツールの導入などをすすめ、2024年9月にはJMIPの更新認証も得ています。

地域に住む外国人患者も、福山を訪れる外国人患者も受け入れることが出来る病院を目指すために、病院全体として外国人患者の受け入れレベルを上げることを目標に院内整備に取り組んでいます。



### ■ 業務内容

#### 1. 外国人患者の受け入れ体制の充実

##### ● 通訳ツールの導入

2018年より電話医療通訳システムmediPhone(メディホン)を導入し、17言語の電話通訳に対応しております。2022年にはCOVID-19感染症外国人患者を念頭に、多言語翻訳機能を持つチャットも導入いたしました。また、簡易な日常会話の通訳に対応するツールとして多言語音声翻訳アプリVoiceTra(ヴォイストラ)も導入しています。院内には通訳に対応する5台のタブレット端末を常備しています。

##### ● 外国人患者受診時のサポート体制の構築

外国人の患者様が受診された際には、国際支援部のスタッフが医療スタッフのサポートを行います。

##### ● 院内表示の多言語化

院内表示を英語・中国語・ベトナム語の3か国語を用いた多言語表記としました。

手術・麻酔内容説明・同意書、特定生物由来製品に関する同意書(輸血同意など)、産婦人科領域の緊急手術説明・同意書など、外国人患者診療において使用頻度の高い書類について英語・中国語・ベトナム語の3か国語を用いた多言語化を行いました。現在も院内の多言語化を進めております。

当院では外国人患者様にやさしい病院を目指してさらなる院内の国際化を推進してまいります。病院の国際化は、院内はもとより地域の方々の協力なくしては成しえないプロジェクトであります。お力添えのほどよろしくお願い申し上げます。



# 部門紹介

## ワーク・ライフ・バランス部

生後2ヶ月~小学校6年生までの病児・病後児を対象とした病児保育室を再開しました。

今後も、働きやすい環境作りを目指していきます。

## feature & contents

### ■部門の特徴

ワーク・ライフ・バランス部は、2015年12月に女性医師支援部として設置されました。2018年大阪病院名誉院長清野佳紀先生がオープンカンファレンスで『12年間の医師の働き方改革が病院にもたらしたものー始まりは女性医師支援からー』を講演され、支援の対象は女性のみでなく、男性や職場全体である事が認識されたため、部の名称が2018年4月より女性医師支援部からワーク・ライフ・バランス部に変更されました。2019年11月30日に職員の子供を対象とした病児保育室を開設しましたが、新型コロナウイルス流行の影響で休室していました。同時にワーク・ライフ・バランス部も活動を休止していましたが、2023年4月より、病児保育再開および働きやすい環境作りを目指して、部会の定期開催を再開しました。委員会の構成員は、ニーズを把握するために医師・事務員のみでなく、各部署から推薦された看護師・薬剤師・検査技師等、多職種で活動しています。

### ■活動内容

杉の子保育園を利用する数名の保護者から、保育園に対して種々の問題提起があったため、保育園に要望を出して、一定の改善が見られました。2018年1月、医師全体に、育児・介護・ワークライフバランスに関するアンケート調査を行い最も要望の多かった病児保育の設置実現に向けて場所、小児科との連携、規約作成等について、委員会で協議を重ね、委員会で当施設の運用規則を作成しました。保険加入を済ませて、病児保育

室を2019年11月30日より開設致しました。2019年12月～2020年1月までに、3名の病児の利用がありました。その後、新型コロナウイルス流行のため病児保育室は休室していましたが、2023年4月より再開に向けて、保育士の確保および手順の見直し等を行い、2024年1月9日より、病児保育室を再開しました。2025年度は、コロナウイルス感染症の受け入れを開始し、病院職員に加えて派遣職員等へ対象を拡大しました。

病児の対象は職員の子供で生後2ヶ月から小学校6年生まで、保育時間は平日9時から17時までです。利用には前日15時までの利用登録が必要です。

今後も、病院の全職員がワーク・ライフ・バランスをとりながら働けるよう職場環境の改善を目指し、活動していきたいと思っています。



# 看護部紹介

## 看護部長・副看護部長・教育担当看護師長

地域の健康な生活を支え、かけがえのない生命を守り、親切・丁寧・安らぎのある看護を提供します。

## message



看護部長  
金子 眞由美



副看護部長  
仲田 雅江



副看護部長  
市楽 美千代



教育担当看護師長  
西川 梨沙

当院は「がん」「成育」「骨・運動器」を中心とした急性期医療を行うと共に、地域周産期母子医療センターとしての機能を果たしています。看護部の理念のもと、良質かつ安全・安心な看護を提供するために、患者さん一人ひとりを大切に思い、気持ちを受け止め、寄り添う看護を実践しています。学びあい育む風土を大切に、チーム力を高め看護に責任を持ち、地域の皆様に選ばれる病院でありたいと考えています。

看護部教育委員長として看護部の教育全般にかかわると共に、新採用者には職場適応の支援を行っています。ラダー別研修や新人フォローアップ研修、看護研究の企画・支援などを行いますが、すべては『安全安心な看護を患者さんに提供する』ことを目的としています。看護職員が日々の看護に意味付けをしながら質の高い看護を提供するためには、教育と実践の結びつきが必要です。教育の場を通して職員が共に学び合い、成長し合える風土を大切にしています。

## 認定看護師

### 感染管理認定看護師



片山 智之



門田 悦子

#### ■認定看護師としての活動

医療機関において患者さんが原疾患とは別に罹患した感染症を医療関連感染と言います。私たちはその医療関連感染から患者さんや医療従事者を守ることを目的に、医師・薬剤師・検査技師と共にチームを作り、協力しながら感染防止活動を行っています。私たちの具体的な活動内容は、感染防止のための院内ラウンドや体制整備の立案と実施、感染防止マニュアルの作成と改訂、全職員への感染防止教育と指導、感染防止対策上のコンサルテーション等です。また「サーベイランス」という継続的なデータ収集、分析、フィードバックという活動を通してアウトブレイクのモニタリングや院内感染を未然に防止することにも努めています。

#### ■地域医療への貢献

保健所及び地域の医師会と連携し、連携医療機関と合同で年4回のカンファレンスを開催し、情報交換や、必要時に院内感染対策に関する助言を行っています。また病院だけでなく地域からの要望に応じて、施設を訪問させていただきラウンドを実施して、感染対策に関する相談に応じています。

### 皮膚・排泄ケア認定看護師



濱田 裕江

#### ■認定看護師としての活動

皮膚・排泄ケア認定看護師は『創傷ケア』『ストーマケア』『失禁ケア』の3つの領域での役割を担っており、これらに共通するスキンケアを中心とした実践や看護師への指導などを行っています。

現在の主な活動は、褥瘡発生リスクの高い患者さんのラウンドと計画書の作成です。手術などに伴い床上安静が必要であるうえに、加齢に伴う皮膚の脆弱な患者さんが多いため、褥瘡を発生させないように病棟看護師とともに取り組んでいます。また、ストーマ造設患者さんが持つ問題を解決するため、入院前～入院中～退院後の外来フォローまで長期的に支援したり、担当する医師、看護師が情報共有できるようにと開催しているストーマカンファレンスの調整役など、皮膚・排泄ケアを必要とする患者さんの力になれるよう組織横断的に活動しています。

#### ■地域医療への貢献

地域の医療施設からの要望に応じて、褥瘡予防・治療のためのスキンケアや体圧分散など、実践を取り入れた研修会やストーマケアに関する講義、相談への対応を行っています。

### 緩和ケア認定看護師



山下 貴子

#### ■認定看護師としての活動

がんに伴う痛みや呼吸困難などさまざまな症状の緩和や心理的社会的な問題への支援が継続的に行え、がん患者さんとご家族のQOLが向上することを目指し、緩和ケアチームの一員として活動しています。

また患者さんやご家族は、がんの診断から治療方針の決定、治療の差し控え、療養場所の変更といったさまざまな場面で意思決定が求められます。認定看護師として、医師の病名告知や治療説明の場に同席しています。患者さんやご家族の理解度を確認し、必要時医師との橋渡しを行い、個々に合わせた意思決定ができるようにさせて頂いています。

院内の緩和ケア向上を目指し、緩和ケアリンクナース会を運営しながら、各部署での問題が解決できるように委員会で検討をしています。

#### ■地域医療への貢献

当院では毎年9月頃に医師を対象とした緩和ケア研修会を行っております。研修には看護師・薬剤師等医師以外の方にも参加していただいています。また、要望があれば緩和ケアに関する講演や研修会での講義も行っています。



### 摂食嚥下障害看護認定看護師



胡木 佳江

#### ■認定看護師としての活動

歯科衛生士・言語聴覚士と連携をとりながらオーラルマネージメントの知識の普及・看護師教育を行っています。栄養サポートチームに属し、患者さんの栄養についてチームで介入し栄養改善に向け関わっています。摂食嚥下サポートチームに属し、患者さんの嚥下評価や摂食訓練、食事形態などをチームで検討し患者さんが安全に食事ができるように関わっています。「食べる」ことを支える援助は、人の尊厳を保ち生きる喜びにもつながるものです。「食べる」ことを支え栄養状態の改善・維持ができるよう今後も組織横断的に活動していきます。

#### ■地域医療への貢献

院外での研修会や講演などの講師を行い、他施設の看護師・介護士等への教育も行っています。地域における看護師だけでなく多職種の方が摂食嚥下障害看護に関心を持ち、知識・技術の向上につながることを、そして患者への援助につながることを目指して今後も継続していききたいと思っています。

### 新生児集中ケア認定看護師



沖永 薫

#### ■認定看護師としての活動

NICUには早産児や低出生体重児、先天性疾患などのハイリスク新生児が入院します。私たちは、急性期にあるハイリスク新生児の身体的ケア、神経行動学的発達支援を行い、新生児が子宮外環境に適応できるように支援しています。新生児は自分の状態を「ことば」で伝えることが出来ませんが、表情やしぐさ、泣くことやバイタルサインの変化などで伝えていきます。新生児が発しているサインを読み取りながら、「今この児に必要な看護ケアは何か」「児にとって、よりよい方法は何か」を考え看護実践しています。また、突然の出産や児の出生後、状態が変化してNICUに入院となったご家族は、とても心配で不安を感じています。ご家族の思いに寄り添い、児の成長と一緒に喜びながら、退院に向けての育児支援を行っています。

#### ■地域医療への貢献

大学の看護学科や看護専門学校で講義を行っています。NICUは特殊な領域であり、実習できる施設は限られています。実習を積極的に受け入れ、机上だけでなく、実際の看護を目にすることで新生児の看護に興味を持ってくれる学生が増えています。

地域の産院・病院スタッフを対象に、医師と協同して新生児蘇生法講習会を開催しています。

### がん放射線療法看護認定看護師



塩村 理恵

#### ■認定看護師としての活動

放射線治療は、がん治療の中でも「体に負担の少ない治療」と言われており、多くの患者さんが選択され治療を行っています。放射線治療は、毎日治療することで最大の治療効果が得られ、期間は長い人で約2か月半ほどかかります。治療中の患者さんと関わる中で大切にしていることは、治療を継続しながらも患者さんらしく生活できる方法は何かを一緒に考えていくことです。患者さんやご家族が、日常生活を送りながら、放射線治療を継続できるように支えていきたいと思っています。

#### ■地域医療への貢献

がん放射線療法看護認定看護師は、放射線治療の知識や放射線防護に関する知識を持っています。全国に300名程度しかいない分野の看護師で、広島県東部では2名のみ在籍しています。ご要望があれば、医療者への研修や地域での勉強会などを行います。お気軽にお声かけ下さい。

### 小児救急看護認定看護師



奥野 小百合

#### ■認定看護師としての活動

私が認定看護師として大切にしていることは、その子にとっての最善とは何であるか考え、子どもに寄り添い、子どもの権利を尊重した看護を行うことです。また、子どもと家族の力は相互作用であるため、家族への看護も大切にしています。具体的には、子どもが病気になり不安を感じている家族に寄り添い、何でも気軽に聞けるような環境作りを行い、家族とともに子どもの病状をみていくことで、不安が自信に変わるようサポートしていくことです。そして、当院における小児医療がより充実するために、自らが看護実践を通してロールモデルの役割を果たすとともに、日々の看護のなかで、スタッフが困っていることや、より良い看護を行うための相談にのり、改善策を導き出せるよう専門知識に基づき支援しています。

#### ■地域医療への貢献

看護専門学校で小児看護の講義を行っています。ご要望があれば、地域で小児看護の勉強会を行います。お気軽にお問い合わせください。

### クリティカルケア認定看護師



佐々木 伸樹

#### ■認定看護師としての活動

ICUには大手術後、呼吸・循環器・代謝・腎障害、蘇生後など生命の危機的状況にある患者さんが入室します。私は、このような重症患者さんにフィジカルアセスメントを駆使して身体的・精神的・社会的側面を迅速に把握し、患者さんとそのご家族へのケアを提供しています。例えば人工呼吸器管理中の患者さんは、自身の伝えたい気持ちを言葉に出して表現することができません。そこで、麻酔科医師とカンファレンスを行い、現在の患者さんの適切な鎮痛鎮静管理をすることで、コミュニケーションが図れるように調整しています。また重症患者さん自身が思い描く身体回復の目標（ゴール）設定を支援しています。その目標に沿って、医師や看護師だけでなくご家族や他職種とも共有し退院後を見据えた早期リハビリテーションを行っています。常に患者さんの回復促進ができるケアとは何かをスタッフと共に考え最善のケアを目指し努力をしています。院内における活動だけでなく、院外ではクリティカルケア分野における学術集会での発表や講演、教育セミナーなどでも精力的に活動しています。

特定行為研修を（6区分15行為）を修了し6年目を迎えました。自部署（ICU）だけでなく組織横断的に認定活動に加えて特定行為実践も行っております。患者のそばにいる看護師が一部の医行為を手順書に基づき担うことで、身体の回復促進に向けたタイムリーかつシームレスな関わりを実践しています。

特定行為実践の実績（2022-2026年1月末時点）：PICC留置1,108件、エコーガイド下末梢ルート確保1,822件、動脈採血445件、橈骨動脈ラインの確保86件、気管チューブの位置調整26件、人工呼吸器の設定変更48件、人工呼吸器の離脱18件 他

#### ■地域医療への貢献

看護専門学校で成人急性期看護について講義に行っています。そして実習に来られた看護学生さんが学習しやすい環境を提供できるように心掛けています。

ご要望があれば、医療者への研修等も行いたいと思っていますので、お気軽にお問い合わせください。

### 認知症看護認定看護師



久木田 智之



粟村 洋美

#### ■認定看護師としての活動

認知症になると自身の思いを言葉でうまく表現できず、表情や行動で表現されます。その表情や行動のサインの裏にある思いを推し量りながら、認知症患者さんが安心して入院生活が送れるようケアを実践しています。また、認知症ケアチームの一員として、チームメンバーと共に入院している認知症患者さんの気持ちに寄り添いながら、適切なケアが提供できるよう話し合いを行っています。他にも、認知症ケア研修会を開催して、スタッフが正しく認知症を理解し偏見や先入観を持たずに支援ができるよう取り組んでいます。

#### ■地域医療への貢献

地域の医療従事者の対象に認知症対応力向上研修を行っています。

### 乳がん看護認定看護師



藤原 礼子

#### ■認定看護師としての活動

乳がんと告げられた時、多くの方が、頭が真っ白になり、深い不安に襲われます。私は診察に同席し、難しい説明をあなたと一緒に整理しながら、納得のいく治療選択を支えます。心のケアはもちろん、外見の変化への対応、リンパ浮腫の予防、そして仕事や家庭（育児・介護）との両立まで、治療中であっても「あなたらしい生活」を大切にできるよう、外来から病棟まで切れ目のない支援に取り組んでいます。

#### ■地域医療への貢献

現在、乳がんは9人に1人が罹患すると言われ、特に40歳代から60歳代という働き盛りの世代に多く発症するのが特徴です。しかし、早期発見、早期治療ができれば、決して怖い病気ではありません。地域の公開講座や研修を通して、皆さんが『乳がんのことを正しく知り、自分らしく過ごせる』よう地域全体の支えとなって活動を続けてまいります。

## 認定看護師

### 糖尿病看護認定看護師



戸田 滋久

#### ■認定看護師としての活動

主に【血糖パターンマネジメント】と【フットケア】を行っています。

血糖パターンマネジメントは、患者さんの血糖パターンを把握し、治療へフィードバックすることです。なぜこの血糖値になったかを患者さんと共に考え、今後どのように変化していくかを予測し対応を共に考えていきます。フットケアは、下肢の清潔や保湿を保つなどのセルフケア指導や、爪切りや胼胝切除など、糖尿病足病変に対し予防的フットケアを行います。

現在は、周術期や化学療法・妊娠糖尿病の血糖コントロールについて医師と共にラウンドを行い、特定行為の実践を含めてインスリン投与量の調整をしています。患者さんのライフスタイルに合わせた治療方針を医師と検討し、患者さんに治療を選んでもらうことを支援しています。

#### ■地域医療への貢献

看護師が知っておくと良い糖尿病の知識や、糖尿病を持つ患者さんを取り巻く環境や行動変容につながる関わりについてなどの講義、相談への対応を、要望に応じて行います。お気軽にお声がけください。

## 専門看護師

### がん看護専門看護師



前田 智樹

#### ■専門看護師としての活動

がんと向き合う日々には、身体のつらさだけでなく、言葉にしづらい不安や戸惑いがともなうことがあります。

がん看護専門看護師は、そうした思いに寄り添い、患者さんとご家族が少しでも安心して過ごせるよう支える役割を担っています。

治療内容や痛みへの対処については、医師や多職種のスタッフと相談しながら、患者さんに合った方法を一緒に考えます。ときには、じっくりお話を伺いながら、気持ちの整理をお手伝いすることもあります。

「どう選んでいけばいいのか」「何を大切にしていきたいのか」。

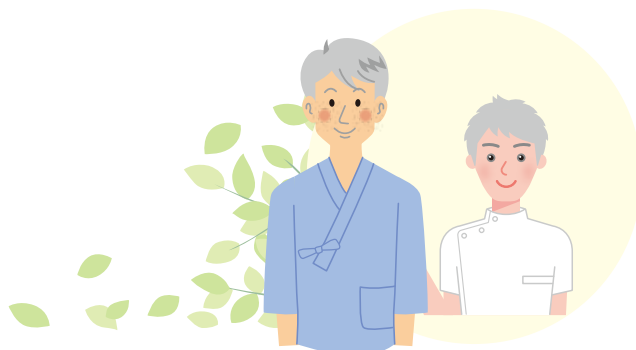
そのような問いに向き合う場面では、患者さんやご家族の思いを尊重しながら、より納得のいく選択ができるよう、丁寧にサポートしています。

#### ■地域医療への貢献

病院の外でも、がんに関する正しい知識や支援のあり方を広く伝えるため、看護専門学校や大学での講義を行っています。

また、地域の集まりや施設などにも、ご要望に応じて伺い、がんに関する疑問や不安にお答えできればと考えています。

専門的な話題から日常の工夫まで、必要な情報をわかりやすくお届けしますので、どうぞ気軽に声をおかけください。



## 職場紹介

### 2A病棟

#### ■職場の特徴

2A病棟は、43床(個室26床+LDR1床+4床部屋16床)の産科・婦人科病棟です。医師・看護師・助産師・看護補助者・クラークと共に安全で質の高い医療の提供を目指しています。

産科は地域周産期母子医療センターとして、3次救急の受け入れも行っており、NICU・GCUと協働しハイリスク妊娠・分娩などを24時間体制で診療しています。また、母児間の愛着形成、退院後の育児の技術・習得として母児同室を行っています。LDRでは、産婦が陣痛・分娩・産後まで同じ部屋で過ごすことができ「LDRで家族と過ごすかけがえのない瞬間(とき)」をコンセプトに、落ち着いた環境でお産に集中することができます。

婦人科は手術療法・化学療法・放射線療法などを受けられる方が多く入院されています。安心して入院生活を送ることができるように、患者さんの意向を確認し個別性のある看護の提供に努めています。



### 2B病棟

#### ■職場の特徴

2B病棟は新生児から15歳までのこどもを対象とした小児病棟です。小児科・小児外科を中心に急性期から慢性期まで幅広い疾患をもったこどもたちの受け入れを行っています。

入院されたこどもやご家族が、安全に安心して検査や治療が受けられるような環境づくりや、入院中であっても、こどもらしく成長発達ができることを目指し、こどもにとって最善の看護を提供できるよう取り組んでいます。特に手術や検査を受けるこどもには、保育士と協働し、こどもに合わせたプレパレーションを行い、こども自身が治療を頑張ることや達成感を感じることが出来るような関わりを目指しています。また、小児救急看護認定看護師やアレルギーエドゥケーターが専門性の高い看護実践とスタッフ教育を行い根拠に基づいた質の高い看護を提供できるよう教育を行っています。

未来を担うこどもたちとご家族の思いに寄り添い、優しさ溢れる温かい看護を目指しています。



### NICU(新生児特定集中治療室)、GCU(新生児治療回復室)

#### ■職場の特徴

NICU・GCUは、生後28週以上の新生児を受け入れています。NICU・GCUの看護の特徴は、入院から退院まで継続した看護の提供、親子の愛着形成にかかわる育児支援を行っています。NICU・GCUの看護師は、「赤ちゃんにやさしい看護」をモットーに愛情を込めて新生児に接しています。また、言葉で快・不快を表現できない新生児のストレスを最小限にするために、落ち着けるようにホールディングを行いながらケアを行うなど、ディベッロプメンタルケアに積極的に取り組んでいます。NICU・GCUのスタッフには、「新生児集中ケア認定看護師」通称「赤ちゃんのスペシャリスト」がおり、スタッフと共に赤ちゃんと家族にやさしいケアの実践に取り組んでいます。



## 職場紹介

### 3病棟

#### ■職場の特徴

3病棟は消化器外科の病棟です。食道・胃・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓の手術、化学療法を行う患者さんが入院されています。なかでも大腸の手術が多く、腹腔鏡やロボット支援下による低侵襲手術の患者さんを積極的に受け入れています。

入院前から外来・PASPORTと連携し、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師・リハビリテーション科といった多職種で患者さんが安心して手術を迎えられるようサポートをしています。消化器疾患は、生命維持に重要な消化・吸収・排泄に関する疾患のため、退院後の生活指導が重要です。対象者には栄養士による食事指導を行い、ストーマケア、ドレーン管理などの指導においても、皮膚・排泄ケア認定看護師と共に実践しています。退院後の生活に必要なセルフケアを共に考え、患者さんの気持ちを支え、患者さんとご家族に寄り添う医療を目指しています。



### ICU(特定集中治療室)

#### ■職場の特徴

当院の特定集中治療室は3階フロアに在り、4床で運営しています。全身管理を必要とする重症疾患や侵襲の大きい手術後の患者さんが入室されます。特定集中治療室では一般病棟では管理が困難な患者さんを受け入れるための必要な医療機器が整えられ、麻酔科医師を中心とし、全ての医療スタッフで24時間を通して高度な医療を提供しています。

クリティカルケア認定看護師も従事しており看護スタッフ全員で、早期から離床を図り、一般病棟への退室がスムーズに出来るように多職種とも協力しながら看護しています。また、重篤な患者さんやご家族の思いに寄り添う医療の提供を心がけ、緊迫した環境の中でも笑顔を忘れず、少しでも入室される患者さんやご家族の緊張が緩和できるように取り組んでいます。



### 5A病棟

#### ■職場の特徴

5A病棟は、呼吸器内科、呼吸器外科の病棟です。気管支鏡、CTガイド下生検などの検査や、肺癌の化学療法、放射線療法、手術を受ける患者さん、間質性肺炎、慢性閉塞性肺炎疾患、肺炎などの患者さんが入院しています。呼吸器疾患の看護には専門的な知識・技術が要求されます。根拠に基づいた看護ができるように、研修参加や定期的に学習会を開催し、日々研鑽に努めています。化学療法では入退院を繰り返す患者さんも多くおられます。患者さんがその人らしい生活を送ることができるようによりいながら、安全かつ安心して療法をうけていただけるよう支援しています。また、誤嚥性肺炎など高齢者の患者さんへは食べることへの援助や、手術後の患者さんが安心して日常生活に戻れるように、看護師は医師、薬剤師、リハビリスタッフ、退院支援サポートメンバーなどの多職種と連携をとり、チームで患者さんとご家族によりいささえる看護を目指しています。



## 職場紹介

### 5B病棟

#### ■職場の特徴

5B病棟は、内科・消化器内科・肝臓内科・循環器内科・糖尿病内科の病棟です。初期の消化器がんやポリープ、総胆管結石や胆管炎に対する内視鏡治療・検査、消化管出血に対する止血術などを行い、クリニカルパスを活用して患者さんの不安の軽減に繋げスムーズな入退院に努めています。また、内視鏡センターを保有し、内視鏡技師免許を取得した看護師を中心に専門的な治療・処置に対応できるよう育成に力を入れ、医師と協力し年間5000件を超える件数を24時間体制で実施しています。そのため、治療後の異常の早期発見や吐血、重症膵炎による状態悪化に対しても速やかに対応できる体制を取っています。肝臓内科では、肝動脈塞栓術・ラジオ波焼却療法・静脈硬化療法など専門的な治療を必要とする患者が多く入院しているほか、糖尿病内科では、糖尿病認定看護師を中心に教室を開催し、自己管理ができるよう患者指導に努めています。終末期の患者さんや高齢患者さんも多く、緩和ケア認定看護師・認知症ケア認定看護師が主体となり、専門的知識から患者・家族の思いや望み、その人らしさや患者のQOLを大切に、日々多職種カンファレンスを行いチームで関わることでより良い看護が提供できるように取り組んでいます。



### 6病棟

#### ■職場の特徴

6病棟は泌尿器科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、形成外科、乳腺・内分泌外科がある混合病棟です。入院される患者さんは、手術や検査・処置などの急性期治療・ケア、化学療法・放射線療法を行っています。また、症状緩和を目的とした治療やケアなど幅広い専門的な看護も行っています。その中で、多職種によるチーム医療を大切にし、各科で日々、一人ひとりに合わせた多職種カンファレンスを積極的に行い、統一した方針のもと、患者さんに合わせたケアの提供ができるよう心掛けています。

診療科は多岐にわたっていますが、各チームが専門性を発揮できるように、新人からベテランまでそれぞれが目標を持ち、チーム内でのコミュニケーションを大切にしながら日々の看護に取り組んでいます。スタッフ皆で、日々の看護を充実させ、患者さんの力になれるよう、力を合わせて頑張っています。



### 7病棟

#### ■職場の特徴

7病棟は最上階にあるベッド数54床の整形外科病棟です。

超高齢化社会のわが国では加齢による膝、股関節疾患の患者さんが増えています。当病棟は膝・股関節の人工関節置換術、各種脊椎手術、高齢者の転倒や外傷による大腿骨頸部骨折や上肢・下肢骨折の救急患者などの手術を実施しています。中でも大腿骨頸部・転子部骨折は地域連携クリティカルパスを通して地域の施設と継ぎ目のないケアを提供しています。院内では手術を受ける患者さんに、患者入院支援・周術期チーム：PASPORTと連携し、入院前から退院後の生活を見据え、多職種（薬剤師、DH、ST、理学療法士、MSW）と個性に応じた専門的な介入を積極的に行っています。医師、看護師、理学療法士スタッフは一丸となり残存機能を重視した自立支援を行い、カンファレンスによる転倒防止にも努めています。

看護師は、他職種と学習会を行い知識と技術を身に付け、患者さんのADL向上を目指し心身のサポートができるよう取り組んでいます。



## 職場紹介

### 外来

#### ■職場の特徴

私たちは、外来での検査や治療・処置を、患者さんご家族に十分ご理解・ご納得いただいた上で、安全に受けさせていただけるよう努めています。丁寧な説明と正確な技術の提供を大切にし、安心して通院できる外来を目指しています。

当院は、がん診療拠点病院として、外来化学療法室を中心に、専門性の高い医療と看護を提供しています。がん看護や放射線治療に関する専門的知識を持つ認定看護師が相談に対応し、不安や悩みに寄り添いながら患者さん一人ひとりの個別性を大切にした支援を行っています。

また、救急外来では医師と検査科と連携し、迅速で適切な診断・治療が行えるように努めています。外来通院中だけでなく、入院中も含めて切れ目のない支援ができるよう、病棟や他職種とも連携しながら、患者さんご家族を支えています。



### 手術・中央材料室

#### ■職場の特徴

バイオクリーンルームを含む手術室7室と中央材料室があり、安全で安心できる手術と洗浄・滅菌の機能と役割を担っています。外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、泌尿器科、産婦人科、小児外科の9つの診療科の手術を1日平均14件、年間3400件、そのうち緊急370件の手術を行っています。24時間体制で主治医、麻酔科医師、看護師、その他医療スタッフと協力し、手術を受け入れています。

麻酔科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、臨床工学技士等と共にチーム活動を行っています。手術を受ける患者さんの不安な思いを受け止め、疼痛コントロールや早期回復のために、手術前からの患者さんに分かりやすく説明を行い、少しでも安心して手術に臨めるよう努めています。患者さんに安心して手術を受けていただけるよう、確実な準備を行うことと、患者さんの気持ちに寄り添うことを日々心がけています。



# 看護部紹介

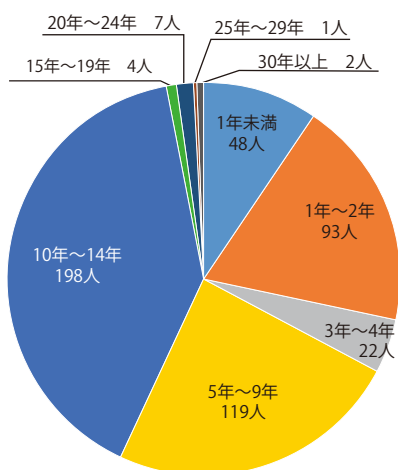
## 看護部の紹介

### 看護部の構成

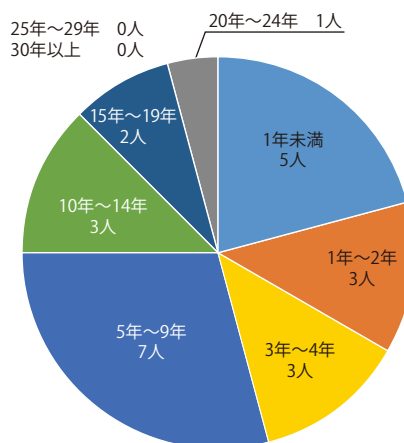
看護部長1名、副看護部長2名、各看護単位に看護師長と副看護師長および看護師、助産師、保育士、看護補助者（NA）、病棟クラークを配置しています。

看護職員の人員（令和8年4月1日現在）は、総勢約600名、常勤看護師495名（助産師37名を含む）、非常勤看護師24名、看護助手49名（非常勤及び派遣）、クラーク27名（非常勤及び派遣）、そして保育士3名（常勤及び非常勤各1名）で構成されています。

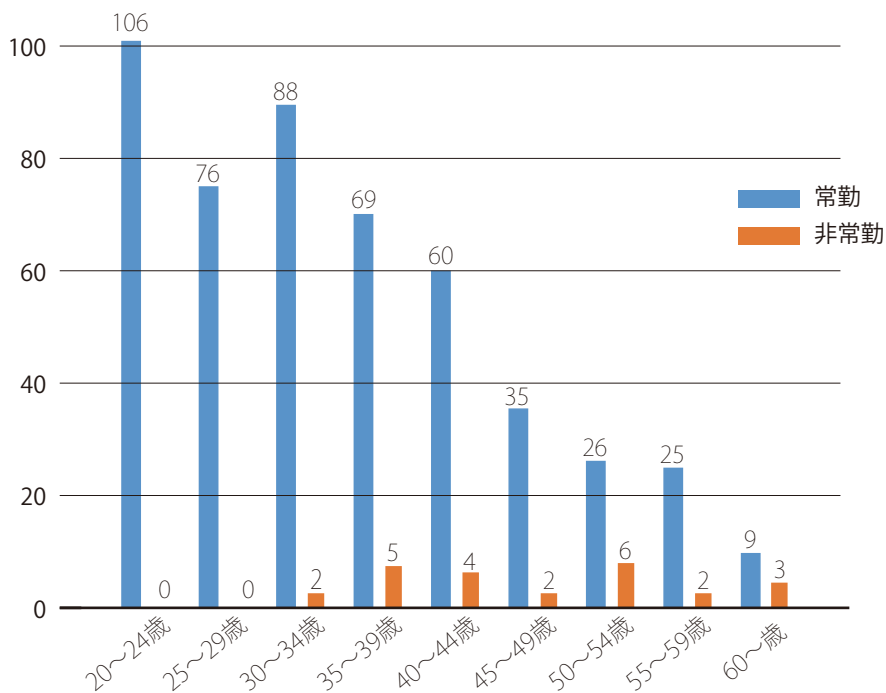
看護師在職年数（常勤）



看護師在職年数（非常勤）



年齢（令和8年4月1日）



## 教育体制の紹介

### 教育担当看護師長の役割

国立病院機構の理念に沿った看護が実践できる看護職員を育成するために開発された「看護職員能力開発プログラムVer.2」に基づき、福山医療センター看護部の『めざす看護師像』にキャリアアップすることができるよう支援する教育プログラムを作成しています。

専門職業人として能力開発研修やリフレクションなどを通して、一人ひとりがStep up目標を達成できるよう看護師長・副看護師長・教育委員と共に支援しています。

また、新人看護職員がスムーズに職場に適応できるよう、新人支援看護師やプリセプター、先輩看護師と協力した新人の研修・企画や看護実践の支援を行っています。

### めざす看護師像 知的で優しく、信頼される看護

#### 知的

単に知識を備えるだけでなく、向上心を持ち、新たな知識を基にエビデンスに基づく実践ができる看護師

#### 優しく

人間の深い関心から対象を捉え、対象の気持の変化に気づける能力を持つと同時に、患者の将来までを考え、その人のためになることをきちんと伝えられる看護師

#### 信頼

患者対看護師、1対1の関係性の中で信頼を得られるかどうかという範囲を超え、医療チームとして患者からの信頼を得られるかどうかを志向する看護師

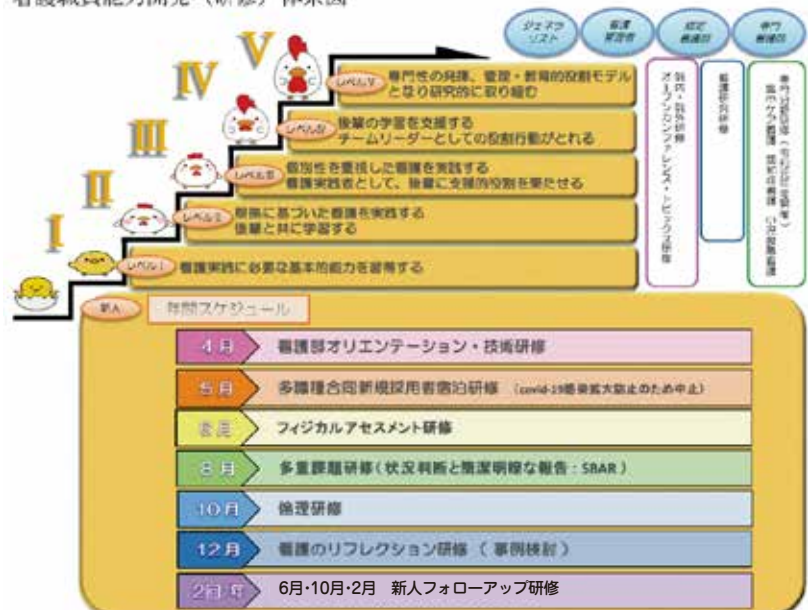
### 教育理念

- 専門職業人として専門知識や技術を活かし、地域や社会に貢献する看護師を目指します。
- 質の高い看護を実践できる看護師を目指します。
- 看護師として誇りを持ち後輩を指導育成することができ、同時に自己成長できる看護師を目指します。

### 研修プログラム

新人・ラダー別  
教育プログラムと  
到達目標

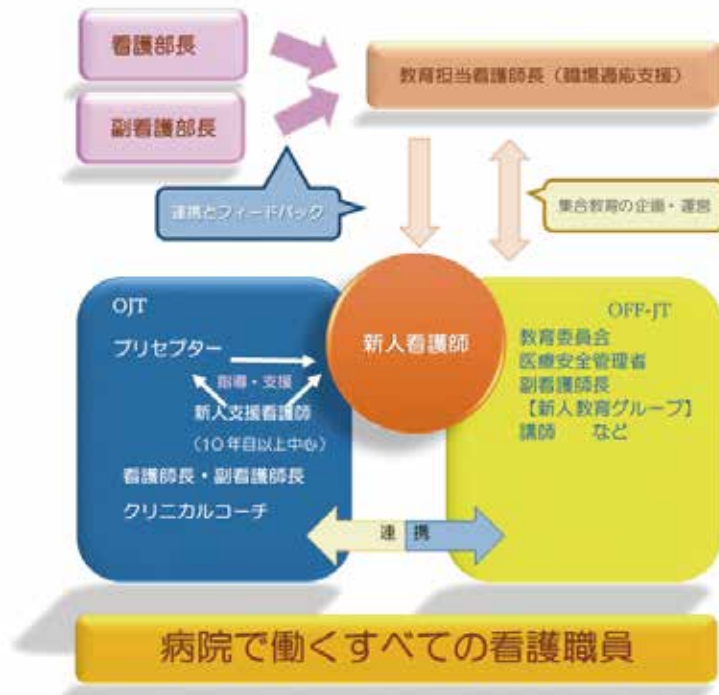
看護職員能力開発（研修）体系図



# 看護部紹介

## 看護部活動

### 新人支援システム



### 看護ふれあい体験

日本看護協会では、広く「看護のこころ」を分かち合い、育み合うことを大切にしていきたいという願いから、「ふれあい看護体験」を各地で実施しています。福山医療センター看護部においても複数の学校から中学生・高校生が参加されています。医療の現場や看護を身近に感じてもらえるよう看護職と共に患者さんのケアや、ストレッチャーや車椅子の移送、そして妊婦体験や訓練人体模型を使用した心肺蘇生体験等ができる場を提供しています

毎年、夏休み頃に計画しています。少しでも多くの中学生・高校生の皆さんに看護のこころに触れたり感じてもらえる場となることを願っています。

### 看護の日

看護のことを地域の皆様にも知って頂くために、看護場面のポスターを作成し、看護の日のイベントを開催しています。

例年は、専門看護師・認定看護師がそれぞれの分野において疾病予防やセルフケアの視点から「認定・専門看護師のワンポイントレッスン」というテーマでポスター掲示をしています。来院された皆様が足をとめてみてくださる姿が見られました。今後も健康づくりや看護を身近に感じてもらえる看護の日のイベントを開催していきたいと考えています。



明日の笑顔まっています。

## feature & contents



教育研修  
部長 豊川 達也

### 部門の紹介

医師になって最初の4-5年間、いわゆる研修医の期間に勤務する病院というのは、これからの長い医師人生の出発点であるだけでなく、その礎となる医療現場での考え方や手技を含む臨床の能力、研究面に対する向き合い方、人と人との繋がりに関わるコミュニケーション力、困難へ対処する力・忍耐力、そして何より医師としての自信、等々を磨きそしてそれを確固たるものとする場として、非常に重要な役割を果たすものと思います。研修医時代をどのような病院で過ごすかというのは、医師人生の中でも最も重要な事柄のひとつではないかと考えます。

当院の研修の特長は、研修医の先生の意志を尊重し、基本的には自主性に任せて、ひとりの人間としてその人格に重きをおいて研修してもらうということです。研修の内容やカリキュラムも研修医本人とよく相談し、その希望を可能な範囲で聞き入れていくようにしています。

当院では院外の研修会や学会、講演会などに積極的に参加でき、基本的にはその参加費やそれにかかる交通費、宿泊費が全額病院から負担されます。研修医の時期には研修会や講演会などに参加し、自己研鑽をするのはもちろんのこと、そういった場で他院の研修医たちと情報を交換する場も必要と思います。さらに、海外での国際学会参加も、発表者であれば学会参加費や交通費、宿泊費が全額病院負担されます。

また、ベッド数の割に研修医の定数が少ないため、研修医が経験できる症例、手技、学会発表や論文の題材が非常に豊富であり、特にそのために必要とされる立場にあるので成長がきわめて速いこと、中規模病院であることから各科の垣根が低く、いつでもどこでも、誰にでも色々な面で相談ができます。コメディカルとも協力し合える環境であることや、大都会でも大田舎でもないため、患者さんの層としてはとても対処しやすいことなど、挙げればきりがなく当院には良い点があります。

元気で活気のある、やる気に満ちた、若いパワーを持った研修医がいる病院は輝いており、職員もいきいきとしていて、患者さんからの支持も厚いと思います。そのような病院にしていくために、われわれには研修医であるみなさんの力が必要です。当院でいっしょに働き、当院をますますより良い病院にしていくことに力を貸してください。そして、医師として歩み出す初期あるいは後期研修を当院で行うことを前向きに考えてみてください。みなさんが当院を研修病院として選んでくれることを心から願っています。



### message

#### 先輩からのメッセージ



内科専攻医 高田 皓平

私は当院で2年間の初期研修を終えた後、内科専攻医として勤務を継続しています。

研修先として当院を選んだ理由は、先生方の指導の雰囲気が非常に良く、手技や治療方針の決定などを主体的に出来るからです。各科の垣根が低いこともあり横断的な治療方針の相談もしやすく、学びの多い研修を過ごしています。是非、当院での研修をご検討頂き、実際に見学に来て頂けると幸いです。



整形外科専攻医 大石 聖明

私は当院で2年間の初期臨床研修を終えた後、整形外科専攻医として働いております。

当院は、病院全体の雰囲気が明るく、安心して学べる初期臨床研修病院です。ローテーションの自由度が高く、将来の進路や興味に応じた柔軟な研修が可能です。熱心な指導医が丁寧にサポートして下さり、日々の診療を通して着実に臨床力を養えます。当院で初期研修を修了後、そのまま後期研修へ進む医師も多く、継続して成長できる環境が整っています。さらに、関連病院での研修会や勉強会にも参加でき、幅広い視点と専門性を身につけながら研鑽を積むことができます。是非一度当院へ病院見学にきていただき、当院での研修をご検討ください。



初期臨床研修医 丸塚 太雅

当院の研修の特徴は自由と自主性です。ローテーションの内容や順番を自由に決めることができ、途中で変更することも可能です。志望科が決まっている方にも決まっていない方にもどちらにもおすすめできます。研修内容も充実しており、多くの手技を経験することができます。救急外来では上級医の下でファーストタッチを行い、多くのcommon diseaseを経験することで自身の成長を実感することができます。研修医室の雰囲気もよく、研修医同士での症例検討など気軽にできる環境です。文章だけでは伝えきれない雰囲気の良さがありますので、ぜひ気軽に見学にお越しください。



## 医療連携支援センター（地域医療連携課・医療福祉相談課）

# feature & contents

医療連携支援センターは「病院の要」として地域の皆様との連携を大切にしています。

### ■部門の特徴

医療連携支援センターは、地域医療連携課・医療福祉相談課で構成されています。

地域医療連携課では、かかりつけ医を始めとする地域の医療機関の先生方から当院へご紹介頂いた患者様が、安心して当院を受診して頂けるように迅速かつ丁寧に対応しています。診療科によっては予約日が決まるまで時間を頂く場合もありますが、ぜひご紹介をお願いいたします。

医療福祉相談課では、ソーシャルワーカー（MSW）と退院調整看護師が、病気になると生じてくる様々な不安（経済面や生活面、治療の見通し等）や患者様が住み慣れた地域で安心して生活を続けたいという思いなどを真摯に受け止め、患者様・ご家族に寄り添いながら支援することを心がけています。地域の医療機関を始めとする様々な機関と連携し、患者様・ご家族を支える一助となるように支援していきたいと考えておりますので、お気軽にご相談ください。

### ■業務内容

#### 【地域医療連携課：地域医療連携係】が対応している業務

1. 他院からの診療、セカンドオピニオン、栄養相談の予約受付
2. 内視鏡検査、大型医療機器共同利用検査（CT、MRI、RI、骨密度、PET-CT）の予約受付
3. 紹介元医療機関への来院報告・送付及び、返書管理
4. 他院への予約申し込み
5. 開放病床共同診療のご案内、開放病床入院相談対応、登録医受付
6. 転院時の日時調整
7. 地域連携パスにおける窓口対応（書類のFAX、電話問い合わせ）
8. HMネットに関すること

#### 【医療福祉相談課：ソーシャルワーカー（MSW）・看護師】が対応している業務

1. 転院支援
2. 退院支援
3. 外来支援（かかりつけ医の変更、在宅サービス事業所との連携、調整等）
4. 医療福祉相談（入院・外来患者への心理的・社会的問題、経済的問題に対する相談対応）
5. がん相談支援センターでの専従相談員によるがん相談
6. 患者向け情報提供  
（みみより情報誌、医療福祉制度・在宅療養関連のパンフレットの設置）
7. 院内及び院外との連絡・調整
8. 地域連携クリティカルパスにおける連携調整
  - ・5大がん地域連携クリティカルパスの運用
  - ・大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスの運用
  - ・脳卒中地域連携クリティカルパスの運用
  - ・周術期口腔管理システム（医科歯科連携）

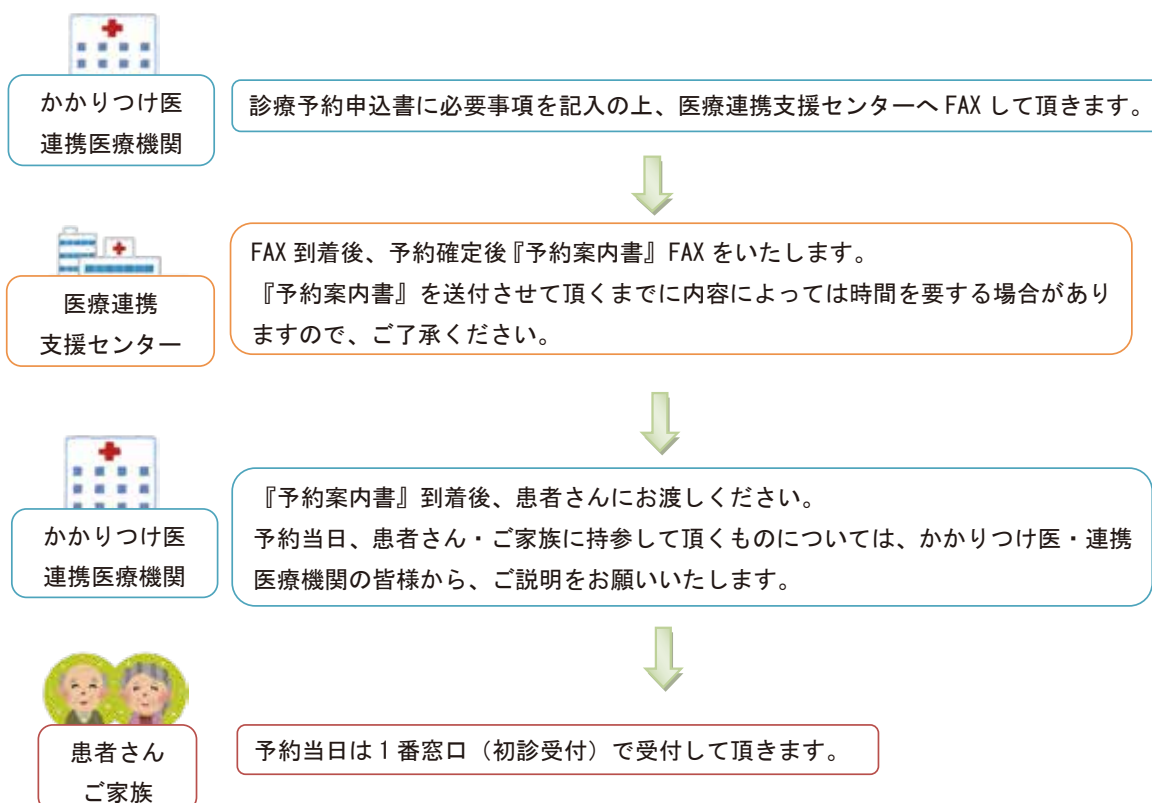


## 医療連携支援センター（地域医療連携課・医療福祉相談課）

### ■かかりつけ医・連携機関の皆様へ

外来診療予約申込、セカンドオピニオン外来申込・セカンドオピニオン外来相談同意書、PET-CT検査予約申込は、それぞれ所定の様式がありますので、お間違えのないようご利用ください。（各様式は、当院ホームページからダウンロード）

### ■外来診察・栄養指導・内視鏡検査・骨密度検査・医療機器共同利用申し込みの流れ



★予約当日に持参して頂くもの（予約内容により持参して頂くものが異なりますので、ご注意ください）

●共通—予約案内書・診療情報提供書・健康保険証

○内視鏡予約（上部）—検査説明書（緑色の用紙）

○内視鏡予約（下部）—検査説明書（黄色の用紙）

★予約当日の受付—1番窓口（初診受付）

★予約受付 FAX084-922-2411（医療連携支援センター直通）

★受付時間 月～金（祝日を除く）8:30～17:00

## 医療連携支援センター（地域医療連携課・医療福祉相談課）

### ■セカンドオピニオン外来

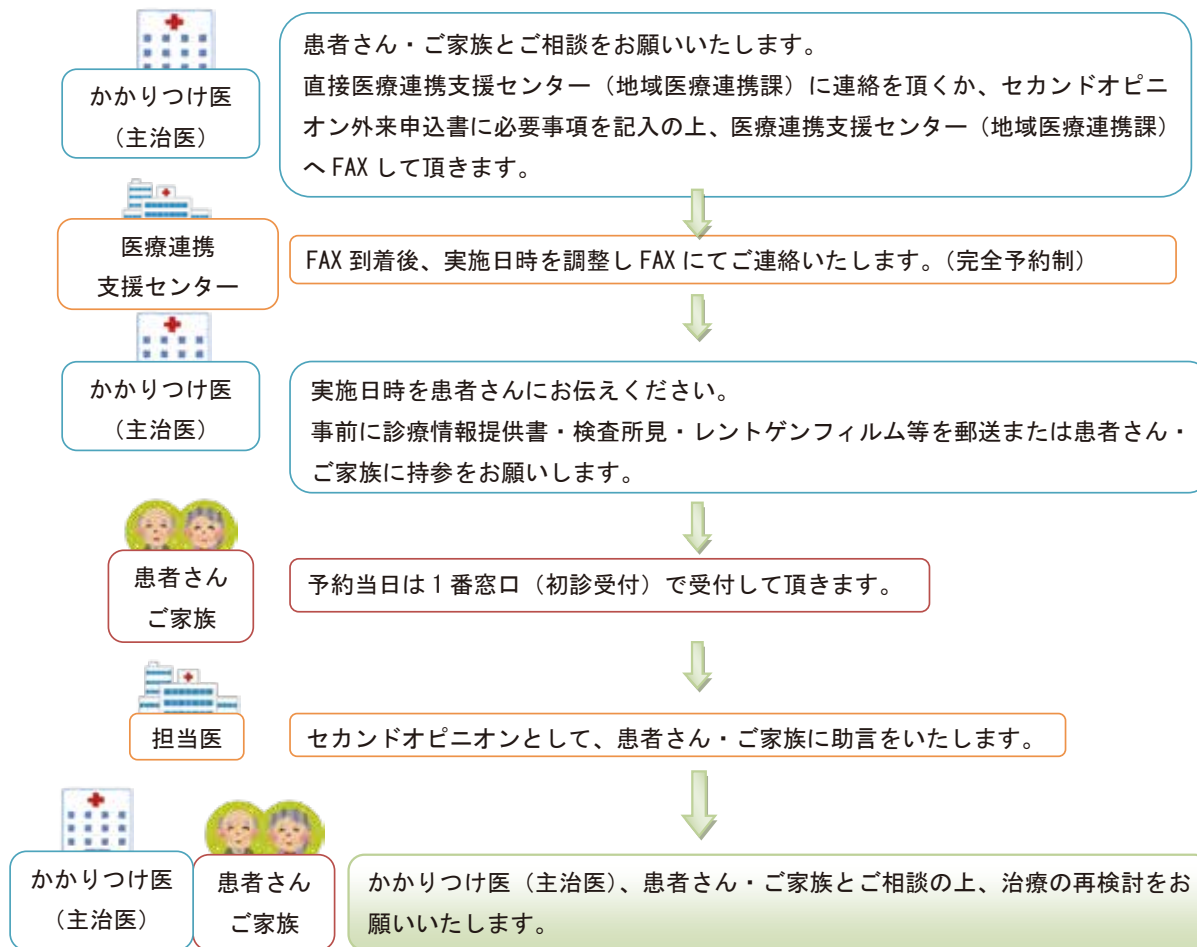
セカンドオピニオンとは、**第二の意見**、つまり『**主治医以外の医師の意見**』という意味です。主治医から勧められた治療方法を選択するにあたり、特にそれが重い病気や危険を伴う手術である場合、患者さんが一番適切な医療を納得して選択できるように、他の医師の意見を求める制度です。

#### (1) 患者さん・ご家族からのお申し込みの流れ



- ① まずはかかりつけ医（主治医）とご相談ください。
- ② かかりつけ医（主治医）からセカンドオピニオン外来をお申し込みください。（完全予約制）
- ③ 予約当日受診をしてください。
- ④ セカンドオピニオンとして助言をいたします。
- ⑤ かかりつけ医（主治医）と相談し治療を再検討してください。

#### (2) 医療機関からのお申し込みの流れ



※他院でセカンドオピニオンを受けることもできます。  
ご希望がある場合には当院主治医へご相談ください。

## 《福山医療センターの場合》

### 【予約】 完全予約制

○主治医からの診療情報提供書が必要です。

○当院での検査、治療をご希望の場合はセカンドオピニオン外来の対象となりません。

【費用】 最初の30分まで11,000円、以降30分まで毎5,500円です（消費税込み）。

健康保険適応外で、全額自費になります。

### 【対象疾患】

1. 外科疾患、呼吸器外科疾患、乳腺・内分泌疾患領域全疾患
2. 内科領域全疾患（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科）
3. HIV 感染症
4. 整形外科疾患（外傷・関節外科・小児整形外科・脊椎疾患・脊髄疾患）
5. 形成外科領域全疾患
6. 皮膚科領域全疾患
7. 泌尿器科（尿路性疾患）
8. 産科領域全疾患
9. 婦人科（癌・奇形）
10. 小児科領域全疾患
11. 小児外科領域全疾患
12. 耳鼻咽喉頭頸部腫瘍領域全疾患
13. 精神科領域全疾患（うつ病、パニック障害、摂食障害、睡眠障害）
14. 脳神経外科領域全疾患
15. 放射線科（悪性腫瘍）
16. 麻酔科（手術の麻酔方法）

### 【相談内容】

1. セカンドオピニオンを担当する医師は、経験豊かで専門知識のある医師が担当し、現在の治療、治療に関する意見、今後の治療方法や見通しに関する意見を提供します。
2. 相談終了後、主治医への報告書を作成します。
3. セカンドオピニオン外来では検査や治療行為は行いません。
4. 医療訴訟に関するものは、お受けできません。

## ■PET-CT 申し込みの流れ



## ■ 開放病床

あらかじめ登録したかかりつけ医と当院の医師が共同で診療できる開放された病床です。

主治医が2人になります。登録希望の医療機関は地域医療連携課までお問い合わせください。

《対象》登録したかかりつけ医が入院必要と判断した患者

## ■ 5大がん地域連携クリティカルパス

がん診療連携拠点病院を中心とした基幹病院の協力の下、「がん地域連携クリティカルパス」を用いて手術などの治療を行った病院とかかりつけ医・連携医療機関とが同じ診療方針に基づき、共同で治療を行うことを目的としています。

《対象》当院にて診断・入院・治療しクリティカルパスに該当した患者

## ■ 大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス

地域連携クリティカルパスを通して当該パス適用患者に対し、連携医療を司る施設間で継ぎ目のないケアを提供し、早期に在宅復帰できることを目的としています。

《対象》大腿骨頸部・転子部骨折にて地域連携クリティカルパスを用いて治療を行う患者

## ■ 脳卒中地域連携クリティカルパス

転院時にクリティカルパスを転院先の病院に送ることで、回復期病院が患者さんの状態を把握やすくし転院時よりスムーズなリハビリが開始できることを目的としています。

《対象》脳卒中患者

## ■ 周術期口腔航空機能管理システム(医科歯科連携)

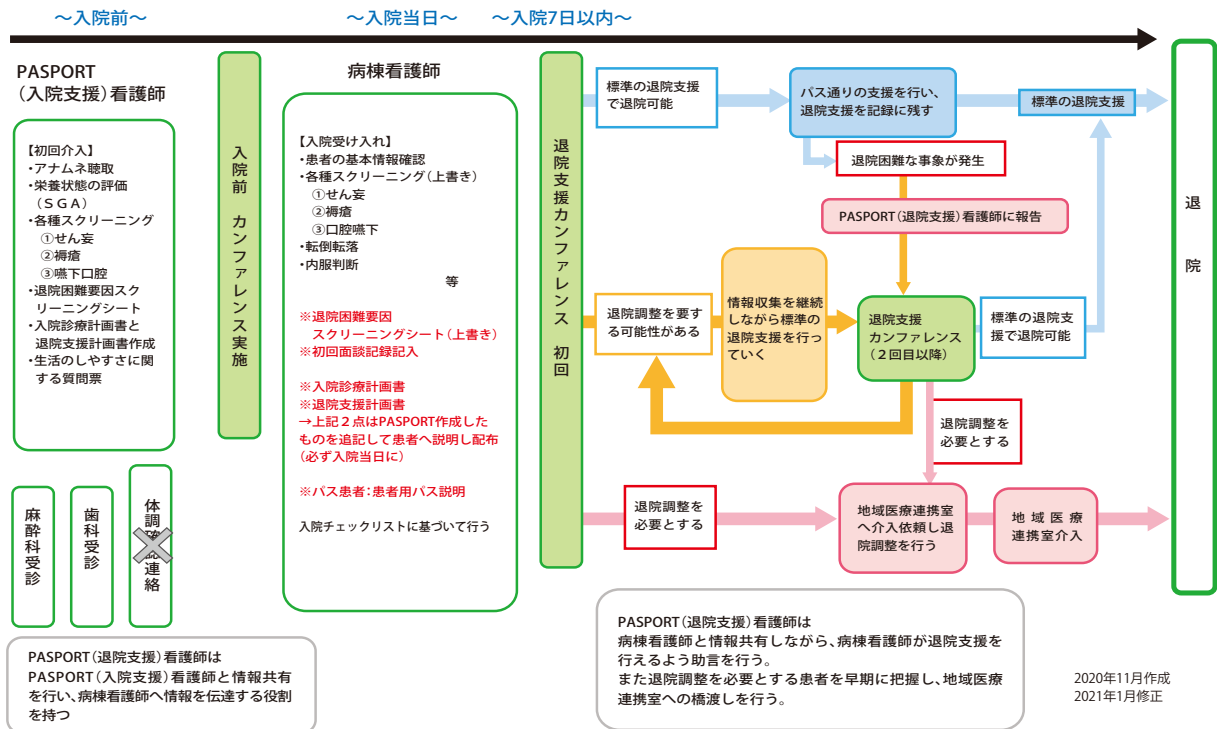
治療開始前から歯科医療機関と連携を図り口腔管理を行うことで、手術・放射線治療・化学療法を受ける患者さんが、治療に伴う合併症を起こさないようすることを目的としています。

《対象》全身麻酔の手術を受ける患者（小児科を除く）

# PASPORT(患者入院支援・退院支援)

## PASPORT

福山医療センターでは、入院・検査・手術・その他の治療を受けられる患者さんとご家族に、安心安全な医療を提供できるように、入院前から退院後までを専門の医療スタッフが継続して支援いたします。



## PASPORT

PASPORT(Patient Admission Support & Perioperative care Team)とは患者入院支援・周術期管理チームのことで、(周産期管理チームについては「手術・中央材料室」参照)

これまで「入院検査予約センター」「地域医療連携室」「医療福祉相談」に分かれていた病院の機能をひとつに総合し、おひとりの患者さんを専門の医療チーム(PASPORT)で支援します。

PASPORTで行うことは①入院が決まったら、看護師が生活歴、病歴を個別面談でうかがいます。②薬剤師がお薬の確認と、治療に必要な休薬があれば説明します。③専門の医療スタッフが、入院までに心がけていただくことを具体的に指導します。④入院生活や治療への質問や相談にお答えし、不安を解消するお手伝いをします。⑤退院後の生活を見据えた療養環境の準備や、福祉・介護支援を行います。

PASPORTでは、入院や退院を控えた患者さんとご家族がよりよい療養ができるように、おひとりおひとりに合わせてきめ細やかな支援をします。大切なことは、患者さんとご家族が、医療スタッフと共にチームの一員であることです。病気やその治療経過に関する不安や悩みを解決しながら、生活の質の維持・向上をめざします。

PASPORT導入により、入院後の見通しを立て、これから進めていく治療がしっかりと検討されるため、患者さんやそのご家族が安心して治療・入院を受けることができます。入院中の治療を効率化できることから、患者さんにとってよききめ細かい対応が実現していきます。

PASPORTは2017年開設時より介入する診療科の拡大に努めてきました。2021年11月の形成外科介入により、当院全診療科の予定手術患者への介入ができるようになりました。PASPORTリンクナース会で事例検討を行い入院前支援から入院病棟、退院後は外来へと患者さんの情報をつなぎ多職種で治療に取り組んでいます。今後も患者さんとご家族の不安や悩みに寄り添って安心して治療が受けられるように入退院支援をしていきます。また、引き続き化学療法や、残りの内科領域への介入を進めていきます。



## PASPORT構成員

PASPORTセンター長(医師)  
PASPORTセンター長補佐(医事専門職)  
【各部門PASPORT担当者】  
薬剤師  
理学療法士  
言語聴覚士  
管理栄養士  
歯科衛生士  
臨床工学技士

【看護部】  
PASPORT看護師長  
PASPORT副看護師長  
PASPORT入院支援看護師  
PERIO看護師  
PASPORT退院支援看護師(病棟・外来配属)  
事務員

## PASPORT介入状況

2017年	12月	肝胆膵外科	全ての手術(腹腔鏡下胆のう摘出術を除く)	PERIO
2018年	1月	消化器内科	ERCP, ESD	入院支援
		呼吸器外科	肺・縦隔の手術(気胸を除く)	PERIO
	3月	泌尿器科	腎・尿管全摘術	PERIO
	9月	肝臓内科	RFA, TACE, 肝生検	入院支援
	10月	耳鼻咽喉科	扁桃摘出術、声帯喉頭ポリープ摘出術	入院支援
2019年	5月	大腸肛門外科	直腸切断術(マイルズ手術)	PERIO
	9月	整形外科	人工股関節置換術(THA)	入院支援
2020年	1月	整形外科	人工膝関節置換術(TKA, UKA)	入院支援
	3月	整形外科	脊椎全ての手術	入院支援
			前方後方同時固定で分離換気を伴う手術	PERIO
	5月	整形外科	残り全ての手術	入院支援
	11月	消化器外科	手術の全て(胃・大腸・ラパコレ・ヘルニア・ヘモ等)	入院支援
			胃・大腸手術、食道の手術(腹腔鏡下、腹腔鏡補助下を除く)	PERIO
2021年	12月	泌尿器科	残り全ての手術	入院支援
	1月	婦人科	膀胱全摘術・腎摘出術(部分切除を除く)	PERIO
	6月	乳腺・内分泌外科	手術の全て	入院支援
	8月	耳鼻咽喉科	手術の全て	PERIO
			喉頭摘出術、再建を伴う手術	入院支援
	10月	呼吸器内科・外科	残り全ての手術(15才未満の小児は除く)	入院支援
	11月	形成外科	BF	入院支援
			手術の全て	

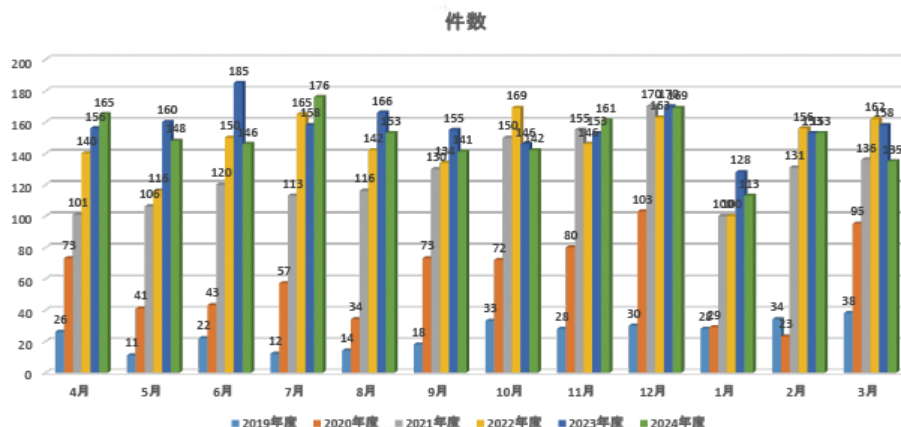
## 月別介入患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020年度	83	72	76	82	100	88	116	131	143	25	91	140	1147
2021年度	161	135	172	160	193	163	208	217	196	181	195	204	2185
2022年度	184	187	213	181	196	182	195	200	157	206	185	208	2294
2023年度	184	201	198	190	202	164	200	184	167	186	186	174	2236
2024年度	179	178	172	189	171	157	186	179	164	186	154	150	2065
2025年度	164	172	185	207	201	186	195	175	173	184	145	202	2189

## 入院時支援加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020年度	73	41	43	57	34	73	72	80	103	29	23	95	723
2021年度	101	106	120	113	116	130	150	155	170	100	131	136	1528
2022年度	140	116	150	165	142	134	169	146	163	100	156	162	1743
2023年度	156	160	185	158	166	155	146	153	170	128	153	158	1888
2024年度	165	148	146	176	153	141	142	161	169	113	153	135	1802
2025年度	141	154	142	193	170	172	154	147	181	139	153	140	1886

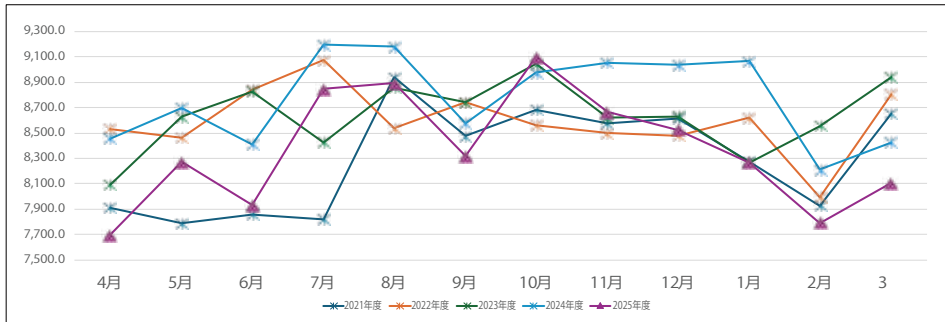
## 入院時支援加算算定件数



# 統計

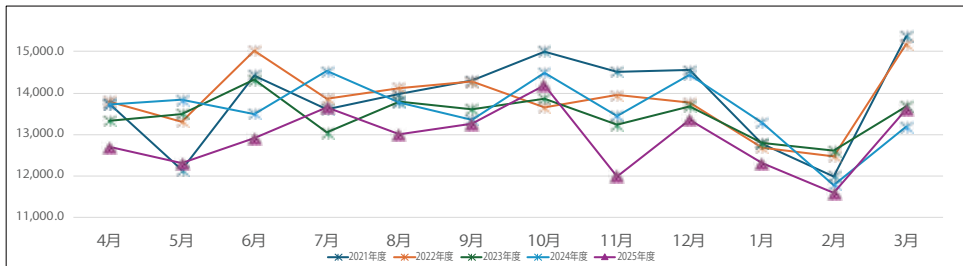
## 入院患者(1日平均)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2021年度	7,911	7,785	7,858	7,819	8,937	8,477	8,685	8,576	8,615	8,273	7,927	8,652	99,515
2022年度	8,532	8,466	8,838	9,075	8,535	8,742	8,562	8,500	8,480	8,620	7,993	8,804	103,147
2023年度	8,092	8,628	8,828	8,425	8,859	8,742	9,045	8,619	8,631	8,268	8,555	8,943	103,635
2024年度	8,455	8,699	8,411	9,195	9,181	8,578	8,977	9,055	9,038	9,068	8,212	8,427	105,296
2025年度	7,696	8,272	7,930	8,848	8,893	8,317	9,098	8,665	8,523	8,266	7,789	8,106	100,403
対前年度増減	▲759	▲427	▲481	▲347	▲288	▲261	121	▲390	▲515	▲802	▲423	▲321	▲4,893



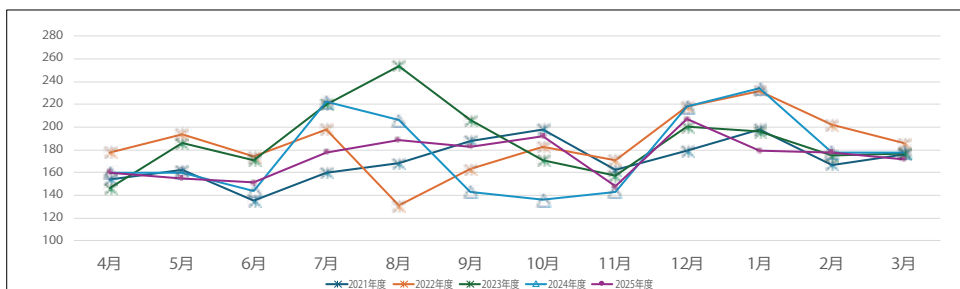
## 外来患者(1日平均)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2021年度	13,745	12,145	14,427	13,618	13,969	14,301	15,000	14,515	14,546	12,782	11,987	15,371	166,406
2022年度	13,796	13,309	15,021	13,865	14,127	14,272	13,662	13,948	13,759	12,690	12,474	15,173	166,096
2023年度	13,335	13,494	14,324	13,047	13,800	13,612	13,870	13,232	13,681	12,794	12,599	13,685	161,473
2024年度	13,732	13,832	13,495	14,529	13,769	13,355	14,492	13,455	14,442	13,283	11,782	13,189	163,355
2025年度	12,695	12,298	12,901	13,657	12,994	13,249	14,195	11,991	13,358	12,298	11,590	13,601	154,827
対前年度増減	▲1,037	▲1,534	▲594	▲872	▲775	▲106	▲297	▲1,464	▲1,084	▲985	▲192	412	▲8,528



## 救急搬送件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2021年度	154	162	135	160	168	188	198	162	179	198	167	176	2,047
2022年度	178	194	174	198	131	163	183	171	218	232	202	186	2,230
2023年度	146	186	171	220	254	206	171	157	200	196	175	177	2,259
2024年度	160	160	144	222	206	143	136	143	218	234	178	178	2,122
2025年度	160	155	151	178	189	183	192	148	207	179	178	172	2,092
対前年度増減	0	▲5	7	▲44	▲17	40	56	5	▲11	▲55	0	▲6	▲30



# INDEX

福山医療センター臨床研究活動実績について	81
臨床研究部組織図	83
倫理審査委員会委員名簿	84
臨床倫理審査委員会委員名簿	85
研究利益相反委員会名簿	86
受託研究審査委員会委員名簿	87
2024 年度倫理審査委員会承認課題一覧	88
2024 年度臨床倫理審査委員会承認課題一覧	89
2024 年度公的研究助成	90
2024 年度受託研究一覧	94
〈治験〉	
〈特定使用成績調査・使用成績調査〉	
2024 年度部門別研究業績	98

## 福山医療センター臨床研究活動実績について

令和 8 年 4 月

臨床研究部長

大塚 眞哉

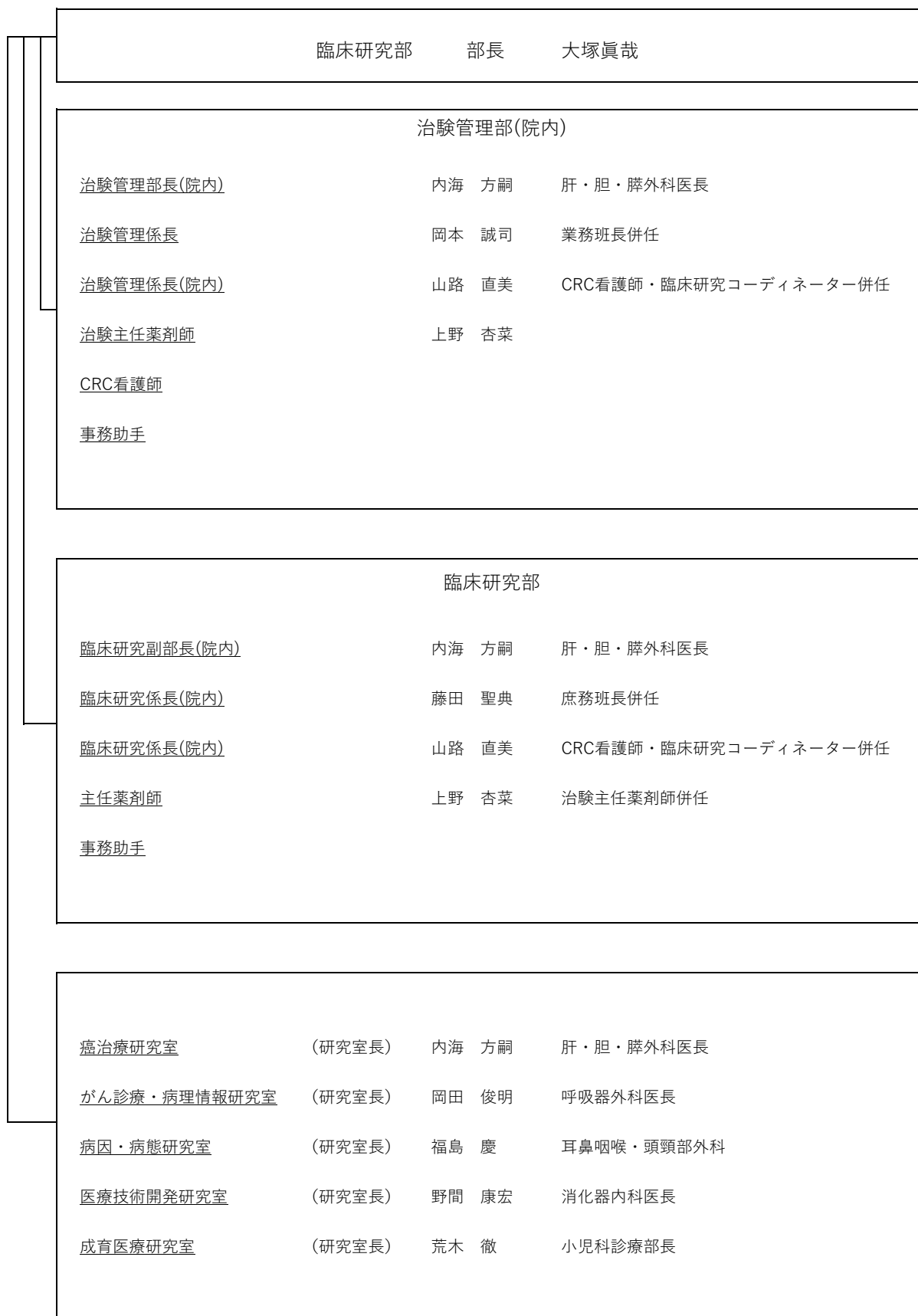
臨床研究活動の実績を報告致します。活動の中心である臨床研究部の新メンバーにつきましては、組織図をご参照ください。受託研究審査委員会及び倫理審査委員会につきましては、それぞれ新規の治験及び臨床研究課題を中心に審議がされ、多くの新規治験及び臨床研究が実施されました。また、ロボット手術導入を契機に昨年 1 月からは新技術導入、保険適応外使用臨床現場における倫理的問題など臨床上の課題を審査する臨床倫理審査委員会も始まっており、活発な審議が行われています。各委員会の構成につきましては受託研究審査委員会委員名簿及び倫理審査委員会委員名簿をご参照ください。今回、臨床研究の学会発表、論文、治験の実績についての成果をここに発表いたします。

毎年開催しております院内研究発表会は、コロナ禍のため令和 4 年度まで 3 年間中止していましたが、令和 5 年度は集合研修でなくポスター自由閲覧という形で再開しました。令和 6 年度は新人発表者が少ないと言う事で開催は見送りました。本番の第 79 回国立病院総合医学会は前年大阪に引き続き現地開催となりました。今回は東海北陸グループ担当で金沢市開催となり、能登半島地震の復興支援や各部門の努力により過去最高の 38 演題の発表がありました。シンポジウム 1 題、口演 16 題、ポスター 21 題の発表を行い、3 演題のベストポスター賞、5 演題のベスト口演賞を受賞いたしました。本年度も皆様の益々のご活躍を祈念しております。

当院は NHO 病院の中でも高い診療実績を誇っており、忙しい日常の業務をこなす傍らで臨床研究にも取り組んでおります。別途掲載の如く、令和 6 年度は英文原著論文 36 編(うち筆頭 10 編、筆頭以外 26 編)、英文原著論文以外 3 編(うち筆頭 1 編、筆頭以外 2 編)、和文原著論文等 9 編(うち筆頭 8 編)、学会発表では国際学会が 8 演題、国内学会・研究会は 220 演題の業績があり、コロナ禍以降、着実に増加しております。但し、今後の課題としては筆頭論文(特に英文)が当院と同規模の NHO 病院よりも少なく、研修医含めて論文作成を促して行きたいと思っております。マンパワー不足により臨床研究の実施が難しい診療科や部門については、臨床研究部でのサポートで当院の臨床研究が活性化されるよう、臨床研究部一同邁進して参りたいと思っております。

また当院は平成 27 年よりタイ国ラジャビチ病院との国際交流を深めラジャビチ病院主催の国際医療学会に呉医療センターと毎年参加していました。医師、看護部、事務部門、薬剤部、臨床検査科、放射線診断科、栄養管理室、臨床工学技士の方が国際学会に参加をされるなど、医師ばかりでなくコメディカル部門についても確実に実績を伸ばしており、当院の臨床研究の活性化に貢献いただいております。令和元年から 6 年度までの派遣については新型コロナウイルスの世界的流行により断腸の思いで中止となり、再開の目途はついておりません。今後、参加・交流が再開できることを期待致します。

臨床研究部組織図 2026年4月1日



# 独立行政法人国立病院機構福山医療センター 倫理審査委員会委員名簿

令和8年4月1日

氏名	職名又は職業	備考
大塚 眞哉	臨床研究部長	委員長
寺石 文則	統括診療部長	副委員長
高根 浩	福山大学薬学部教授	外部委員
大元 和貴	大元・秋山法律事務所弁護士	外部委員
金 仁洙	外科医師	外部委員
日下部 典子	福山大学 人間文化学部心理学科教授	外部委員
金吉 俊彦	内科医師	
荒木 徹	診療部長（小児科担当）	
内海 方嗣	医長（肝胆膵外科担当）	
兼安 祐子	医師（放射線治療科担当）	
平 和宏	事務部長	
金子 眞由美	看護部長	
濱岡 照隆	薬剤部長	
森岡 頼彦	管理課長	

# 独立行政法人国立病院機構福山医療センター

## 臨床倫理審査委員会委員名簿

令和8年4月1日

氏名	職名又は職業	備考
大塚 眞哉	臨床研究部長	委員長
寺石 文則	統括診療部長	副委員長
高根 浩	福山大学薬学部教授	外部委員
大元 和貴	大元・秋山法律事務所弁護士	外部委員
金 仁洙	外科医師	外部委員
日下部 典子	福山大学 人間文化学部心理学科教授	外部委員
金吉 俊彦	内科医師	
荒木 徹	診療部長（小児科担当）	
内海 方嗣	医長（肝胆膵外科担当）	
平 和宏	事務部長	
金子 眞由美	看護部長	
濱岡 照隆	薬剤部長	
森岡 頼彦	管理課長	
高田 薫	医療安全管理係長	
中川 渉	専門職	

独立行政法人国立病院機構福山医療センター  
研究利益相反審査委員会名簿

令和8年4月1日 現在

委員(長)	氏名	役職	分野
委員長	大塚 眞哉	臨床研究部長	
副委員長	寺石 文則	統括診療部長	
委員	高根 浩	福山大学薬学部教授	外部委員
委員	大元 和貴	大元・秋山法律事務所弁護士	外部委員
委員	金 仁洙	外科医師	外部委員
委員	日下部 典子	福山大学 人間文化学部心理学科教授	外部委員
委員	金吉 俊彦	内科医師	
委員	荒木 徹	診療部長(小児科担当)	
委員	内海 方嗣	医長(肝胆膵外科担当)	
委員	兼安 祐子	医師(放射線治療科)	
委員	平 和宏	事務部長	
委員	金子 眞由美	看護部長	
委員	濱岡 照隆	薬剤部長	
委員	森岡 頼彦	管理課長	

## 受託研究審査委員会委員名簿

令和8年4月1日現在

	氏名	職名又は職業	資格	委員区分	備考
1	内海 方嗣	肝・胆・膵外科医長	医師	専門委員	委員長
2	荒木 徹	診療部長（小児科担当）	医師	専門委員	副委員長
3	高根 浩	福山大学薬学部教授	薬剤師	外部委員	
4	日下部 典子	福山大学人間文化学部 心理学科 教授	—	外部委員	
5	大元 和貴	大元・秋山法律事務所 弁護士	弁護士	外部委員	
6	大塚 眞哉	臨床研究部長	医師	専門委員	
7	寺石 文則	統括診療部長	医師	専門委員	
8	金吉 俊彦	内科医師	医師	専門委員	
9	兼安 祐子	放射線治療科医師	医師	専門委員	
10	平 和宏	事務部長	—	非専門委員	
11	金子 眞由美	看護部長	看護師	専門委員	
12	濱岡 照隆	薬剤部長	薬剤師	専門委員	
13	森岡 頼彦	管理課長	—	非専門委員	

2024年度 倫理審査委員会承認課題一覧

受付番号	研究課題名	研究代表施設	研究代表者	当院研究責任者所属	当院研究責任者
R6-1	胆道癌の遺伝子変異と臨床病理学的特徴との関連を解明することを目的とした多施設共同観察研究	岡山大学病院 岡山県南西部(笠岡)総合診療医学講座/消化器内科	堀口繁	消化器内科	豊川 達也
R6-2	第1回日本放射線医療技術学術大会への演題発表について	放射線科	長迫 翔太	放射線科	長迫 翔太
R6-3	去勢抵抗性前立腺癌におけるドセタキセル療法での併用ステロイドの有効性と副作用のプロファイルに及ぼす影響に関する調査-プレドニゾンとデキサメタゾンにおける比較-	薬剤部	高田 遼	薬剤部	高田 遼
R6-4	当院における周術期栄養管理実施加算導入後の栄養管理の現状と課題	栄養管理室	森廣 真菜	栄養管理室	森廣 真菜
R6-5	切除不能・進行再発大腸がんに対するベバシマブ+トリフルリジン・チピラシル(TAS-102)併用療法の有効性に患者背景が及ぼす影響についての後方視的研究	薬剤部	牧 賢利	薬剤部	牧 賢利
R6-6	尿細胞診報告様式 The Paris System(TPS)の有用性検証	臨床検査科	福田 由美子	臨床検査科	福田 由美子
R6-7	JGOG1088S・JROSG 22-1 IIVB 子宮頸癌に対する化学療法・骨盤部放射線治療の多施設共同調査研究	神奈川県立がんセンター 放射線治療科	土田 圭祐	放射線治療科	兼安 祐子
R6-8	結腸直腸T1癌 内視鏡的非治療切除後の転移再発リスクの層別化	香川県立中央病院 消化器内科	稲葉 知己	消化器内科	豊川 達也
R6-9	先天性サイトメガロウイルス感染症の臨床検体中 CMV DNA の定量とレジストリ構築	愛知医科大学医学部小児科学講座	伊藤 嘉規	新生児科	岩瀬 瑞恵
R6-10	ペマフィブラート投与症例における治療効果と有害事象発現の検討	消化器内科	坂田 雅浩	消化器内科	坂田 雅浩
R6-11	アンケート調査に基づく薬学部実務実習生に対する医療用麻薬の服薬指導のロールプレイを含んだ緩和ケアオンライン実習の有用性の検討	薬剤部	中村 孝佑	薬剤部	中村 孝佑
R6-12	再発小細胞肺癌に対するアムルピシン塩酸塩療法における重篤な好中球減少症の発生因子の検証に関する後方視的多施設共同研究	独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター 薬剤部	武良 卓哉	薬剤部	高田 遼
R6-13	日本小児科学会誌への論文投稿について	小児科	細木 瑞穂	小児科	細木 瑞穂
R6-14	基質拡張型β-ラクタマーゼ(ESLB)産生菌の菌血症における初期抗菌薬選択が治療効果に与える影響についての後方視的研究	薬剤部	高橋 俊樹	薬剤部	高橋 俊樹
R6-15	第125回日本外科学会定期学術集会への演題発表について	外科	大塚 真哉	外科	大塚 真哉
R6-16	アジアにおける肺癌個別化医療の確立を目指したゲノムスクリーニング研究:Lung Cancer Genomic Screening Project for Individualized Medicine in Asia(LC-SCRUM-Asia)	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	後藤 功一	呼吸器外科	高橋 健司
R6-17	第76回西日本泌尿器科学会総会への演題発表について	後期臨床研修医	河野 晋太郎	後期臨床研修医	河野 晋太郎
R6-18	Cureusへの論文投稿について	小児科	藤原 倫昌	小児科	藤原 倫昌
R6-19	日本エイズ学会誌への論文投稿について	薬剤部	野村 直幸	薬剤部	野村 直幸
R6-20	切除不能肺癌患者におけるFOLFIRINOX療法とGEM+nab-PTX療法の治療順による有効性の比較	薬剤部	住井 暹	薬剤部	住井 暹
R6-21	「経口抗菌薬に対する保険薬局薬剤師への意識調査」～病院保険薬局連携の必要性について～	薬剤部	濱野 有里	薬剤部	濱野 有里
R6-22	Clinical remission達成後の喘息患者における生物学的製剤中止についての前向き観察研究	岡山大学病院 学術研究院医薬学域 検査技術科学	宮原 信明	呼吸器内科	谷口 曉彦
R6-23	喘息患者の外的刺激過敏性に対する生物学的製剤の効果の検討	岡山大学病院 学術研究院保健学域 検査技術科学	宮原 信明	呼吸器内科	谷口 曉彦
R6-24	炎症性腸疾患女性のプロダクティブヘルス	順天堂大学大学院 医療看護学研究科	村越 春那	消化器内科	豊川 達也
R6-25	第62回日本小児外科学会学術集会への演題発表について	小児外科	岩崎 駿	小児外科	岩崎 駿
R6-26	Internal Medicineへの論文投稿について	薬剤部	牧 賢利	薬剤部	牧 賢利
R6-27	ミスマッチ修復(MMR)遺伝子変異/マイクロサテライト不安定性(MSI)およびBRAF遺伝子変異を有する大腸癌の臨床病理学的特徴の研究	病理診断科	表 梨華	病理診断科	表 梨華
R6-28	Pediatric internationalへの論文投稿について	小児科	藤原 倫昌	小児科	藤原 倫昌
R6-29	第40回日本環境感染学会学術集会への演題発表について	感染制御部	片山 智之	感染制御部	片山 智之
R6-30	小児期発症の胆汁うっ滞性肝疾患を対象とした多施設前向きレジストリ研究	東京大学 大学院薬学系研究科 分子薬物動態学教室	林 久允	新生児科	岩瀬 瑞恵

2024年度 臨床倫理審査委員会承認課題一覧

受付番号	課題名	実施責任者	実施責任者所属
KER6-1	ロボット支援腹腔鏡下直腸切除・切断術の実施について	稲垣 優	外科
KER6-2	ロボット支援術(腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(根治的腎摘除術))の実施について	長谷川 泰久	泌尿器科
KER6-3	ロボット支援術(腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術)の実施について	長谷川 泰久	泌尿器科
KER6-4	ロボット支援腹腔鏡下肝切除術 部分切除(単回の切除によるもの)の実施について	内海 方嗣	肝胆膵外科
KER6-5	非侵襲性出生前遺伝学的検査(NPT)の新規導入	中村 一仁	産婦人科
KER6-6	院内製剤における塩化亜鉛を使用した上咽頭擦過療法(EAT)の実施について	福島 慶	耳鼻咽喉・頭頸部外科
KER6-7	欠番		
KER6-8	ロボット支援腹腔鏡下膵体尾部切除術(脾同時切除の場合)の実施について	内海 方嗣	肝胆膵外科
KER6-9	婦人科癌放射線治療における腫瘍線量増加と晩期有害事象低減目的のスペーサーとしてのヒアルロン酸ナトリウム(ムコアップ®)の骨盤内注入における適応外使用について	兼安 祐子	放射線治療科

2024年度公的研究助成

	研究課題名	研究者	研究者所属
大阪消化管がん化学療法研究会	Ramucirumab抵抗性進行胃癌に対するramucirumab+Irinotecan併用療法のインターグループランダム化第Ⅲ相試験	豊川 達也	内科・消化器内科
東京医科大学 奈良県立医科大学 広島大学病院	エミシズマブ定期投与中のFVIIIインヒビターを保有しない先天性血友病A患者における、身体活動及び出血イベント、日常生活の質、安全性を評価する多施設共同、前向き観察研究	齊藤 誠司	感染症内科
特定非営利活動法人 日本がん臨床試験推進機構	RAS遺伝子変異型腫瘍を有する切除不能進行・再発大腸癌患者における化学療法後の血液中RAS遺伝子変異を評価する観察研究（JACCRO CC-17）	豊川 達也	内科・消化器内科
特定非営利活動法人 日本がん臨床試験推進機構	BRAF変異型大腸癌に対するBRAF阻害薬併用療法のバイオマーカー探索を含めた観察研究（BEETS試験）：JACCRO CC-18	豊川 達也	内科・消化器内科
岡山大学病院	がん関連血栓症を含む静脈血栓症患者に対するエドキサバンの抗凝固効果とその効果を阻害する因子に関する多施設、非盲検、探索的、医師主導型臨床研究	梶川 隆	循環器内科
特定非営利活動法人 日本がん臨床試験推進機構	術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対するCapeOX+ニボルマブ療法の第Ⅱ相試験（JACCRO GC-11（FirSTAR試験））	大塚 眞哉	外科
東邦大学医療センター 佐倉病院	AJM300治験（GT3試験）保存血清を利用したバイオマーカーの測定、自覚症状改善時期及び寛解維持治療薬調査～ASPECT study～	豊川 達也	内科・消化器内科
帝人ナカシマメディカル 株式会社	新たな大腿骨ステムを用いた人工股関節置換術における術後経過観察	松下 具敬	整形外科
特定非営利活動法人 日本がん臨床試験推進機構	HER2陰性・CLDN18.2陽性の切除不能進行再発胃または食道胃接合部癌に対するCapeOX+ゾルベツキシマブ療法を参照群とするSOX+ゾルベツキシマブ療法の有効性を検討するランダム化非比較第Ⅱ相臨床試験（JACCRO GC-12（GSOLVE試験））	豊川 達也	内科・消化器内科
特定非営利活動法人 日本がん臨床試験推進機構	切除不能進行・再発大腸癌に対するフルキンチニブ単剤療法のバイオマーカー探索を含めた観察研究（FruBLOOM試験）：JACCRO GC-19	豊川 達也	内科・消化器内科
JCOG（Japan Clinical Oncology Group）乳癌グループ	JCOG1204 再発高リスク乳癌術後患者の標準的フォローアップとインテンスブフォローアップの比較第Ⅲ相試験	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG（Japan Clinical Oncology Group）乳癌グループ	JCOG1204A1 ctDNAによる乳癌再発の早期検出に関する探索的研究	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG（Japan Clinical Oncology Group）乳癌グループ	JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンクへの試料の提供と将来の利用について	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG（Japan Clinical Oncology Group）乳癌グループ	JCOG1017 薬物療法非抵抗性StageⅣ乳癌に対する原発巣切除の意義（原発巣切除なしversusあり）に関するランダム化比較試験	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG（Japan Clinical Oncology Group）乳癌グループ	JCOG1017A1 JCOG1017「薬物療法非抵抗性StageⅣ乳癌に対する原発巣切除の意義（原発巣切除なしversusあり）に関するランダム化比較試験」の附随研究	三好 和也	乳腺・内分泌外科

	研究課題名	研究者	研究者所属
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG1507 病理学的StageⅡ/Ⅲで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	JCOG1505 エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除+内分泌療法の有効性に関する単群検証的試験	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	JCOG1607 高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG-1509 局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG1509B JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンクJCOG-1509登録患者の凍結組織・血液バンキング	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG1711 漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	JCOG1806 薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的試験	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	JCOG1709A:日本人乳癌患者を対象とし仮想的市場評価法を用いて患者が考える「生命」や「健康」に対する金銭的価値を支払い意思額 (Willingness to pay:WTP) として検証する前向き観察研究	三好 和也	乳腺・内分泌外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌局所領域再発の予後を評価する後方視的研究	三好 和也	乳腺・内分泌外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG2203 : 食道胃接合部腺癌に対するDOS or FLOTを用いた術前化学療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG2204 : 大型3型・4型胃癌に対する術前化学療法としての5-FU+レボホリナート+オキサリプラチン+ドセタキセル (FLOT) 療法とドセタキセル+オキサリプラチン+S-1 (DOS) 療法の有効性を探索するランダム化第Ⅱ相試験	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	JCOG2110 : オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 胃癌グループ	JCOG2301 : 化学療法が奏効した診断時切除不能cStageⅣ/pStageⅣ胃癌に対するConversion surgeryの意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	大塚 眞哉	外科
JCOG (Japan Clinical Oncology Group) 乳癌グループ	JCOG1806A1 : 薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHER2陽性原発乳癌に対する非切除療法を目指すJCOG1806治療戦略を経験した際の心理的葛藤の有無を患者経験価値にて評価する横断的観察研究	高橋 寛敏	乳腺・内分泌外科

	研究課題名	研究者	研究者所属
国立がん研究センター 東病院	アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	高橋 健司	呼吸器外科
国立がん研究センター 東病院	非小細胞肺癌における薬物治療耐性後の個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	岡田 俊明	呼吸器内科
国立がん研究センター 東病院	肺癌における周術期個別化医療の確立を目指した遺伝子スクリーニングと微小残存病変のモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	高橋 健司	呼吸器外科
国立がん研究センター 東病院	アジアにおける肺癌個別化医療の確立を目指したゲノムスクリーニング研究：Lung Cancer Genomic Screening Project for Individualized Medicine in Asia (LC-SCRUM-Asia)	高橋 健司	呼吸器外科
独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	免疫賦活作用を有する新規分子標的治療後のB型肝炎ウイルス再活性化に関する実態調査（固形腫瘍）	金吉 俊彦	肝臓内科
EBM (Evidence-Based Medicine) 推進のための大規模臨床研究	膵がん切除後の補助化学療法におけるS-1単独療法とS-1とメトホルミンの併用療法の第Ⅱ相比較試験（ASMET）	稲垣 優	外科
EBM (Evidence-Based Medicine) 推進のための大規模臨床研究	免疫抑制患者に対するPCV13とPPSV23の連続接種とPPSV23単独接種の有効性の比較-二重盲検無作為化比較試験-（CPI）	大塚 眞哉	外科
NHOネットワーク 共同研究 (成育医療グループ)	早期新生児期の鶏卵摂取による即時型鶏卵アレルギーの発症予防効果のランダム化比較試験による検証	藤原 倫昌	小児科
NHOネットワーク 共同研究 (循環器グループ)	慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立-新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連-	廣田 稔	循環器内科
NHOネットワーク 共同研究 (循環器グループ)	冠動脈軽度から中等度狭窄の高リスクプラークを有する患者に対する適正な脂質管理目標値の有効性及び安全性を検討する多施設共同非盲検ランダム化比較試験	廣田 稔	循環器内科
NHOネットワーク 共同研究 (がん（消化器）グループ)	体幹部定位放射線療法後の潜在的Abscopal効果による肝細胞癌再発抑制：探索的観察研究	金吉 俊彦	肝臓内科
NHOネットワーク 共同研究 (感覚器グループ)	ウイルス性顔面神経麻痺（Bell麻痺、Hunt症候群、ZSH）に対する新規診断法および治療法の開発と安全性の検討	中谷 宏章	耳鼻咽喉・頭頸部外科
NHOネットワーク 共同研究 (循環器グループ)	がん化学療法関連心筋症の予測、早期発見、早期治療～心臓超音波検査speckle tracking法、タイチンtruncating変異の検出、尿中タイチンNフラグメント測定、血中心筋トロポニンI高感度測定の比較検討～	梶川 隆	循環器内科
NHOネットワーク 共同研究 (がん（消化器）グループ)	胃がん術後の予後因子の解析：Transmembrane protease serine 4（TMPRSS4）のバイオマーカーとしての有用性の検証	大塚 眞哉	外科
NHOネットワーク 共同研究 (小児・周産期グループ)	周産期のシンバイオティクス投与による食物アレルギー発症予防効果の多施設共同二重盲検ランダム化比較試験による検証	藤原 倫昌	小児科
NHOネットワーク 共同研究 (感覚器グループ)	内頸動脈変位走行異常による咽喉頭異常感の把握と、その診断法の標準化を目指す研究 -咽喉頭異常感における内頸動脈変位走行異常の把握と臨床的意義の研究-	中谷 宏章	耳鼻咽喉・頭頸部外科

	研究課題名	研究者	研究者所属
NHOネットワーク 共同研究 (免疫・アレルギーグループ)	クルミ・カシューナッツアレルギー発症に影響する宿主因子と環境因子の解明/多施設共同前向きコホート研究	藤原 倫昌	小児科
NHOネットワーク 共同研究 (感覚器グループ)	難聴者に対する補聴器介入の有無における認知機能の影響に関する比較試験	福島 慶	耳鼻咽喉・頭頸部外科

## 2024年度 受託研究一覧

### <治験>

研究課題名	委託者	実施診療科
クローン病患者を対象としてrisankizumabの有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照52週間維持療法試験及び非盲検継続投与試験	アッヴィ合同会社	消化器内科 内科
潰瘍性大腸炎患者を対象としてrisankizumabの有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照52週間維持療法試験及び非盲検継続投与試験	アッヴィ合同会社	消化器内科 内科
潰瘍性大腸炎患者を対象としたウパダシチニブ（ABT-494）の安全性及び有効性を評価する第Ⅲ相多施設共同長期継続投与試験	アッヴィ合同会社	消化器内科 内科
成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象として、somapacitanの週1回投与の有効性及び安全性を1日1回投与のNorditropin®と比較検討する	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社	小児科
（治験国内管理人）IQVIAサービシーズ ジャパン合同会社の依頼による潰瘍性大腸炎患者を対象としたetrasimodの第3相非盲検試験	ファイザー株式会社	消化器内科 内科
アルファナビ ファーマ株式会社の依頼による小児四肢疼痛発作症患者を対象としたANP-230の第Ⅰ/Ⅱ相試験	アルファナビ ファーマ株式会社	小児科
切除不能進行・再発小腸癌患者に対するベバシズマブ併用FOLFOX療法の第Ⅱ相多施設共同二重盲検ランダム化比較試験（医師主導治験）	医師主導治験	内科 消化器内科 外科
キッセイ薬品工業株式会社の依頼による前期第Ⅱ相試験	キッセイ薬品工業株式会社	内科 消化器内科
Meiji Seikaファルマ株式会社の依頼によるOP0595のcUTI/AP患者を対象とした第Ⅲ相試験	Meiji Seikaファルマ株式会社	泌尿器科
サノフィ株式会社の依頼による潰瘍性大腸炎成人患者を対象としたSAR443122（eclitasertib）の第Ⅱ相試験	サノフィ株式会社	内科 消化器内科
nemolizumabの乳幼児及び小児アトピー性皮膚炎患者を対象とした第Ⅲ相試験—比較/長期投与試験—	マルホ株式会社	小児科

研究課題名	委託者	実施診療科
<p>A randomized, double-blind, placebo-controlled, multicenter phase III study to evaluate the efficacy and safety of ABX464 once daily for induction treatment in subjects with moderately to severely active ulcerative colitis  中等度から重度の活動性を有する潰瘍性大腸炎患者を対象に、導入療法としてABX464を1日1回投与した際の有効性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第III相試験</p>	<p>(治験国内管理人)  IQVIAサービシーズ ジャパン  合同会社</p>	<p>内科  消化器内科</p>
<p>A randomized, double-blind, multicenter phase III study to evaluate the long-term efficacy and safety of ABX464 25 mg or 50 mg once daily as a maintenance therapy in subjects with moderately to severely active ulcerative colitis.  中等度から重度の活動性を有する潰瘍性大腸炎患者を対象に、維持療法としてABX464 25 mg又は50 mgを1日1回投与した際の長期有効性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、多施設共同、第III相試験</p>	<p>(治験国内管理人)  IQVIAサービシーズ ジャパン  合同会社</p>	<p>内科  消化器内科</p>
<p>小児静脈栄養関連胆汁うっ滞（腸管不全関連肝障害）に対する魚油由来静注用脂肪乳剤の有効性と安全性に関する医師主導治験（第III相オープン検証試験）</p>	<p>医師主導治験</p>	<p>小児外科</p>
<p>中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者を対象にMK-7240を投与した際の有効性と安全性を検討する第III相、無作為化、プラセボ対照、二重盲検試験</p>	<p>MSD株式会社</p>	<p>内科  消化器内科</p>
<p>重症喘息を有する5歳以上12歳未満の小児患者を対象としてテゼペルマブの有効性及び安全性をプラセボと比較評価する試験</p>	<p>アストラゼネカ株式会社</p>	<p>小児科</p>
<p>中等症から重症の活動期クローン病患者を対象にMK-7240 (tulisokibart) を投与した際の有効性と安全性を検討する第III相、無作為化、プラセボ対照、二重盲検試験</p>	<p>MSD株式会社</p>	<p>内科  消化器内科</p>
<p>活動性潰瘍性大腸炎を有する成人被験者を対象としたlutikizumabの第II相試験</p>	<p>アツヴィ合同会社</p>	<p>内科  消化器内科</p>

<特定使用成績調査・使用成績調査>

研究課題名	委託者	実施診療科
献血グロベニン-I 静注用「スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性皮膚壊死症」の使用成績調査	日本製薬株式会社	皮膚科
イブリーフ静注20mg 一般使用成績調査	千寿製薬株式会社	小児科
エンタイビオ点滴静注用300mg特定使用成績調査【クローン病】	武田薬品工業株式会社	消化器内科
ローブレナ錠特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
ビンダケルカプセル特定使用成績調査 トランスサイレチン型心アミロイドーシス患者に対する調査（プロトコルNo.B3461064）	ファイザー株式会社	循環器内科
リンヴォック <sup>®</sup> 錠 特定使用成績調査（全例調査） ー関節リウマチ患者を対象としたリンヴォック <sup>®</sup> 錠の安全性及び有効性に関する調査ー	アッヴィ合同会社	整形外科
エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査 ー乳癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討ー	第一三共株式会社	乳腺・内分泌外科
エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査 ー胃癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討ー	第一三共株式会社	消化器内科
エドルミズ <sup>®</sup> 特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕	小野薬品工業株式会社	呼吸器外科
ステラーラの潰瘍性大腸炎に対する特定使用成績調査（プロトコルNo：STL3L）	ヤンセンファーマ株式会社	内科・消化器内科
エドルミズ <sup>®</sup> 特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕	小野薬品工業株式会社	内科・消化器内科
エンハーツ点滴静注用 100mg 特定使用成績調査	第一三共株式会社	外科
エドルミズ <sup>®</sup> 特定使用成績調査〔がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌〕	小野薬品工業株式会社	外科
リティンパ耳科用250 $\mu$ gセット一般使用成績調査	ノーベルファーマ株式会社	耳鼻咽喉・頭頸部外科
ステボロニン <sup>®</sup> 点滴静注バッグ 9000mg/300mL、BNCT治療システムNeuCure及びBNCT線量計算プログラムNeuCureドーズエンジンに係る一般使用成績調査（頭頸部癌）	ステラファーマ株式会社 住友重機械工業株式会社	耳鼻咽喉・頭頸部外科
エプリスディ <sup>®</sup> ドライシロップ60mg一般使用成績調査（全例調査）ー脊髄性筋萎縮症ー	中外製薬株式会社	小児科
潰瘍性大腸炎患者を対象としたジセレカ錠特定使用成績調査	エーザイ株式会社	内科・消化器内科
カログラ <sup>®</sup> 錠120mg 特定使用成績調査	キッセイ薬品工業株式会社	内科・消化器内科
リンヴォック <sup>®</sup> 錠 特定使用成績調査 ー中等症から重症の潰瘍性大腸炎を対象とした安全性及び有効性に関する調査ー	アッヴィ合同会社	内科・消化器内科

研究課題名	委託者	実施診療科
ジェセリ錠 40mg 一般使用成績調査（全例調査）	大鵬薬品工業株式会社	消化器内科
ラパリムス錠1mg（難治性リンパ管疾患）一般使用成績調査（全例調査）	ノーベルファーマ株式会社	小児外科
ゼジューラ特定使用成績調査「卵巣癌」	武田薬品工業株式会社	産婦人科
イジルド点滴静注25mg イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
シムブリッジならびに専用器械の製造販売後、使用成績調査	株式会社 トータルメディカルサプライ	整形外科
リンヴォック <sup>®</sup> 錠 特定使用成績調査 -中等症から重症の活動期クローン病を対象とした安全性及び有効性に関する調査-	アッヴィ合同会社	消化器内科
ヘムライブラ <sup>®</sup> 皮下注 一般使用成績調査 -後天性血友病A患者における出血傾向の抑制-	中外製薬株式会社	感染症内科
イジルド点滴静注25mg・300mg イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 切除不能な肝細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	アストラゼネカ株式会社	肝臓内科
プレセデックス <sup>®</sup> 静注特定使用成績調査（小児の非挿管での非侵襲的な処置及び検査時の鎮静）（プロトコールNo.:C0801044）	ファイザー株式会社	小児科
ラパリムス錠・顆粒（難治性脈管腫瘍及び難治性脈管奇形）一般使用成績調査（全例調査）	ノーベルファーマ株式会社	小児科

# 部門別研究業績

## 令和 6 年度

## 【内科・消化器内科】

[英語原著論文]

Tatsuya Kikuchi, Yasuto Takeuchi, Kazuhiro Nouse, Kazuya Kariyama, Kenji Kuwaki, Junichi Toshimori, Shota Iwado, Akio Moriya, Hiroaki Hagihara, Hiroyuki Takabatake, Toshifumi Tada, Tetsuya Yasunaka, [Masahiro Sakata](#), Masahiko Sue, Nozomi Miyake, Takuya Adachi, Nozomu Wada, Hideki Onishi, Hidenori Shiraha, Akinobu Takaki, Motoyuki Otsuka

Predictive factors for transition to conversion therapy in hepatocellular carcinoma using atezolizumab plus bevacizumab  
Liver International. 2024 Jun;44(6):1456–1463

Shigeo Shimose, Issei Saeki, Tetsu Tomonari, Takanori Ito, Joji Tani, Yasuto Takeuchi, Naoki Yoshioka, Takehito Naito, Mamiko Takeuchi, Satoru Kakizaki, Takeshi Hatanaka, Kyo Sasaki, Tetsuya Yasunaka, [Masahiro Sakata](#), Hideki Iwamoto, Satoshi Itano, Tomotake Shirono, Norikazu Tanabe, Takafumi Yamamoto, Atsushi Naganuma, Soji Nishina, Motoyuki Otsuka, Hiroki Kawashima, Tetsuji Takayama, Taro Takami, Takumi Kawaguchi  
Initial clinical experience with durvalumab plus tremelimumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma in real-world practice  
Oncology Letters . 2024 Jun 25;28(2):397

Akihiro Matsumi, Hironari Kato, Taiji Ogawa, Toru Ueki, Masaki Wato, Masakuni Fujii, [Tatsuya Toyokawa](#), Ryo Harada, Yuki Ishihara, Masahiro Takatani, Hirofumi Tsugeno, Naoko Yunoki, Takeshi Tomoda, Toshiharu Mitsuhashi, Motoyuki Otsuka

Risk factors and treatment strategies for cholecystitis after metallic stent placement for malignant biliary obstruction: a multicenter retrospective study  
Gastrointestinal Endoscopy. 2024 Jul;100(1):76–84

Tatsuya Kikuchi, Yasuto Takeuchi, Kazuhiro Nouse, Kazuya Kariyama, Kenji Kuwaki, Junichi Toshimori, Shota Iwado, Akio Moriya, Hiroaki Hagihara, Hiroyuki Takabatake, Toshifumi Tada, Tetsuya Yasunaka, [Masahiro Sakata](#), Masahiko Sue, Nozomi Miyake, Takuya Adachi, Nozomu Wada, Hideki Onishi, Hidenori Shiraha, Akinobu Takaki, Motoyuki Otsuka

Response to the letter: “Predictive factors for transition to conversion therapy in HCC using atezolizumab plus bevacizumab”  
Liver International. 2024 Jul;44(7):1736–1737

Issei Saeki, Shigeo Shimose, Tetsu Tomonari, Takanori Ito, Joji Tani, Yasuto Takeuchi, Naoki Yoshioka, Takehito Naito, Mamiko Takeuchi, Satoru Kakizaki, Takeshi Hatanaka, Kyo Sasaki, Tetsuya Yasunaka, [Masahiro Sakata](#), Hideki Iwamoto, Satoshi Itano, Tomotake Shirono, Norikazu Tanabe, Takafumi Yamamoto, Yuki Kanayama, Atsushi Naganuma, Sohji Nishina, Motoyuki Otsuka, Hideki Kobara, Hiroki Kawashima, Tetsuji Takayama, Takumi Kawaguchi, Takahiro Yamasaki, Taro Takami

Alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin can predict the objective response of patients with hepatocellular carcinoma receiving durvalumab plus tremelimumab therapy  
PLoS One.2024 sep 25;19(9)

Shoichiro Hirata, Kenta Hamada, Masaya Iwamuro, Hirokazu Mouri, Koji Miyahara, Takao Tsuzuki, Kenji Yamauchi, Sayo Kobayashi, Sakuma Takahashi, Ryuta Takenaka, Shinichiro Hori, Masafumi Inoue, [Tatsuya Toyokawa](#), Mamoru Nishimura, Shuhei Ishiyama, Jiro Miyaie, Ryo Kato, Minoru Matsubara, Naoko Yunoki, Hiromitsu Kanzaki, Yoshiro Kawahara, Hiroyuki Okada, Hideki Ishikawa, Motoyuki Otsuka

Rates and risk factors of bleeding after gastric endoscopic submucosal dissection with continuous warfarin or 1-day withdrawal of direct oral anticoagulants  
Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2024 Dec;39(12):2760–2766

Yuichiro Hirai, Toshio Uraoka, Michiko Wada, Hideki Mori, Ai Fujimoto, Yuko Sakakibara, [Tatsuya Toyokawa](#), Takashi Kagaya, Yoshihiro Sasaki, Tomohiko Mannami, Toshio Kuwai, Noriko Watanabe, Hiroshige Hamada, Naoki Esaka, Toshihisa Kimura, Hiroyuki Fujii, Yasuo Hosoda, Masaaki Shimada, Hideharu Miyabayashi, Shinichi Somada, Katsuhiko Mabe, Shuji Inoue, Hiroki Saito, Kensuke Furuya, Norio Kawamura, Tomohiro Kudo, Keisuke Hori, Naoto Sakamoto, Mototsugu Kato, Nobuya Higuchi, Naohiko Harada

Urgent contrast-enhanced computed tomography before early colonoscopy in the management of colonic diverticular bleeding: A multicenter randomized controlled trial  
Digestion. 2024 Oct 15:1–13

Yuki Baba, Seiji Kawano, Akinobu Takaki, Yoshiyasu Kono, [Joichiro Horii](#), Sakuma Takahashi, Daisuke Kawai, Sayo Kobayashi, Hiroyuki Okada  
Relevance of oxidative stress for small intestinal injuries induced by nonsteroidal anti-inflammatory drugs: A multicenter prospective study  
Medicine (Baltimore). 2024 Dec 13;103(50)

Sayo Kobayashi, Keita Harada, Toru Nawa, Tomoo Fujisawa, Toru Ueki, Junichiro Nasu, Yuki Morito, [Tatsuya Toyokawa](#), Tomoki Inaba, Masahide Kita, Ryuta Takenaka, Masafumi Inoue, Reiji Higashi, Takao Tsuduki, Minoru Matsubara, Yasushi Yamasaki, Hiroyuki Okada, Motoyuki Otsuka  
Bleeding Risk During Colorectal Endoscopic Mucosal Resection With Continued Anticoagulant Therapy: A Multicenter Study  
Cureus. 2025 Jan 1;17(1)

Yuki Fujii, Kazuyuki Matsumoto, Kiyooki Ochi, Hitomi Himei, Ichiro Sakakihara, Eijiro Ueta, [Tatsuya Toyokawa](#), Ryo Harada, Taiji Ogawa, Takeshi Tomoda, Hironari Kato, Ryosuke Sato, Taisuke Obata, Akihiro Matsumi, Kazuya Miyamoto, Daisuke Uchida, Shigeru Horiguchi, Koichiro Tsutsumi, Motoyuki Otsuka

Clipping closure length is a crucial factor for delayed bleeding after endoscopic papillectomy: a retrospective multicenter cohort study  
therapeutic advances in gastroenterology. 2025 Mar 18:18

[和文原著論文]

救急医療と漢方 消化器・腹部領域における漢方治療  
坂田 雅浩  
漢方と最新治療 33(4)Page259-265 2024.11

[国際学会]

Tatsuya Toyokawa,Isao Fujita  
Investigation on the recurrence and prognosis with MM/SM1 oesophageal cancer after endoscopic submucosal dissection  
20th ISDE World Congress for Esophageal Diseases September 22-24,2024(22 Sep),in Edinburgh

[全国学会]

肛門病変を有するクローン病に対する抗 TNF- $\alpha$  抗体製剤の使用成績  
豊川 達也、石川 順一、住井 遼平、原 友太、伏見 崇、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、堀井 城一郎、藤田 勲生  
第 110 回日本消化器病学会総会 2024.5.9-11(5.10) 徳島市

閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置から手術までの待機期間についての検討

藤田 勲生、豊川 達也、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 遼平、原 友太、伏見 崇、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、堀井 城一郎  
第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.5.30-6.1(5.30) 港区

当院における鋸歯状腺腫(TSA)の内視鏡診断の現状

住井 遼平、豊川 達也、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、原 友太、伏見 崇、上田 祐也、表 梨華、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、堀井 城一郎  
第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.5.30-6.1(5.30) 港区

表在性非乳頭部十二指腸腫瘍を疑ったが組織診断が異なった症例についての検討

原 友太、豊川 達也、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、住井 遼平、伏見 崇、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、堀井 城一郎、藤田 勲生  
第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.5.30-6.1(5.31) 港区

当院におけるクローン病の腸管狭窄に対する内視鏡的拡張術の成績(狭窄部に癌病

変を認めた症例で穿孔を来した症例の報告も含めて)  
豊川 達也、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 遼平、原 友太、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生  
第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.5.30-6.1(5.31) 港区

当院における大腸憩室出血に対する内視鏡検査の検討

石川 順一、藤田 勲生、豊川 達也  
第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.5.30-6.1(6.1) 港区

安静を維持できない高齢の後天性血友病 A 患者にヘムライブラを導入し出血予防ができた症例

齊藤 誠司、山崎 尚也、藤井 輝久  
第 46 回日本血栓止血学会学術集会 2024.6.13-15(6.15) 金沢市

広島県東部地区における地域での HIV 感染者の受け入れ促進に HIV 診療チームによる出前研修が有効である

齊藤 誠司、福井 洋介  
第 98 回日本感染症学会学術講演会 2024.6.27-29(6.28) 神戸市

表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍(SNADET)の誤診例についての検討

原 友太、豊川 達也、宇田 陽紀、平岡 凌河、岡本 晃一、長江 桃夏、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、住井 遼平、稲生 祥子、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、金吉 俊彦  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

閉塞性大腸癌に対するステント治療から手術までの待機期間についての検討

藤田 勲生、宇田 陽紀、平岡 凌河、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 遼平、原 友太、稲生 祥子、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、豊川 達也  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

当院での消化器癌領域の遺伝子パネル検査の現状

住井 遼平、藤田 勲生、表 梨華、宇田 陽紀、平岡 凌河、岡本 晃一、佐藤 大直、長江 桃夏、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、原 友太、稲生 祥子、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、豊川 達也、金吉 俊彦  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

クローン病患者に対する抗 TNF- $\alpha$  抗体製剤治療の効果予測因子に関する検討(内視鏡所見も含めて)

豊川 達也、佐藤 大直、岡本 晃一、何本 佑太、石川 順一、住井 遼平、原 友太、上田 祐也、野間 康宏、藤田 勲生  
第 32 回日本消化器関連学会(JDDW2024) 2024.10.31-11.3(10.31) 神戸市

[地方学会]

結腸全摘後に舌炎、関節炎を合併した潰瘍性大腸炎(UC)の1例

高田 皓平、豊川 達也、佐藤 大直、岡本 晃一、何本 佑太、奥延 太希、東 莉央、石川 順一、杉崎 悠夏  
第130回日本内科学会中国地方会 2024.5.26 米子市

膀胱がんの十二指腸転移の1例

松森 俊祐、野間 康宏、宇田 陽気、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井裕梨、杉崎 悠夏、表 梨華  
第130回日本内科学会中国地方会 2024.5.26 米子市

当院における消化器癌遺伝子パネル検査の現状

住井 遼平、藤田 勲生、表 梨華、何本 佑太、石川 順一、原 友太、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、豊川 達也  
第121回日本消化器病学会中国支部例会・日本消化器病学会中国支部第39回教育講演会  
2024.6.8-9(6.8)米子市

出血と腹膜播種をきたした PDGFRA 変異陽性の胃類上皮型 GIST の一例

何本 佑太、藤田 勲生、宇田 陽紀、岡本 晃一、佐藤 大直、石川 順一、住井 裕梨、住井遼平、原 友太、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、  
豊川 達也、表 梨華、濱野 亮輔、柚木 宏介、大塚 真哉  
第121回日本消化器病学会中国支部例会・日本消化器病学会中国支部第39回教育講演会  
2024.6.8-9(6.8)米子市

貧血精査を契機に診断した小腸 GIST 合併の神経線維腫症1型の一症例

岡本 晃一、豊川 達也、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 遼平、原 友太、伏見 崇、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康弘、藤田 勲生、  
堀井 城一郎  
第121回日本消化器病学会中国支部例会・日本消化器病学会中国支部第39回教育講演会  
2024.6.8-9(6.8)米子市

症例報告:集学的治療により根治後6年間無再発生存中の StageIV 肺扁平上皮癌

重政 広綱、坂田 雅浩、上田 祐也、石川 順一、佐藤 大直、岡本 晃一、何本 佑太、住井 遼平、原 友太、伏見 崇、野間 康宏、堀井 城一  
朗、藤田 勲生、豊川 達也  
第121回日本消化器病学会中国支部例会・日本消化器病学会中国支部第39回教育講演会  
2024.6.8-9(6.8)米子市

経時的な増大を観察し得た多発胃脂肪肉腫の1例

佐藤 大直、豊川 達也、平岡 凌河、宇田 陽紀、岡本 晃一、長江 桃夏、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、住井 遼平、原 友太、稲生 祥子、  
上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、表 梨華  
第132回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 2024.7.14 広島市

肺扁平上皮癌の胃転移の1例

石井 康道、藤田 勲生、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、住井遼平、原 友太、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、  
金吉 俊彦、豊川 達也  
第132回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 2024.7.14 広島市

超音波内視鏡下腹水穿刺にて膀胱破裂を診断した1例

宇田 陽紀、野間 康宏、平岡 凌河、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、住井 遼平、原 友太、稲生 祥子、上田 祐  
也、坂田 雅浩、藤田 勲生、豊川 達也  
第132回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 2024.7.14 広島市

再出血を繰り返し止血に難渋した残胃 Dieulafoy 潰瘍の一例

長江 桃夏、坂田 雅浩、住井 遼平、宇田 陽紀、平岡 凌河、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、原 友太、稲生 祥  
子、上田 祐也、野間 康宏、藤田 勲生、豊川 達也  
第133回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.14) 岡山市

メッケル憩室シンチグラフィ陽性を契機に発見された小児若年性ポリープの1例

佐藤 直弥、石川 順一、宇田 陽紀、平岡 凌河、長江 桃夏、佐藤 大直、岡本 晃一、住井 遼平、原 友太、稲生 祥子、上田 祐也、坂田 雅  
浩、野間 康宏、金吉 俊彦、藤田 勲生、豊川 達也、阪 龍太、塚田 遼、岩崎 駿  
第122回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.14) 岡山市

3重複癌患者に対し術後補助化学療法を実施したところ食道癌が寛解した1例

時永 あさひ、原 友太、宇田 陽紀、平岡 凌河、長江 桃夏、岡本 晃一、佐藤 大直、何本 佑太、石川 順一、住井 遼平、稲生 祥子、上田 祐  
也、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、豊川 達也  
第122回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.14) 岡山市

免疫チェックポイント阻害剤(IC)併用の化学療法が奏効することにより食道気管支瘻を生じた進行食道癌の一例

佐藤 大直、住井 遼平、表 梨華、平岡 凌河、宇田 陽紀、岡本 晃一、長江 桃夏、何本 佑太、石川 順一、原 友太、稲生 祥子、上田 祐也、  
坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、豊川 達也、金吉 俊彦

第 122 回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.14) 岡山市

Collagenous colitis type の irAE を経験した一例

宇田 陽紀、稲生 祥子、平岡 凌河、岡本 晃一、佐藤 大直、長江 桃夏、何本 佑太、石川 順一、住井 裕梨、住井 遼平、原 友太、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、豊川 達也、表 梨華

第 133 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.14) 岡山市

当院における切除不能・再発胆道癌に対するゲムシタピン+シスプラチン+デュルバルマブ療法の治療成績の検討

稲生 祥子、宇田 陽紀、平岡 凌河、佐藤 大直、岡本 晃一、石川 順一、住井 遼平、原 友太、上田 祐也、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、豊川 達也

第 122 回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.15) 岡山市

CLDN18 陽性胃癌の臨床病理学的検討

住井 遼平、表 梨華、岡本 晃一、藤田 勲生、豊川 達也

第 122 回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.15) 岡山市

非結核性抗酸菌症に合併した消化管アミロイドーシスの一例

平岡 凌河、藤田 勲生、豊川 達也、金吉 俊彦、住井 遼平、住井 裕梨、石川 順一、岡本 晃一、佐藤 大直、長江 桃夏、宇田 陽紀、野間 康宏、坂田 雅浩、上田 祐也、原 友太、稲生 祥子

第 122 回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.15) 岡山市

[地域研究・検討会]

免疫チェックポイント阻害剤(IC)併用の化学療法が奏効することにより食道気管支瘻を生じた進行食道癌の 1 例

佐藤 大直、住井 遼平、平岡 凌河、宇田 陽紀、岡本 晃一、長江 桃夏、何本 佑太、石川 順一、稲生 祥子、坂田 雅浩、野間 康宏、藤田 勲生、豊川 達也、金吉 俊彦

第 8 回岡山消化器病フォーラム 2024.9.28 岡山市

症例検討(胃)

住井 遼平

第 327 回広島胃と腸疾患研究会 2024.10.15 web

[講演・講師]

これまでの血友病診療の御経験

齋藤 誠司

オルツビーオ Strategy Advisory Meeting 2024.5.13 web

血友病 A 治療薬「オルツビーオ」の使用経験

齋藤 誠司

FIGHT in SHIKOKU-CHUGOKU 2024.5.18 広島市

機能性消化管障害に対する漢方治療の基本-IBS の症状を中心に-

坂田 雅浩

第 115 回安佐消化器フォーラム 2024.6.25 福山市

肝疾患と糖・脂質に関するアドバイザーボード

坂田 雅浩

ダイワロイネットホテル岡山駅前 2024.8.7 岡山市

HIV 治療における最新の知見とこれからの治療戦略

齋藤 誠司

ViiV National Conference2024 2024.8.24 港区

消化器領域から挑む先進漢方～漢方エキス製剤の効かせ方基本～

坂田 雅浩

若手医師のための中四国肝疾患研究会 2024.8.31 岡山市

MASH・MASLD の最近の話題

坂田 雅浩

広島県肝疾患オンラインセミナー 2024.9.5 web

漢方薬はなぜ効かないのか？エキス製剤の効かせ方と聞こえてくる消化管の声

坂田 雅浩

第 20 回 神戸 GIMET General Internal Medicine Education and Training 2024.9.19 神戸市

血友病治療の進歩と血友病患者さんがライフサイクルで抱える悩みと課題～ゆりかごから墓場まで～

齋藤 誠司

血友病こころのケアチーム医療ワークショップ in 宮崎 2024.9.28 宮崎市

ぶつぶつと熱は感染症のサイン?～悪くならないために知っておきたい感染症のハナシ～

齋藤 誠司

第 16 回藤野昌言先生記念講演会 2024.10.11 府中市

HIV/AIDS 治療におけるチーム医療の実践と広島県東部地区での地域連携

齋藤 誠司

HIV Virtual Seminar in 山陰 2024.12.2 web

難病難治性例から学ぶ出血性疾患の漢方治療～黄連解毒湯の周辺を中心に～

坂田 雅浩

第 22 回現代漢方講座 2024.12.12 福山市

HIV 治療の展望-ドゥベイトへの期待を込めて-

齋藤 誠司

E2 HIV Expert Forum for Hematologist 2024.12.21 札幌市

特別講演『潰瘍性大腸炎の診断と治療:基本から最新の知見まで』

豊川 達也

備後 UC カンファレンス 2025.1.30 福山市

コントロール不良の潰瘍性大腸炎妊婦患者の治療について

宇田 陽紀

備後 UC カンファレンス 2025.1.30 福山市

[その他]

(座長)坂田 雅浩

トピックス講座

第 2 回 山本巖流第三医学研究会全国大会 2024.5.12 大阪市

(司会)豊川 達也

広島県東部 Gastric Cancer ICI Seminar 2024.5.13 福山市

(座長)金吉 俊彦

福山肝細胞癌 Seminar 2024.6.3 福山市

(座長)藤田 勲生

一般演題4 小腸・大腸①

第 121 回日本消化器病学会中国支部例会・日本消化器病学会中国支部第 39 回教育講演会  
2024.6.8-9(6.8)米子市

(座長)齋藤 誠司

ポスター1「血友病」

第 46 回日本血栓止血学会学術集会 2024.6.13-15 (6.15)金沢市

Opening Remarks

齋藤 誠司

Hemophilia Joint Health Care Seminar in Fukuyama 2024.6.21 福山市

(座長)金吉 俊彦

特別講演

第 392 回福山市医師会消化器病研究会 2024.11.7 福山市

(座長)齋藤 誠司

Lecture1

Heart 2024 in Fukuyama (Hemophilia total care and team therapy) 2024.12.14 福山市

(進行・発表司会)齋藤 誠司

Group work

Heart 2024 in Fukuyama (Hemophilia total care and team therapy) 2024.12.14 福山市

(座長)坂田 雅浩

胃・十二指腸

第 133 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.15)岡山市

(座長)坂田 雅浩  
教育講演 1【漢方臨床】  
第 50 回日本東洋医学会・広島県部会 2024.1.26 広島市

(座長)豊川 達也  
一般講演  
備後 UC カンファレンス 2025.1.30 福山市

(座長)金吉 俊彦  
講演 I  
HCC Seminar in 福山 2025.2.28 web

(座長)齊藤 誠司  
講演②  
福山血友病エキスパートセミナー 2025.3.7 福山市

(座長)豊川 達也  
IBD Conference in Bingo 2025.3.24 福山市

## 【呼吸器内科】

[英語原著論文]

Taichi Ozeki, Hisao Higo, Hiroki Omori, Shunta Mori, Shin Tanaka, Go Makimoto, Kiichiro Ninomiya, Akihiko Taniguchi, Masanori Fujii, Kentaro Miyoshi, Kammei Rai, Eiki Ichihara, Kadoaki Ohashi, Seiichiro Sugimoto, Katsuyuki Hotta, Masahiro Tabata, Shinichi Toyooka, Yoshinobu Maeda, Nobuaki Miyahara  
A Case of Single-lung Transplant in a Patient with Mycobacterium avium Pulmonary Disease Successfully Treated with Amikacin Liposome Inhalation Suspension  
Internal Medicine.2024 Sep 11;3854-24

Hisao Higo, Hirohisa Ichikawa, Yukako Arakawa, Yoshihiro Mori, Tomoki Tamura, Shoichi Kuyama, Chiaki Matsumoto, Keisuke Sugimoto, Noboru Hamada, Toshimitsu Suwaki, Junko Itano, Yasushi Tanimoto, Satoru Senoo, Akihiko Taniguchi, Yumi Inukai, Machiko Arita, Satoko Makimoto, Katsuhide Kojima, Takashi Matsushita, Yoshinobu Maeda, Nobuaki Miyahara  
The Clinical Significance of Interstitial Pneumonia with Autoimmune Features in Cryptogenic Organizing Pneumonia: A Prospective Multicenter Observational Study  
Journal of Clinical Medicine.2024 Nov 15;13(22):6870

[全国学会]

肺線維症急性増悪における S100A8/A9 の役割の検討

中村 尚季、肥後 寿夫、妹尾 賢、尾関 太一、角南 良太、山元 修成、板野 純子、谷口 暁彦、田中 彩加、木下 理恵、阪口 政清、前田 嘉信、宮原 信明

第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 2024.4.5-7(4.7) 横浜市

特発性器質化肺炎における自己免疫性疾患の特徴を伴う間質性肺炎(IPAF)の頻度および臨床像の検討

市川 裕久、肥後 寿夫、松岡 克浩、関 祥子、荒川 裕佳子、森 由弘、久山 彰一、松本 千晶、杉本 啓介、濱田 昇、洲脇 俊充、板野 純子、谷口 暁彦、犬飼 優美、有田 眞知子、榎本 怜子、児島 克英、宮原 信明

第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 2024.4.5-7(4.7) 横浜市

重症喘息における増悪予測因子に関する前向き観察研究

肥後 寿夫、谷口 暁彦、塩田 雄太郎、荒川 裕佳子、板野 純子、小田 尚廣、國近 尚美、洲脇 俊充、中西 徳彦、谷本 安、宮原 信明

第 73 回日本アレルギー学会学術大会 2024.10.18-20(10.20) 京都市

[地方学会]

膿胸に隠された肺炎型肺癌の 1 例

高田 皓平、妹尾 賢、二萬 英斗、松森 俊祐、村野 史華、杉崎 悠夏、谷口 暁彦、表 梨華、高橋 健司、岡田 俊明

第 70 回日本呼吸器学会中国・四国地方会 2024.7.19-20 (7.19) 米子市

Mycobacterium heckeshornense による肺非結核性抗酸菌症の一例

松森 俊祐、妹尾 賢、村野 史華、杉崎 悠夏、谷口 暁彦、岡田 俊明

第 71 回日本呼吸器学会中国・四国地方会 2024.11.29-30(11.29) 高知市

[講演・講師]

ドライバー遺伝子変異の陽性率を上げるための工夫

妹尾 賢

福山遺伝子変異陽性肺がん講演会 2024.7.30 福山市

胸水を見たらどうする？

妹尾 賢  
第 25 回岡山呼吸器アレルギー研修医セミナー 2024.10.12 岡山市

岡田 俊明  
中外肺がん Expert Meeting 2024.8.27 福山市

間質性肺疾患の診断と治療～当院での診療を含めて～  
妹尾 賢  
松永沼隈地区医師会学術講演会 2025.2.21 福山市

[その他]  
(座長)岡田 俊明  
福山遺伝子変異陽性肺がん講演会 2024.7.30 福山市

(座長)岡田 俊明  
Lung Cancer Diagnosis Seminar in Fukuyama 2024.8.20 福山市

(座長)妹尾 賢  
Lung Cancer Diagnosis Seminar in Fukuyama 2024.8.20 福山市

(座長)谷口 暁彦  
ポスター14 気管支喘息(成人):診断・評価 2  
第 73 回日本アレルギー学会学術大会 2024.10.18-20(10.19) 京都市

(座長)谷口 暁彦  
Severe Asthma Symposium in Fukuyama 2024.11.14 福山市

(ディスカッサント)岡田 俊明  
ALK 陽性肺癌治療の現状と展望  
ALK 陽性肺がん Expert Meeting in 備後 2024.11.20 web

(座長)谷口 暁彦  
講演 1  
広島東部肺がん講演会 2024.11.21 福山市

(座長)岡田 俊明  
講演 2  
局所進行肺がん講演会 2024.11.26 web

(座長)谷口 暁彦  
一般演題 アレルギー・呼吸不全  
第 71 回日本呼吸器学会中国・四国地方会 2024.11.29-30(11.30) 高知市

## 【小児科】

[英語原著論文]  
Michimasa Fujiwara, Takashi Kimura, Junya Ohira, Motohiro Inotani, Tomoko Sakane, Mizue Iwase, Sadanori Yamashita, Tooru Araki  
New-onset egg allergy in an adult: A case report  
Frontiers in Allergy 2024 Apr.

Atsuko Noguchi, Tohru Tezuka, Hiroko Okuda, Hatasu Kobayashi, Kouji H Harada, Takeshi Yoshida, Shinji Akioka, Keiko Wada, Aya Takeya, Risako Kabata-Murasawa, Daiki Kondo, Ken Ishikawa, Takeshi Asano, Michimasa Fujiwara, Nozomi Hishikawa, Tomoyuki Mizukami, Toshiaki Hitomi, Shohab Youssefian, Yoshihiro Nagai, Manabu Tanaka, Kaoru Eto, Hideaki Shiraishi, Fumimasa Amaya, Akio Koizumi, Tsutomu Takahashi  
Genetic Analysis of SCN11A, SCN10A, and SCN9A in Familial Episodic Pain Syndrome (FEPS) in Japan and Proposal of Clinical Diagnostic Criteria  
International Journal of Molecular Sciences.2024 Jun 21;25(13)

Kenta Hirai, Ryusuke Sawada, Tomohiro Hayashi, Toru Araki, Naomi Nakagawa, Maiko Kondo, Kenji Yasuda, Takuya Hirata, Tomoyuki Sato, Yuki Nakatsuka, Michihiro Yoshida, Shingo Kasahara, Kenji Baba, Hidemasa Oh  
Eight-Year Outcomes of Cardiosphere-Derived Cells in Single Ventricle Congenital Heart Disease  
Journal of the American Heart Association.2024 Nov 19;13(22)

Michimasa Fujiwara,  
Diagnosis of Hereditary Pancreatitis Following the Initial Acute Episode With Multiple Pseudocyst Complications  
Cureus. 2024 Nov 13;16(11)

[和文原著論文]

食物アレルギーの診療の手引き 2023 のトリセツ#1

藤原 倫昌

広島県小児科医会会報 2025.1 第 79 号

[全国学会]

新生児危急的先天性心疾患に対する二次医療機関としての当院の役割

山下 定儀、荒木 徹

第 60 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2024.7.11-13 福岡市

新生児危急的先天性心疾患に対する二次医療機関としての当院の役割

山下 定儀、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、荒木 徹

日本胎児心臓病学会第 31 回学術集会 2025.2.22-23(2.22) 福山市

メディカルスタッフからみた地域貢献活動「こども出前講座」の意義

藤原 倫昌、坂根 朋子、小川 朋美、奥野 小百合、土肥 政美、正木 幸、辻 和美、渡邊 江未、奥崎 湖波

第 11 回日本小児診療多職種学会 2025.3.8-9(3.9) 広島市

[地方学会]

ホルター心電図検査を契機に SVT が明らかになった無症候性(?)WPW 症候群の 1 例

荒木 徹、北田 邦美、山下 定儀

第 79 回広島小児循環器研究会 2024.6.1 広島市

医師不足による診療縮小のなかで、重症新生児仮死に対する当院 NICU の取り組み

猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、中村 祐太、藤原 倫昌、山下 定儀、荒木 徹、小島 みのり、濱西

由美

第 76 回中国四国小児科学会 2024.10.26-27(10.26) 山口市

胎児母体間輸血の 5 例の検討

中村 祐太、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、坂本 明子、藤原 倫昌、北田 邦美、山下 定儀、荒木 徹

第 181 回日本小児科学会広島地方会プログラム 2024.12.22 広島市

胎児期からの心拡大を契機に乳児期早期に診断できたミトコンドリア心筋症の 1 例

山下 定儀、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、荒木 徹

第 81 回広島小児循環器研究会 2025.2.8 広島市

[地域研究・検討会]

当院における過去 8 年間の妊婦健診未受診症例の検討

中村 祐太、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵

第 73 回広島新生児研究会 2024.6.22 広島市

妊婦健診未受診を繰り返す妊婦から自宅分娩で出生し、日齢 1 に発見された新生児の 1 例

中村 祐太、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、坂本 明子、藤原 倫昌、北田 邦美、山下 定儀、荒木 徹

第 7 回 FON 交流会 2024.8.9 尾道市

医療的ケア児を対象としたレスパイト事業の必要性

山下 定儀、荒木 徹、梶谷 唯、羽田 弥央、小川 朋美、中川 二郎、石川 涼太、野村 猛世、木梨 貴博

第 28 回福山医学祭 2024.11.10 福山市

乳児スキンケア外来による乳児湿疹早期介入の有用性

坂本 明子、北田 邦美、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、藤原 倫昌、山下 定儀、荒木 徹、正木 幸

第 28 回福山医学祭 2024.11.10 福山市

起立性調節障害を一般小児外来で診よう！～ガイドライン改定第 3 版に沿って～

細木 瑞穂

第 8 回 FON 交流会 2025.2.21 福山市

[講演・講師]

食物アレルギー・アナフィラキシー

藤原 倫昌

こども出前講座 2024.6.3 竹原市 NPO 法人ふれあい館ひろしま

食物アレルギー・アナフィラキシー

藤原 倫昌

こども出前講座 2024.8.23 福山市 新涯小学校

食物アレルギーの診療の手引き 2023 のトリセツ#1

藤原 倫昌

広島県小児科医学会オンラインセミナー 2024.9.20 web

食物アレルギー・アナフィラキシー

藤原 倫昌

こども出前講座 2024.10.7 福山市 ニチキッズ東手城保育園

食物アレルギーの診療の手引き 2023 のトリセツ#2

藤原 倫昌

広島県小児科医学会オンラインセミナー 2024.10.21 web

安心安全な給食のために～食物アレルギーへの備え～

藤原 倫昌

令和 6 年度給食調理担当者研修会(食物アレルギー) 2024.10.28 三次市

誤嚥・窒息

中村 祐太

こども出前講座 2024.11.5 福山市 ゆめはうす認定こども園

食物アレルギー・アナフィラキシー

藤原 倫昌

こども出前講座 2024.11.11 福山市 こどもえんつくし

食物アレルギー・アナフィラキシー

藤原 倫昌

こども出前講座 2024.11.25 福山市 福山特別支援学校

知っておきたい学校生活における緊急時対応の ABC

藤原 倫昌

2025 年度広島県高等学校保健会福山地区支部研究協議会 2025.2.17 福山市

[その他]

(座長)荒木 徹

福山小児科医学会学術講演会 2024.6.13 福山市

(座長)山下 定儀

福山市小児科医学会学術講演会 2025.2.27 福山市

## 【小児外科】

[英語原著論文]

Souji Ibuka , Ryuta Saka , Hiroshi Sonobe , Ryo Tsukada , Shun Iwasaki , Rika Omote

A case of dumbbell-shaped accessory scrotum with concomitant lipoma

Surgical Case Reports 10(1): 2024 May

Ryo Tsukada ,Shun Iwasaki ,Souji Ibuka ,Ryuta Saka

Littre' s Hernia Incidentally Found During Laparoscopic Indirect Inguinal Hernia Repair in a Child

Cureus 16(8) 2024 Aug

[和文原著論文]

新生児期から形態の変化を観察できた cystic nephroma の 1 例

井深 奏司、竹村 理璃子、塚田 遼、阪 龍太、表 梨華

日本小児泌尿器科学会雑誌 33 巻 1 号 Page48-52(2024.06)

腹腔鏡で診断された非環納性 Amyand' s hernia の 1 例

塚田 遼、井深 奏司、岩崎 駿、阪 龍太

日本小児科外科学会誌 第 60 巻 6 号 page944-948(2024.10)

宗教上の理由により両親が児への輸血を拒否した新生児外科症例

井深 奏司、片山 博矢、豊田 奈央、宮本 慶克、木梨 貴博、塚田 遼、阪 龍太

小児科 Vol.65 No.11 page.1171-1175(2024.11)

[全国学会]

若年成人の外鼠径ヘルニアに対する LPEC 法の有用性

塚田 遼、井深 奏司、野瀬 聡子、大植 孝治、瀧内 大輔、磯田 健太、阪 龍太  
2024.4.18-20(4.18) 第 124 回日本外科学会定期学術集会 常滑市

胸部皮下気管支原性嚢胞の1例  
阪 龍太、井深 奏司、塚田 遼、岩崎 駿、松岡 梓  
第 61 回日本小児外科学会学術集会 2024.5.29-31(5.29) 福岡市

虫垂原発神経内分泌腫瘍の1例  
岩崎 駿、塚田 遼、井深 奏司、阪 龍太  
第 61 回日本小児外科学会学術集会 2024.5.29-31(5.29) 福岡市

シロリムス中止後に再増大した腹部リンパ管奇形の1 幼児例  
塚田 遼、岩崎 駿、井深 奏司、阪 龍太  
第 61 回日本小児外科学会学術集会 2024.5.29-31(5.30) 福岡市

腹腔鏡下噴門形成術後にダンピング症候群を認めた1例  
阪 龍太、塚田 遼、岩崎 駿  
日本外科代謝栄養学会 第 61 回学術集会 2024.7.25-27(7.25) 大阪市

シロリムス内服で経過をみている腹部リンパ管奇形の一例  
塚田 遼、岩崎 駿、阪 龍太  
第 34 回日本小児外科 QOL 研究会 2024.10.12 弘前市

噴門形成により長期経胃瘻空腸チューブ管理から離脱した1例  
阪 龍太、塚田 遼、岩崎 駿  
第 34 回日本小児外科 QOL 研究会 2024.10.12 弘前市

膵嚢胞を切除した一男児例  
塚田 遼、岩崎 駿、阪 龍太  
PSJM2024 2024.10.24-25(10.24) 千代田区

腹腔鏡下に大網嚢腫と診断し、切除し得た1例  
岩崎 駿、塚田 遼、阪 龍太  
PSJM2024 2024.10.24-25(10.25) 千代田区

LPEC の適応と限界  
阪 龍太、塚田 遼、岩崎 駿  
第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21-23(11.22) 宇都宮市

術後早期に出血をきたした葛西手術の一例  
塚田 遼、岩崎 駿、阪 龍太  
第 51 回日本胆道閉鎖症研究会 2024.11.30 吹田市

Amyand' s hernia の1 小児例  
阪 龍太、塚田 遼、岩崎 駿  
第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.5-7(12.5) 福岡市

ICG 蛍光リンパ管造影を併用した腹腔鏡手術により治療し得た乳児特発性乳び腹水の一例  
塚田 遼、岩崎 駿、阪 龍太  
第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.5-7(12.5) 福岡市

[地方学会]  
乳幼児に対する腹腔鏡下腎盂形成術の工夫と問題点  
塚田 遼、井深 奏司、岩崎 駿、阪 龍太  
第 65 回中国四国小児がん・小児外科研究会 2024.4.13 倉敷市

坐骨直腸窩の腫瘍と連続した副陰嚢の例  
岩崎 駿、塚田 遼、阪 龍太  
第 63 回日本小児外科学会中国四国地方会 2024.9.14 善通寺市

[地域研究・検討会]  
メッケルシンチグラフィ陽性を認めた若年性ポリープによる下血の1例  
岩崎 駿、塚田 遼、阪 龍太  
第 7 回 FON 交流会 2024.8.9 尾道市

外科的治療が奏功した乳児突特発性乳び腹水の一例

塚田 遼、岩崎 駿、阪 龍太  
第 28 回福山医学祭 2024.11.10 福山市

魚骨誤飲後に縦隔異物が疑われた 1 例  
阪 龍太、塚田 遼、岩崎 駿  
第 8 回 FON 交流会 2025.2.21 福山市

[その他]

(座長)阪 龍太

一般演題:「奇形腫」

第 65 回中国四国小児がん・小児外科研究会 2024.4.13 倉敷市

## 【外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科】

[英語原著論文]

Masashi Utsumi, Masaru Inagaki, Koji Kitada, Naoyuki Tokunaga, Kosuke Yunoki, Hiroki Okabayashi, Ryosuke Hamano, Hideaki Miyasou, Yousuke Tsunemitsu, Shinya Otsuka

Combination of sarcopenia and systemic inflammation-based markers for predicting the prognosis of patients undergoing pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer

PLoS One. 2024 Jun 24;19(6)

Masashi Utsumi, Masaru Inagaki, Koji Kitada, Naoyuki Tokunaga, Kosuke Yunoki, Yuya Sakurai, Hiroki Okabayashi, Ryosuke Hamano, Hideaki Miyasou, Yousuke Tsunemitsu, Shinya Otsuka

Albumin-Lymphocyte-Globulin-C-Reactive Protein Index as a Novel Prognostic Biomarker for Hepatocellular Carcinoma after Hepatectomy

Digestive Surgery 2024;41(4):161-170 Epub 2024 Jul 22

Toshifumi Yamaguchi, Koshi Kumagai, Shusuke Yagi, Takashi Nomura, Kengo Nagashima, Masaya Watanabe, Rie Makuuchi, Kentaro Kawakami, Tomohiro Matsushima, Shigenori Kadowaki, Shusuke Haruta, Haruhiko Cho, Naoki Kakihara, Shinya Otsuka, Takano Yamada, Yoshiro Imai & Narikazu Boku

Efficacy of chemotherapy for patients with gastric cancer with early recurrence during or after adjuvant chemotherapy with S-1 alone: a multicenter retrospective study

Scientific reports. 14(1)19 Sep 2024

Takahashi Toshiaki, Kunitoshi Shigeyasu, Kondo Yoshitaka, Takeda Sho, Umeda Hibiki, Moriwake Kazuya, Kayano Masashi, Sakurai Yuya, Nakamura Shunsuke, Takahashi Masafumi, Nitta Kaori, Yoshida Kazuhiro, Matsumi Yuki, Michiue Hiroyuki, Yamamoto Hideki, Kishimoto Hiroyuki, Fuminori Teraishi, Ryohei Shoji, Nobuhiko Kanaya, Hajime Kashima, Yoshihiko Kakiuchi, Shinji Kuroda, Shunsuke Kagawa, Toshiyoshi Fujiwara

Predictive marker for response to trifluridine/tipiracil plus bevacizumab in metastatic colorectal cancer patients. BioMed Central Cancer. 2025 Jan 2;25(1):1.

Tomohiko Yagi, Shunsuke Kagawa, Shohei Nogi, Atsuki Taniguchi, Masashi Yoshimoto, Kanto Suemori, Yasuo Nagai, Shuto Fujita, Shinji Kuroda, Satoru Kikuchi, Yoshihiko Kakiuchi, Fuminori Teraishi, Kosei Takagi, Toshiaki Ohara, Hiroshi Tazawa, Toshiyoshi Fujiwara

Cancer-associated fibroblasts promote pro-tumor functions of neutrophils in pancreatic cancer via IL-8: potential suppression by pirfenidone

Cancer Immunology, Immunotherapy. 2025 Feb 4;74(3):96.

Masashi Utsumi, Masaru Inagaki, Koji Kitada, Naoyuki Tokunaga, Koki Omoto, Naoki Onoda, Kosuke Yunoki, Hiroki Okabayashi, Ryosuke Hamano, Hideaki Miyasou, Yousuke Tsunemitsu, Shinya Otsuka, Rika Omote

Successful Left Trisectionectomy for Intrahepatic Cholangiocarcinoma in a Patient with a Right-Sided Round Ligament: A Case Report

Surgical Case Reports 2025;11(1) Epub 2025 Feb 22

Hirofumi Tazawa, Shinji Hato, Shigefumi Yoshino, Shinya Otsuka, Atsusi Takeno, Kazuhiro Toyota, Hiromitsu Moriya, Isao Nozaki, Koji Tanakaya, Hideaki Uchiyama, Akihisa Saito, Kazuya Kuraoka, Takeshi Kato, Takahisa Suzuki, Hirofumi Tashiro

TMPPSS4 as a prognostic biomarker after gastric cancer surgery in a multicenter retrospective study

Scientific Reports. 2025 Mar 11;15(1)

Ryohei Shoji, Fuminori Teraishi, Yoshitaka Kondo, Yousuke Yoshida, Nobuhiko Kanaya, Yuki Matsumi, Kunitoshi Shigeyasu, Shunsuke Kagawa, Toshiyoshi Fujiwara

Tailoring Neoadjuvant Therapy for Rectal Cancer: A Single-center Study of Local Recurrence Patterns

Anticancer research. 2025 Mar;45(3):1261-1271.

Fuminori Teraishi, Yousuke Yoshida, Ryohei Shoji, Nobuhiko Kanaya, Yuki Matsumi, Kunitoshi Shigeyasu, Yoshitaka Kondo, Shunsuke Kagawa, Toshiyoshi Fujiwara

Short-term Safety of Robot-assisted Rectal Surgery in Patients Aged ≥75 Years: A Single-center Retrospective Study

Anticancer research. 2025 Mar;45(3):1291-1299.

[国際学会]

Koji Kitada, Masashi Utsumi, Naoyuki Tokunaga, Yousuke Tsunemitsu, Masaru Inagaki  
A Case of BCL10-Negative, CPA1-Positive Acinar Cell Carcinoma of the Pancreas  
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (JSHBPS2024)  
2024.6.28-29(6.28) Hiroshima

Masashi Utsumi, Koji Kitada, Naoyuki Tokunaga, Masaru Inagaki  
Sarcopenia with inflammation-based marker can predict survival in patients with pancreatic cancer undergoing pancreaticoduodenectomy  
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (JSHBPS2024)  
2024.6.28-29(6.29) Hiroshima

Naoyuki Tokunaga, Koji Kitada, Masashi Utsumi, Hiroki Okabayashi, Masaru Inagaki  
Multimodal treatment including two carbon ion radiotherapy was effective against multiple liver metastasis from advanced sigmoid colon cancer : a case report.  
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (JSHBPS2024)  
2024.6.28-29(6.29) Hiroshima

Yuya Kato, Masashi Utsumi, Naoki Onoda, Koki Omoto, Hiroki Okabayashi, Kosuke Yunoki, Yuya Sakurai, Koji Kitada, Ryosuke Hamano, Naoyuki Tokunaga, Hideaki Miyaso, Yosuke Tsunemitsu, Shinya Otsuka, Masaru Inagaki  
A case of metastatic liver cancer with atypical imaging findings and clinical course  
The 78th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services 2024.10.18-19(10.19) Osaka

[全国学会]

S 状結腸憩室穿通による左子宮付属器膿瘍に対して外科的加療を施行した 1 例  
大元 航暉、内海 方嗣、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 真哉、稲垣 優  
第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.4.18-20(4.19)常滑市

高齢者肝細胞癌における肝切除後の予後因子の検討～免疫栄養マーカーとサルコペニア～  
柚木 宏介、内海 方嗣、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光洋輔、大塚 真哉、稲垣 優  
第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.4.18-20(4.20)常滑市

脈管侵襲を伴う肝細胞癌術後における予後規定因子の解析～術前サルコペニアの意義～  
内海 方嗣、北田 浩二、徳永 尚之、大元 航暉、柚木 宏介、岡林 弘樹、濱野 亮輔、宮宗秀明、常光 洋輔、大塚 真哉、稲垣 優  
第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.4.18-20(4.20)常滑市

創縁保護器具を用いた開窓術と局所陰圧閉鎖療法で治癒を得た気管支断端瘻の 1 例  
二萬 英斗  
第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会 2024.5.31-6.1 (6.1) 軽井沢町

PRO-CTCAE™から開発した絵文字症状尺度の electronic Patient-Reported Outcomes Monitoring での妥当性検証 ※施設外登録  
常 梓、岩本 高行、鈴木 陽子、三好 雄一郎、原 享子、吉富 誠二、曳野 肇、高橋 寛敏、高島 大典、久保 慎一郎、池田 雅彦、枝園 忠彦、土井原 博義、木川 雄一郎、平 成人  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.7.11-13(7.11) 仙台市

術前化学療法中に発症した癌関連血栓症の 1 例  
松坂 里佳、高橋 寛敏、三好 和也、中川 富夫、兼安 祐子、表 梨華、藤原 礼子  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.7.11-13(7.11) 仙台市

センチネルリンパ節生検術後 2 年目で胸筋間リンパ節に再発を来したトリプルネガティブ乳癌の 1 例  
高橋 寛敏、三好 和也、松坂 里佳、中川 富夫、兼安 祐子  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.7.11-13(7.11) 仙台市

高齢者膵癌に対する膵頭十二指腸切除術の適応と限界～術前サルコペニアと免疫炎症マーカーの意義～  
内海 方嗣、大元 航暉、柚木 宏介、徳永 尚之、北田 浩二、濱野 亮輔、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 真哉、稲垣 優  
第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.7.17-19(7.17) 下関市

80 歳以上の高齢胆道癌患者に対する膵頭十二指腸切除術の短期・長期成績の検討  
岡林 弘樹、内海 方嗣、柚木 宏介、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 真哉、稲垣 優  
第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.7.17-19(7.19) 下関市

膵癌術後早期再発のリスク因子の検討  
柚木 宏介、内海 方嗣、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 真哉、稲垣 優  
第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.7.17-19(7.19) 下関市

AI 時代にこそドラッグのマネジメント理論を活用した医師の医療安全の取り組みについて  
大塚 真哉、先城 千恵子、山本 暖、稲垣 優

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

全内蔵逆位症と腸回転異常症を合併し、腸重積をきたし肛門まで脱出した盲腸癌の 1 例

岡林 弘樹、大元 航暉、斧田 尚樹、柚木 宏介、櫻井 湧哉、内海 方嗣、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

少人数診療科である呼吸器外科における男性医師の出生時育児休業取得の経験

二萬 英斗、高橋 健司、大塚 眞哉、三好 和也、常光 洋輔、高橋 寛敏、宮宗 秀明、徳永 尚之、濱野 亮輔、北田 浩二、内海 方嗣、岡林 弘樹、松坂 里佳、櫻井 湧哉、柚木 宏介、大元 航暉、斧田 尚樹、稲垣 優

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

同時性胃壁内転移を来した胃癌の一例

濱野 亮輔、斧田 尚樹、大元 航暉、柚木 宏介、櫻井 湧哉、松坂 里佳、岡林 弘樹、二萬 英斗、内海 方嗣、北田 浩二、徳永 尚之、高橋 健司、宮宗 秀明、高橋 寛敏、常光 洋輔、大塚 眞哉、三好 和也、稲垣 優、表 梨華

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

Conversion 手術後、副腎・リンパ節転移再発、原発性肺癌に対して Nivolumab を含む集学的治療により長期生存を得た進行胃癌の 1 例

柚木 宏介、大塚 眞哉、斧田 尚樹、大元 航暉、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、内海 方嗣、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、稲垣 優

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

噴門近傍の 5cm を超える内腔発育型胃 GIST に対して腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)にて切除した 1 例

斧田 尚樹、大塚 眞哉、大元 航暉、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、内海 方嗣、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、藤田 勲生、堀井 城一郎、稲垣 優

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

膵腺扁平上皮癌切除症例の報告

大元 航暉、内海 方嗣、斧田 尚樹、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

肝癌術後の新たな予後バイオマーカーとしての ALGC index

内海 方嗣、大元 航暉、斧田 尚樹、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、宮宗 秀明、徳永 尚之、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.24-26(10.24) 福岡市

術前に縮小し鑑別に苦慮した原発不明 gastrointestinal stromal tumor(GIST)の 1 例

徳永 尚之、柚木 宏介、大元 航暉、斧田 尚樹、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、内海 方嗣、北田 浩二、濱野 亮輔、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.24-26(10.24) 福岡市

腹腔鏡下肝切除の技術認定医取得のポイント・技術認定取得後からロボット肝切除導入に向けて

内海 方嗣、斧田 尚樹、大元 航暉、柚木 宏介、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21-23(11.21) 宇都宮市

胆嚢癌肉腫の 1 例

斧田 尚樹、内海 方嗣、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21-23(11.21) 宇都宮市

膵腺扁平上皮癌切除後長期生存した 2 症例

大元 航暉、内海 方嗣、斧田 尚樹、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21-23(11.23) 宇都宮市

急性胆嚢炎における近年の胆汁培養結果の傾向と抗生剤感受性、臨床経過についての検討

内海 方嗣、柚木 宏介、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.5-7(12.6) 福岡市

鼠径ヘルニアを除く成人女性の鼠径部腫瘍に対する当院での治療

櫻井 湧哉、濱野 亮輔、柚木 宏介、岡林 弘樹、内海 方嗣、北田 浩二、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.5-7(12.6) 福岡市

術前に自然退縮を来した混合型肝癌の 1 切除例

徳永 尚之、北田 浩二、内海 方嗣、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、濱野 亮輔、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優  
第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.5-7(12.7) 福岡市

[地方学会]

在宅クリニック、緩和ケア病棟と連携した緩和ケアチーム活動

高橋 健司、前田 智樹、山下 貴子、中山 やちよ、中村 孝佐、城野 裕朗、飯塚 暁子、丸山 典良、吉岡 孝、前原 弘江

日本緩和医療学会 第 6 回中国・四国支部学術大会 2024.8.31 web

右肝門索を伴う肝胆道系悪性腫瘍に対する肝切除

内海 方嗣、斧田 尚樹、大元 航暉、柚木 宏介、岡林 弘樹、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 99 回中国四国外科学会総会 2024.9.5-6(9.6) 高松市

[地域研究・検討会]

術前にⅢ型門脈輪状膵と診断し得た膵頭部癌の 1 切除例

徳永 尚之、北田 浩二、内海 方嗣、大元 航暉、斧田 尚樹、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、濱野 亮輔、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 47 回備後外科手術手技研究会 2024 5.21 福山市

診断に苦慮した〇〇〇の 1 例

二萬 英斗、高橋 健司

第 23 回本音で語ろう呼吸器手術手技研究会 2024.6.8 福山市

AI 時代にこそドラッグのマネジメント理論を活用した外科医のリスクマネジメントの実践

大塚 眞哉、斧田 尚樹、大元 航暉、柚木 宏介、櫻井 湧哉、岡林 弘樹、内海 方嗣、北田 浩二、濱野 亮輔、徳永 尚之、高橋 健司、宮宗 秀明、常光 洋輔、三好 和也、稲垣 優

第 90 回岡山大学医学部第一外科開講記念会 2024.10.6 岡山市

大腸癌に対するロボット支援手術導入に向けての取り組み

宮宗 秀明

第 23 回 EGI 外科治療研究会プログラム 2024.11.9 岡山市

80 歳以上の高齢胆道癌患者に対する膵頭十二指腸切除術の短期・長期成績の検討

岡林 弘樹、内海 方嗣、北田 浩二、徳永 尚之、大元 航暉、斧田 尚樹、柚木 宏介、濱野 亮輔、宮宗 秀明、常光 洋輔、大塚 眞哉、稲垣 優

第 51 回岡山大学外科肝胆膵研究会 2024.11.30 高松市

高度肥満を伴った臍胸の 1 例

二萬 英斗、高橋 健司

第 24 回本音で語ろう呼吸器手術手技研究会 2025.1.18 福山市

[その他]

(座長)稲垣 優

サージカルフォーラム(47)「肝臓-基礎-2」

第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.4.18-20(4.19)常滑市

(座長)稲垣 優

一般演題、特別講演

第 58 回備後肝胆膵研究会 2024.6.11 福山市

(座長)大塚 眞哉

令和 6 年度第 24 回福山市医師会医療安全研修会 2024.6.25 web

(座長)三好 和也

Lilly Breast Cancer Seminar in Fukuyama 2024.6.28 福山市

(司会)三好 和也

特別講演

第 7 回がんチーム医療研究会 in 瀬戸内 2024.6.29 岡山市

(司会・座長)大塚 眞哉

基礎後期・生涯更新

日本医師会認定産業医研修会 2024.7.10 福山市

(司会)大塚 眞哉

第 12 回福山市医師会「若手医師のつどい」神経救急を学ぼう in 福山～明日から役立つ神経救急の初期対応～ 2024.7.20 福山市

(座長)高橋 寛敏  
PLUS CHUGAI Web 講演会 2024.9.2 web

(座長)大塚 真哉  
胃癌一次治療を考える会 2024.9.4 オンライン配信

(座長)大塚 真哉  
Gastric cancer web seminar 2024.10.9 福山市

(司会・座長)大塚 真哉  
基礎実地・生涯実地  
日本医師会認定産業医研修会 2024.10.16 福山市

(座長)徳永 尚之  
口演 73 脾胃疾患  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

(座長)稲垣 優  
特別講演  
福山外科フォーラム 2025.1.23 福山市

(閉会の辞)大塚 真哉  
福山外科フォーラム 2025.1.23 福山市

(座長)三好 和也  
広島県東部エリア CDK4/6 阻害薬の後治療を考える会 2025.2.7 web

(司会・座長)大塚 真哉  
基礎後期・生涯専門  
日本医師会認定産業医研修会 2025.2.26 福山市

## 【整形外科】

[国際学会]

Ryosuke Yamashita, Takayuki Furumatsu, Yuki Okazaki, Keisuke Kintaka, Yusuke Yokoyama, Masanori Tamura, Koki Kawada, Tsubasa Hasegawa, and Toshifumi Ozaki

Discoid lateral meniscus is a risk factor for a medial meniscus posterior root tear  
Orthopaedic Research Society 2025 Annual Meeting, 2025.2.7-11(2.10), in Phoenix, Arizona

[全国学会]

術中3D C-arm ナビゲーションを用いた側臥位での経皮的椎弓根スクリューと従来法との挿入精度の比較

渡邊 典行、甲斐 信生

第 14 回最小侵襲脊椎治療学会 2024.6.28~29(6.29) 倉敷市

3D C-arm による術中ナビゲーションを用いた側臥位での経皮的椎弓根スクリューと従来法との挿入精度の比較

渡邊 典行、甲斐 信生

第 33 回日本脊椎インストオルメンテーション学会 2024.9.20-21(9.21) 札幌市

遠位上腕二頭筋腱皮下断裂の一例

古島 裕次郎、宮本 正、日野 知仁、渡邊 典行、宮澤 慎一、甲斐 信生

第 143 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2024.10.4-5(10.4) 神戸市

大理石骨病を伴った変形性膝関節症に対し、navigation system を使用して全人工膝関節置換術を施行した 1 例

日野 知仁、宮本 正、宮澤 慎一

第 2 回日本膝関節学会 2024.12.6-7(12.6) 宜野湾市

大理石骨病の患者において TKA を施行した 1 例【Navigation system を用いた小経験】

日野 知仁、宮本 正、宮澤 慎一、古島 裕次郎、渡邊 典行、甲斐 信生

第 55 回日本人工関節学会 2025.2.21-22(2.21) 名古屋市

[地方学会]

後足部痛から診断に至った鉄剤投与による FGF23 関連低リン血症性骨軟化症の 1 例

山下 涼介、雑賀 建多、堀田 昌宏、尾崎 敏文

第 57 回中国・四国整形外科学会 2024.11.23-24(11.23) 広島市

[地域研究・検討会]

FINE Total Knee System 使用中長期成績:平均 8 年経過観察  
川田 紘己、横山 裕介、岡崎 勇樹、田村 優典、宮澤 慎一、尾崎 敏文  
第 13 回岡山 TKA フォーラムプログラム 2024.10.19 岡山市

[講演・講師]

当院で経験した血友病性関節症の一例  
中居 祐大  
Hemophilia Joint Health Care Seminar in Fukuyama 2024.6.21 福山市

膝のスポーツ障害・外傷とアスリートとの関わり  
宮澤 慎一  
岡山県医師会健康スポーツ医学再研修会 2025.3.8 岡山市

[その他]

(座長) 甲斐 信生  
痛みのトータルケアを考える会 2024.6.20 web

(座長) 宮本 正  
Hemophilia Joint Health Care Seminar in Fukuyama 2024.6.21 福山市

(座長) 宮澤 慎一  
一般口演 58 HT012  
第 2 回日本膝関節学会 2024.12.6-7(12.7) 宜野湾市

## 【耳鼻咽喉頭頸部外科】

[全国学会]

アルカリ洗剤口腔誤飲により喉頭浮腫をきたした 1 例  
中谷 宏章、竹内 薫、福島 慶  
第 75 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 2024.10.15-16(10.15)仙台市

頸部手術における術後早期出血例の検討  
中谷 宏章、竹内 薫、福島 慶  
第 34 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会 2025.1.30-31(1.31) 港区

[地域研究・検討会]

当科における歯性上顎洞炎症例  
福島 慶、竹内 薫、中谷 宏章  
東部備後耳鼻咽喉科会学術集会 2024.11.9 福山市

## 【産婦人科】

[英語原著論文]

Jota Maki, Tomohiro Mitoma, Hikaru Ooba, Hikari Nakato, Sakurako Mishima, Kazumasa Tani, Eriko Eto, Dan Yamamoto, Risa Yamamoto, Kenji Kai, Takashi Tamada, Kazuyo Akamatsu, Kunihiro Kawanishi, Hisashi Masuyama  
Barbed vs conventional sutures for cesarean uterine scar defects: a randomized clinical trial  
American Journal of Obstetrics & Gynecology MFM. 2024 Sep;6(9)

Yoshinori Tani, Keiichiro Nakamura, Masae Yorimitsu, Noriko Seki, Mie Nakanishi, Hironori Itou, Miyuki Shimizu, Dan Yamamoto, Etsuko Takahara, Hisashi Masuyama  
Lymphadenectomy and chemotherapy are effective treatments for patients with 2023 international federation of gynecology and obstetrics stage IIc-high risk endometrial cancer in Japan  
International Journal of Clinical Oncology .2025 Jan;30(1):144-156

[全国学会]

乳癌発症後に妊娠が判明し、化学療法を施行しながら妊娠継続し出産へと至った一例  
中村 一仁、栗山 千晶、杉井 裕和、伊藤 裕徳  
第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.4.19-21(4.21)横浜市

妊娠初期にオラバリンを内服していたが、妊娠継続し出産に至った一例  
中村 一仁、栗山 千晶、椎名 豪、村井 裕和、伊藤 裕徳  
第 60 回日本周産期・新生児医学会 学術集会 2024.7.13-15(7.15) 大阪市

RPOC に対してメトレキセート投与し、hCG の低下を確認するも、多量出血を生じ、子宮動脈塞栓術にて止血を得られた 1 例

榎原 佳穂、中村 一仁、藤田 志保、今福 紀章、山本 暖  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

未受診妊婦による分娩及び母体背景についての後方視的研究  
中村 一仁、榎原 佳穂、藤田 志保、今福 紀章、山本 暖、中村 裕太、坂本 朋子、猪谷 元浩、岩瀬 瑞恵、藤原 倫昌、山下 定儀、荒木 徹  
第 17 回 日本早産学会学術集会 2024.11.2 倉敷市

#### [地方学会]

ミノレキセート投与後に多量出血を生じ、子宮動脈塞栓術にて止血を得られた Retained products of conception(RPOC)の 1 例  
中村 一仁、上木 一朗、藤田 志保、今福 紀章、山本 暖  
第 75 回広島産科婦人科学会総会 2024.9.8 広島市

肺水腫を合併した周産期心筋症の 1 例  
上木 一朗、中村 一仁、藤田 志保、今福 紀章、山本 暖  
第 76 回中国四国産婦人科学会総会ならびに学術講演会 2024.9.22-23(9.23) 徳島市

#### [地域研究・検討会]

肺水腫を合併した周産期心筋症の 1 例  
上木 一朗、中村 一仁、藤田 志保、今福 紀章、山本 暖  
第 91 回岡山大学医学部産科・婦人科学教室同門会総会ならびに学術講演会 2024.6.9 岡山市

当院における胎児診断についての検討  
榎原 佳穂、中村 一仁、藤田 志保、今福 紀章、山本 暖  
第 74 回広島新生児研究会 2024.11.23 広島市

#### [その他]

(座長)今福 紀章  
みんなで考えよう 卵巣がん診療の最前線 2024.7.12 web

## 【麻酔科】

#### [地方学会]

脳動脈狭窄症合併妊娠に対して選択的帝王切開術を施行した一症例  
坂本 慎弥、宮阪 牧子、村上 裕亮、山下 浩司、高野 洋平、友塚 直人  
日本麻酔科学会 中国・四国支部第 61 回学術集会 2024.9.14 高知市

## 【泌尿器科】

#### [英語原著論文]

Hiroyuki Kitano, Kunihiro Hashimoto, Yasuhisa Hasegawa, Akira Fujita, Shunsuke Shinmei, Fumiaki Kirishima, Satoshi Shirane, Akihiro Asami, Miki Naito, Yuki Kohada, Kohei Kobatake, Yohei Sekino, Masao Kato, Yuichi Kadoshi, Hideki Mochizuki, Mitsuru Kajiwara, Nobuyuki Hinata  
Treatment outcomes with radium-223 in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer with bone metastasis in real-world practice: a multiinstitutional study  
Prostate International. 13(3):167-173.E-pub:2025 Mar 24.

#### [和文原著論文]

進行性膀胱癌に対する緩和医療  
増本 弘史、長谷川 泰久  
日本臨牀 82 巻 増刊号 9 336-341(2024.11.30)

#### [全国学会]

排尿障害の緩和ケア〜どのタイミングで泌尿器科医へコンサルテーションされますか?〜  
増本 弘史  
第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会 2024.6.14-15(6.15) 神戸市

当院におけるロボット手術導入半年の初期成績  
長谷川 泰久、河野 晋太郎、川口 晃、藤田 曙、増本 弘史  
第 76 回西日本泌尿器科学会総会 2024.10.31-11.2(11.2) 佐賀市

当院で尿路上皮癌に対する ddMVAC 療法の初期治療経験  
河野 晋太郎、増本 弘史、川口 晃、藤田 曙、長谷川 泰久  
第 76 回西日本泌尿器科学会総会 2024.10.31-11.2(11.2) 佐賀市

アベルマブによる維持療法 当院での治療成績  
川口 晃、河野 晋太郎、藤田 曙、増本 弘史、長谷川 泰久

第 74 回日本泌尿器科学会中部総会 2024.11.21-23(11.22) 金沢市

当院におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘導入 5 か月の初期成績

長谷川 泰久、河野 晋太郎、川口 晃、藤田 曙、増本 弘史

第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 2024.11.28-11.30(11.28) 千葉市

福山医療センターにおけるロボット支援下膀胱全摘除術の初期手術成績

増本 弘史、河野 晋太郎、川口 晃、藤田 曙、長谷川 泰久

第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 2024.11.28-11.30(11.29) 千葉市

[地方学会]

当院で筋層浸潤性膀胱癌に対する NAC ddMVAC 療法の初期経験

河野 晋太郎、川口 晃、藤田 曙、増本 弘史、長谷川 泰久

日本泌尿器科学会 第 172 回広島地方会学術集会 2024.7.6 広島市

前立腺扁平上皮癌の一例

川口 晃、河野 晋太郎、藤田 曙、増本 弘史、長谷川 泰久、表 梨華、柳井 広之

日本泌尿器科学会第 173 回広島地方会学術集会 2024.12.21 広島市

[講演・講師]

当院におけるロボット手術導入の現状

長谷川 泰久

Hiroshima Urologic Robotic Surgery Symposium 2024.5.29

転移性尿路上皮がんの治療

藤田 曙

mUC シンポジウム in 福山 2025.3.26 福山市

[その他]

(座長)長谷川 泰久

一般演題ポスター22 腹腔鏡 腎盂・尿管・膀胱・その他

第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 2024.11.28-11.30(11.30) 千葉市

(座長)長谷川 泰久

講演 2

mUC シンポジウム in 福山 2025.3.26 福山市

## 【皮膚科】

[講演・講師]

福山医療センターの皮膚科診療の近況

別木 祐介

Okayama Dermatology Collaboration Seminar 2025.2.7 web

## 【形成外科】

[全国学会]

当院にて診断・治療を行った Sister Mary Joseph's nodule の三例

知元 輝、井上 温子、三河内 明

第 67 回日本形成外科学会総会・学術集会 2024.4.10-12(4.12)神戸市

[地域研究・検討会]

踵骨骨髄炎から下腿切断を回避できた一例

井上 温子、知元 輝、三河内 明

第 12 回川崎医科大学形成外科学教室 同門会学術集会 2024.5.11 岡山市

ガングリオンに対するミノサイクリン硬化療法の経験

三河内 明、知元 輝、井上 温子

第 35 回備後形成外科医会 2024.6.12 福山市

当院にて Sorbact を用いて治療した経過の報告

知元 輝

第 36 回備後形成外科医会 2024.11.13 福山市

[その他]

(座長) 三河内 明

第 35 回備後形成外科医会 2024.6.12 福山市

(座長) 三河内 明  
第 36 回備後形成外科医会 2024.11.13 福山市

## 【放射線治療科】

[本・著書]

婦人科癌放射線治療後における腔ダイレーターのすすめ

兼安 祐子

日本放射線科専門医会・医会誌 JCR ニュース No.260 2024

[英語原著論文]

Fumiaki Isohashi, Ken Yoshida, Naoya Murakami, Koji Masui, Shunichi Ishihara, Yu Ohkubo, Yuko Kaneyasu, Rumiko Kinoshita, Tadayuki Kotsuma, Yuji Takaoka, Eiichi Tanaka, Ayaka Nagao, Kazuhiko Ogawa, Hideya Yamazaki

Reirradiation for recurrent gynecologic cancer using high-dose-rate brachytherapy in Japan: A multicenter survey on practice patterns and outcomes

Journal of Cancer Research 2024 Jun;195:110269

Yuko Kaneyasu, Hisaya Fujiwara, Tomoyuki Akita, Junko Tanaka, Yuuka Shibata, Tomio Nakagawa, Iemasa Koh, Eiji Hirata, Maki Hyodo, Tadashi Miyamoto, Yuji Murakami, Ikuno Nishibuchi, Nobuki Imano, Yasushi Nagata, Yoshiki Kudo

Suppressive effect of vitamin K2 (menatetrenone) against bone mineral density loss after radiotherapy in uterine cancer patients

Japanese Journal of Radiology. 2025 Jan 24

[和文原著論文]

子宮頸癌 IGBT における子宮体部・腔側に対する線量評価に関するアンケート調査

若月 優、安藤 謙、小此木 範之、兼安 祐子、生島 仁史、加藤 眞吾、大野 達也

日本放射線科専門医会・医会学術雑誌 4 巻 Page31-35(2024)

[全国学会]

症例からの教訓:なぜやる?やらない?当院の組織内照射併用腔内照射経験

兼安 祐子、中川 富夫、松屋 亮平、山本 修平、早瀬 良二、山本 暖、今福 紀章、藤田 志保、上木 一郎、中藤 光里

日本放射線腫瘍学会 小線源治療部会第 26 回学術大会 2024.5.24-25(5.25) 高崎市

SAVI アプリケーターを用いた乳房小線源治療を受けた患者へのアンケート調査

加藤 正子、桑山 隆志、川中 崇、枝園 忠彦、兼安 祐子、志賀 淑子、高橋 加奈、戸田 一真、吉村 亮一

第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.7.11-13(7.12) 仙台市

Strut Adjusted Volume Implant(SAVI)による乳房温存術後の放射線治療の経過

兼安 祐子、中川 富夫、三好 和也、高橋 寛敏、松坂 里佳

第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.7.11-13(7.13) 仙台市

手術不能Ⅲ・Ⅳ期子宮体癌に対する画像誘導 3 次元腔内照射を用いた根治的放射線治療

兼安 祐子、中川 富夫、早瀬 良二、山本 暖、今福 紀章、藤田 志保、表 梨華、柳井 広之

第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2024.7.18-20 (7.19) 鹿児島市

手術不能Ⅲ・Ⅳ期子宮体癌に対する 3 次元画像誘導腔内照射を用いた根治的放射線治療

兼安 祐子、中川 富夫、早瀬 良二、山本 暖、今福 紀章、藤田 志保、上木 一郎、表 梨華、柳井 広之

第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.24-26(10.25) 福岡市

子宮体癌に対する根治的放射線治療の多施設共同研究と最適な線量評価法の検討

兼安 祐子、中川 富夫、加藤 眞吾、野田 真永、青鹿 友美、櫻井 英幸、角谷 泰輔、土田圭祐、小此木 範之、伊井 憲子、有賀 拓郎、長尾 彩加、金本 彩恵、室伏 景子、村田 和俊、大野 達也

日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024.11.21-23(11.21) 横浜市

[地方学会]

局所進行子宮頸癌に対する組織内照射併用腔内照射の経験

兼安 祐子、中川 富夫、山本 暖、今福 紀章、藤田 志保、上木 一郎、中村 一仁、早瀬 良二、坂田 周治郎、未森 彩乃

第 75 回広島産科婦人科学会総会 2024.9.8 広島市

[地域研究・検討会]

局所進行子宮頸癌に対する組織照射併用腔内照射の経験

兼安 祐子、中川 富夫、松屋 亮平、山本 修平、吉田 寛、長迫 翔太、早瀬 良二、山本 暖、今福 紀章、藤田 志保、上木 一郎、中藤 光里、坂田 周治郎

第 30 回広島放射線治療研究会 2024.6.15 広島市

## 【放射線診断科(技師)】

[英語原著論文]

Yuki Tanimoto, Masataka Oita, Kazunobu Koshi, Kiyoshi Ishiwaki, Futoshi Hiramatsu, Toshihisa Sasaki, Hiroki Ise, Takashi Miyagawa, Takeshi Maeda, Shinsuke Okahira, Takashi Hamaguchi, Tatsuya Kawaguchi, Norihiro Funada, Shuhei Yamamoto, Akira Hiroshige, Yuki Mukai, Shohei Yoshida, Yoshiki Fujita, Atsuki Nakahira, Hirofumi Honda

Standardization of radiation therapy quality control system through mutual quality control based on failure mode and effects analysis  
Radiological Physics and Technology. 2025 Mar;18(1):78-85

A Urrikura, Ishij, M Sone, S Sugawara, C Itou, S Kimura, H Suzuki, T Ishihara, M Kusumoto

Preliminary phantom study of four-dimensional computed tomographic angiography for renal artery mapping: Low-tube voltage and low-contrast volume imaging with deep learning-based reconstruction  
radiography (london, england : 1995). 2025 Mar 26;31(3)

[全国学会]

STAT 画像所見報告体制構築に向けた中国四国放射線技師会の取り組み

石井 郁也、上杉 尚行、灘 尊則、亀田 賢治、高木 一成、古志 和信、土江 眞一郎

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

息止め困難な患者の体幹部 CT 撮影における至適撮影パラメータ設定の検討

長井 立城、石井 郁也、古志 和信

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

頭部 CT 撮影における位置決め撮影範囲が撮影線量および画質に与える影響

石井 郁也、玉井 聖紀、田坂 礼那、石井 直也、二見 智康、古志 和信

第 1 回日本放射線医療技術学術大会 2024.10.31-11.3(10.31) 宜野湾市

タスク・シフト/シェアを受けて:~当院における IGRT 運用の再構築~

長迫 翔太、松屋 亮平、山本 修平、古田 寛、中川 富夫、兼安 祐子、古志 和信、小野 剛史

第 1 回日本放射線医療技術学術大会 2024.10.31-11.3(11.2) 宜野湾市

[地方学会]

仮想的気管支鏡ナビゲーション画像作成における至適再構成関数の検討

岩崎 光喜、石井 郁也、高木 滉平、長井 立城、古志 和信

第 4 回国立病院機構中国四国放射線技師会総合学術大会 2024.10.5 高松市

STAT 画像所見報告体制の構築と運用に関する実践報告

石井 郁也、古志 和信

第 4 回国立病院機構中国四国放射線技師会総合学術大会 2024.10.5 高松市

原子力災害における避難退域時検査の汚染測定から外部被ばく線量を推定する計算シートの作成~OIL4 基準値(40,000)から皮膚吸収線量を評価する意義~

小野 剛史

第 4 回国立病院機構中国四国放射線技師会総合学術大会 2024.10.5 高松市

[講演・講師]

NHO CSRT Study group STAT IMAGE REPORT

石井 郁也

#1 STAT 画像所見報告勉強会 2024.4.18 (開催場所不明ですがこのままの記載で...)

NHO CSRT Study group STAT IMAGE REPORT

石井 郁也

#3 STAT 画像所見報告勉強会 2024.6.20 web

初学者のための CT 物理評価入門

石井 郁也

FUKUYAMA CT MEETING 2024.6.25

CT 画質評価の基礎-解像特性編- MTF 測定のいろは

石井 郁也

CT 塾 夏季セミナー 2024.7.31

NHO CSRT Study group STAT IMAGE REPORT

石井 郁也

#5 STAT 画像所見報告勉強会 2024.8.15 web

NHO CSRT Study group STAT IMAGE REPORT  
石井 郁也  
#7 STAT 画像所見報告勉強会 2024.10.16 web

似て非なる疾患！？ピットフォールに陥らない為に知っておきたい画像所見  
石井 郁也  
CT 塾 PRESENTED BY Fukuyama CT Technology オンラインセミナー 2024.11.20 web

CT 造影理論の基礎  
長井 立城  
CT 塾 PRESENTED BY Fukuyama CT Technology 冬季セミナー 2024.12.4 福山市

非造影血管撮像について(下肢を中心に)  
守重 圭悟  
国立病院機構中国四国放射線技師合同モダリティ勉強会 2024.12.7 松山市

心サルコイドーシスに対するPET 検査について  
林 洋輔  
国立病院機構中国四国放射線技師合同モダリティ勉強会 2024.12.7 松山市

NHO CSRT Study group STAT IMAGE REPORT  
石井 郁也  
#9 STAT 画像所見報告勉強会 2024.12.19 web

今さら聞けない 中心静脈ポート・カテーテルの基礎と取扱い  
石井 郁也  
CT 塾 PRESENTED by FUKUYAMA CT TECHNOLOGY Since 2024 CT 塾オンラインスキルアップセミナー 2025.1.29 web

NHO CSRT Study group STAT IMAGE REPORT  
石井 郁也  
#11 STAT 画像所見報告勉強会 2025.2.20 web

脱苦手意識!初心者のためのCT 物理評価入門  
石井 郁也  
CT 塾 PRESENTED by FUKUYAMA CT TECHNOLOGY 第6回オンラインセミナー 2025.3.3 web

[その他]  
(座長)守重 圭悟  
ポスター25 MRI 基礎・応用/臨床  
第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

(座長)石井 郁也  
1.CT  
国立病院機構中国四国放射線技師合同モダリティ勉強会 2024.12.7 松山市

(座長)石井 郁也  
一般講演  
#2 CT 塾オンラインセミナー“手術支援” 2025.1.22 web

(座長)石井 郁也  
一般講演  
CT 塾オンラインスキルアップセミナー 2025.2.18 web

(座長)岩崎 光喜  
Session 2  
CT 塾 PRESENTED by FUKUYAMA CT TECHNOLOGY 第6回オンラインセミナー 2025.3.3 web

(座長)石井 郁也  
Innovation Lecture II  
20th CT Technology Fukuyama Seminar 2025.3.15 福山市+web

## 【病理診断科】

[英語原著論文]  
Hiroshi Sonobe, Rika Omote, Toshiyuki Habara, Kazuhiro Washio, Nobuyoshi Yamazoe, Shinji Matsumoto, Kazuki Nabeshima, Hiroko Toda  
A Rare Case of Pleural Epithelioid Mesothelioma With a Prominent Myxoid Stroma Reported With Morphology, Fluorescent In Situ Hybridization,

and Ultrastructural Findings  
Cureus:Journal of Medical Science. 2024 Jun 12;16(6)

Yuki Hanamatsu, Chiemi Saigo, Hiroshi Sonobe, Tamotsu Takeuchi  
A xenotransplantable malignant deciduoid mesothelioma-cell line, D-Meso-Sonobe  
Human Cell - Springer 37(4):1226-1228 2024 Jul

Hiroshi Sonobe, Rika Omote, Ryosuke Hamano, Hiroyuki Yanai, Kazuki Nabeshima  
A Rare Case of Peritoneal Well-Differentiated Papillary Mesothelial Tumor Coincidentally Associated with Spermatic Cord Mesothelial Hyperplasia  
Clinical Oncology:Case Reports 2024,7:12

[全国学会]

著名な明細胞成分を伴う胸腺腫(thymoma with extensive clear cell component)のまれな一例  
園部 宏、表 梨華、高橋 健司、柳井 広之、村上 一郎  
第 56 回日本臨床分子形態学会総会 2024.9.28-29(9.28) 倉敷市

[地方学会]

前縦隔腫瘍  
園部 宏、表 梨華、高橋 健司、柳井 広之  
日本病理学会中国四国支部学術集会 第 144 回スライドカンファレンス 2024.6.22 Web

卵巣腫瘍

表 梨華、柳井 広之、園部 宏、山本 暖  
日本病理学会中国四国支部学術集会 第 144 回スライドカンファレンス 2024.6.22 Web

右精索および腹膜病変

園部 宏、表 梨華、大木 知佳、濱野 亮輔、柳井 広之、鍋島 一樹  
日本病理学会中国四国支部学術集会 第 145 回スライドカンファレンス 2024.10.5 岡山市

当院における dMMR 大腸癌の臨床病理学的検討

表 梨華、藤田 勲生、石川 順一、住井 遼平、豊川 達也  
第 122 回日本消化器病学会中国支部例会 2024.12.14-15(12.14) 岡山市

胸膜脱落膜様中皮腫の一例

園部 宏、表 梨華、和田 弘輝、山代 承子、中桐 智香子、福田 由美子、二萬 英斗、鍋島一樹  
第 49 回広島県臨床細胞学会 2025.3.8 広島市

[地域研究・検討会]

胃腫瘍  
表 梨華  
第 327 回広島胃と腸疾患研究会 2024.10.15 web

[講演・講師]

消化管の組織学と病理像  
表 梨華  
日本超音波医学会「超音波診断講習会」2024.8.24 web

消化管の組織学と病理像～層構造が見えてくる～

表 梨華  
消化管エコー研究会 2024 2024.10.26 千代田区

病理組織から見えてくるもの

表 梨華  
中海・宍道湖消化管撮影研究会水鳥会第 100 回定例会 2025.1.18 web

**【臨床検査科】**

[全国学会]

呼吸機能検査の精度管理(DLco)からサンプルバックの極少亀裂を発見できた事例  
高嶋 瞳、有江 潤子、古川 郁乃、豊福 桂菜、山本 美紗子、市村 英彦  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

診断に苦慮した転移性腺癌(肺原発)の 1 例

和田 弘輝、福田 由美子、中桐 智香子、山代 承子、有安 早苗、表 梨華、園部 宏、柳井広之  
第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会 2024.11.16-17(11.17) 千葉市

[地方学会]

ISO 取得施設への異動を経験して

宮内 浩希

第 12 回 国立病院臨床検査技師協会中国四国支部学会 2024.9.14 岡山市

[講演・講師]

Excel で出来ること(基礎・関数・VBA)、データのまとめ方・活用方法

平岡 健吾

2024 年度 国臨協研修会 夏の学校 2024 2024.6.22 松山市

1. 婦人科・消化器(膵臓)

中桐 智香子

令和 6 年度中国四国グループ臨床検査技師実習技能研修Ⅲ 2024.10.26 岡山市

ホールピペットの正しい扱い方(講義・実技)

平岡 健吾

国立病院臨床検査技師協会中国四国支部 2024 年度 分析部門研修会 2024.11.9 福山市

採血シミュレータ シンジョーⅢを用いた採血練習(実技)

平岡 健吾

国立病院臨床検査技師協会中国四国支部 2024 年度 分析部門研修会 2024.11.9 福山市

採血シミュレータ シンジョーⅢを用いた採血練習(実技)

藤田 里奈

国立病院臨床検査技師協会中国四国支部 2024 年度 分析部門研修会 2024.11.9 福山市

[その他]

(司会)藤田 里奈

国立病院臨床検査技師協会中国四国支部 2024 年度 分析部門研修会 2024.11.9 福山市

(司会)平岡 健吾

国立病院臨床検査技師協会中国四国支部 2024 年度 分析部門研修会 2024.11.9 福山市

**【看護部】**

[全国学会]

血液培養の汚染率を減らすための取り組み

片山 智之

第 39 回日本環境感染学会総会・学術集会 2024.7.25-27(7.26) 京都市

医療接遇に対する外来看護職員の意識変化～小集団活動を通しての取り組み～

重政 真衣、柳田 由紀子、山口 沙帆、塩村 理恵、岩田 一恵、西川 梨沙、鳥越 俊宏

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

認知症看護認定看護師による身体的拘束の最小化に向けた取り組み

久木田 智之

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

ACP に対する難解なイメージを払拭するためのポスター活動

前田 智樹、山下 貴子、門田 優佳、中山 やちよ、中村 孝佑、城野 裕朗、飯塚 暁子、神崎 真義、堅田 咲紀、高橋 健司

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

令和 6 年能登半島地震における NHO 広域災害派遣看護師第 1 班としての取り組み

鳥越 俊宏、磯部 雄一、上田 幸枝、神 拓也

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

術後の初回清拭はどのように行われているか-消化器外科病棟看護師を対象とした実態調査から-

石川 涼太、八城 恵、加藤 かすみ、深井 喜代子

日本看護技術学会第 22 回学術集会 2024.10.26-27(10.26) 札幌市

A 機構の急性期病院に勤務する看護師長の安全学習支援の実践

仲田 雅江、金山 時恵

第 44 回日本看護科学学会学術集会 2024.12.7-8(12.8) 熊本市

急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング普及のための3つの取り組み  
前田 智樹、中村 孝佑、堅田 咲紀、山下 貴子、城野 裕朗、高橋 健司、門田 優佳、飯塚暁子、中山 やちよ、神崎 真義  
第39回日本がん看護学会学術集会 2025.2.22-23(2.22) 札幌市

小児アレルギーエデュケーター(PAE)による「こども出前講座」の展開  
正木 幸、小川 朋美、奥野 小百合、土肥 政美、木村 崇、大平 純也、松尾 逸平、坂根 朋子、荒木 徹、辻 和美、渡邊 江未、奥崎 湖波、  
木梨 貴博、藤原 倫昌  
第11回日本小児診療多職種学会 2025.3.8-9(3.9) 広島市

#### [地方学会]

全人的苦痛の緩和を目的とした持続的鎮静の妥当性の検討～客観的には除痛が図れている状況の中、患者が持続的鎮静を希望した一例～  
前田 智樹、山下 貴子、中山 やちよ、中村 孝佑、城野 裕朗、飯塚 暁子、高橋 健司  
日本緩和医療学会 第6回中国・四国支部学術大会 2024.8.31 鳥取市

A病院で働く医療従事者の乳がん検診および自己検診に関する実態調査  
藤原 礼子、三好 和也、高橋 寛敏、松坂 里佳  
第21回日本乳癌学会中国四国地方会 2024.9.20-21(9.20) 松山市

#### [講演・講師]

1.看護補助者の活用に関する制度の理解、2.看護職との連携と業務整理  
右野 恵  
令和6年度中国四国グループ看護補助者の活用推進のための看護管理者研修  
2024.6.13 web

小児看護に関する専門研修「基本コース」  
奥野 小百合  
広島大学病院 2024.7.13 広島市

人生の最終段階における意思決定支援 アドバンス・ケア・プランニングの実践に向けて  
前田 智樹  
公立学校共済組合中国中央病院 2024.11.5 福山市

#### [その他]

(座長)石川 涼太  
口演19 看護管理1  
第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

## 【歯科衛生士】

#### [本・著書]

藤原 千尋  
介護保険施設などにおける口腔衛生管理の評価と実践  
「口腔ケアのテクニック」  
一般社団法人日本老年歯科医学会

#### [全国学会]

看護師の口腔ケア教育プログラムの実施 - オーラルマネジメント委員会の活動より -  
藤原 千尋、山脇 真衣、胡木 佳江、柳本 恵美子  
第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(老年歯科分野(老年歯科医学会))について  
藤原 千尋  
一般社団法人日本歯科医学会連合主催 医療職連携委員会フォーラム2024  
2025.1.15-2.28 オンデマンド配信

#### [講演・講師]

口腔機能管理—口腔のケアとは—  
藤原 千尋  
岡山大学公開講座 摂食・嚥下リハビリテーション従事者研修会初級コース 2024.6.12 岡山市

周術期から在宅につなげる医療連携の実践～歯科衛生士が行う口腔健康管理～  
藤原 千尋  
新潟大学歯学部 口腔生命福祉学科 2024.6.14 新潟市

歯科衛生士の腕のみせどころ！専門性を活かした口腔ケアとマネジメント  
藤原 千尋

## 【栄養管理室】

[全国学会]

非常食の保管方法・提供方法

板谷 怜美、野田 美奈子、堅田 咲紀、大月 智加、森廣 真菜、藤原 朝子

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

[地方学会]

非常食の保管方法・提供方法

板谷 怜美、野田 美奈子、堅田 咲紀、大月 智加、森廣 真菜、藤原 朝子

第 19 回中国四国国立病院管理栄養士協議会研究発表会 2024 2024.8.4 岡山

当院における周術期栄養管理実施加算の取り組みの現状と課題

森廣 真菜、藤原 朝子、坂田 雅浩

日本栄養治療学会第 16 回中国四国支部学術集会 2024.8.31 倉敷市

## 【薬剤部】

[英語原著論文]

Ryo Takada, Miki Fujiwara, Masatoshi Maki, Naoyuki Nomura, Shintaro Kono, Akira Fujita, Hiroshi Masumoto, Yoko Takahashi, Yasuhisa Hasegawa, Koji Tamura

Stage IV renal cell carcinoma achieves pathologic complete response after two ipilimumab plus nivolumab courses despite severe immune-related adverse events: a case report

Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2024 May 31;10(1):26

Shoma Mori, Takayoshi Maiguma, Keisuke Yoshii, Yasushi Moriya, Ryo Takada, Fumitaka Shinkai, Yuto Haruki, Hikari Hashimoto, Atsushi Komoto, Kazunobu Takayanagi, Koji Tamura, Yusuke Okura, Tetsuhiro Sugiyama, Kenichi Shimada

Effect of the thyroid transcription factor 1 expression and treatment discontinuation due to adverse events on progression-free survival in patients with advanced non-squamous non-small cell lung cancer treated with pembrolizumab plus pemetrexed and platinum chemotherapy: a Japanese four-hospital, retrospective study

American Journal of Cancer Research 2024 Aug 25;14(8):3852-3858

Takuma Matsumoto, Takuya Mura, Tsubasa Wada, Yuki Tsugo, Naoko Mukai, Terutaka Hamaoka, Shuji Horita, Yasushi Semba, Shinichi Watanabe

Timing of Naldemedine Initiation and Occurrence of Diarrhea in Patients Receiving Strong Opioid Analgesics: A Retrospective Study

Pharmacy 2025 Mar 21;13(2):47

[和文原著論文]

中規模病院における HIV 薬剤師外来の有用性の検討

野村 直幸、高田 遼、牧 賢利、安岡 悠典、河野 泰宏、野田 綾香、高橋 洋子、齋藤 誠司、田村 浩二

日本病院薬剤師会雑誌 60 巻 4 号 Page387-394(2024.4)

[全国学会]

薬学実務実習生への緩和医療の講義およびロールプレイ実習の評価

中村 孝佑、藤田 憲一、林 俊吾、吹譚 靖子、章 勇氣、永井 良、形部 文寛

第 17 回日本緩和医療薬学会年会 2024.5.24-26 (5.25) 文京区

オンラインを利用した多施設共同による薬学実務実習に対する緩和医療教育

形部 文寛、永井 良、中村 孝佑、藤田 憲一、吹譚 靖子、章 勇氣、林 俊吾

第 17 回日本緩和医療薬学会年会 2024.5.24-26 (5.25) 文京区

薬学実務実習生を対象とした多施設共同オンライン緩和医療教育に関するアンケート調査

吹譚 靖子、中村 孝佑、藤田 憲一、林 俊吾、章 勇氣、永井 良、形部 文寛

第 17 回日本緩和医療薬学会年会 2024.5.24-26 (5.25) 文京区

Molecular mechanism of gemcitabine resistance in pancreatic cancer BxPC-3 cells

ヒト膵臓がん BxPC-3 細胞におけるゲムシタピン耐性の分子機構

住井 遥、佐藤 聡

第 83 回日本癌学会学術総会 2024.9.19-21(9.20)福岡市

薬学実習生を対象とした多施設共同オンライン緩和医療教育に関する評価

藤田 憲一、中村 孝佑、吹譚 靖子、章 勇氣、永井 良、林 俊吾、形部 文寛

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

HIV 薬剤師外来の有用性の検討

野村 直幸、河野 泰宏、安岡 悠典、野田 綾香、高田 遼、高橋 洋子、濱岡 照隆、齋藤 誠司  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

HIV 薬剤師外来の運用変更前後における有用性の検討

安岡 悠典、野村 直幸、河野 泰宏、野田 綾香、高田 遼、中村 葵、高橋 洋子、齋藤 誠司、濱岡 照隆  
第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合剤とペバシズマブ併用療法の有効性に血清アルブミン値が与える影響についての後方視的研究

牧 賢利、住井 遥、藤原 未稀、高田 遼、高橋 洋子、大塚 真哉、濱岡 照隆  
第 34 回日本医療薬学会年会 2024.11.2-4(11.3) 千葉市

去勢抵抗性前立腺癌におけるドセタキセル療法に併用するステロイド剤が有効性と安全性に与える影響

高田 遼、住井 遥、藤原 未稀、牧 賢利、川口 晃、河野 晋太郎、藤田 曙、増本 弘史、高橋 洋子、長谷川 泰久、濱岡 照隆  
第 34 回日本医療薬学会年会 2024.11.2-4(11.3) 千葉市

BIC/TAF/FTC から DTG/3TC へのスイッチ例についての有効性および安全性に関する検討

野村 直幸、河野 泰宏、安岡 悠典、野田 綾香、高田 遼、中村 葵、山口 沙帆、片山 智之、門田 悦子、藤原 千尋、飯塚 暁子、木梨 貴博、  
宮内 浩希、高橋 洋子、濱岡 照隆、福井 洋介、齋藤 誠司、坂田 達朗  
第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会 2024.11.28-30(11.29) 新宿区

HIV 薬剤師外来の有効性の検討

安岡 悠典、野村 直幸、河野 泰宏、野田 綾香、高田 遼、中村 葵、山崎 由佳、山口 沙帆、片山 智之、宮内 浩希、門田 悦子、藤原 千尋、  
飯塚 暁子、木梨 貴博、高橋 洋子、濱岡 照隆、福井 洋介、齋藤 誠司、坂田 達朗  
第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会 2024.11.28-30(11.29) 新宿区

薬剤師によるこども出前講座の活動報告

辻 和美  
第 11 回日本小児診療多職種学会 2025.3.9 広島市

切除不能膀胱癌患者における mFOLFIRINOX 療法と GEM+nab-PTX 療法の治療順による有効性の比較

住井 遥、高田 遼、牧 賢利、高橋 洋子、佐藤 聡、濱岡 照隆  
第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025 2025.3.15-16(3.15) 横浜市

大腸がん化学療法中に発熱性好中球減少症とニューモシスチス肺炎を併発した一例の臨床経過と治療経験

牧 賢利、高田 遼、野村 直幸、住井 遥、藤原 未稀、高橋 洋子、妹尾 賢、齋藤 誠司、濱岡 照隆  
第 14 回日本臨床腫瘍薬学会 学術大会 2025 2025.3.15-16(3.16) 横浜市

[地方学会]

基質特異性拡張型  $\beta$ -ラクタマーゼ産生菌の菌血症における初期抗菌薬選択が治療効果に与える影響

高橋 俊樹、牧 賢利、野村 直幸、濱野 有里、高橋 洋子、齋藤 誠司、濱岡 照隆  
第 63 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 2024.11.16-17(11.17) 岡山市

[地域研究・検討会]

当院での手術予定患者に対する入院前の薬剤師の関わりと効率化に向けた取り組み

住井 遥、中村 孝佑、船隠 恵子、野村 直幸、高橋 洋子、濱岡 照隆  
第 62 回中国四国地区国立病院薬学研究会 2024.9.7-8(9.7) 岡山市

薬剤師も知っておきたい胃がん薬物療法の基礎知識

高田 遼  
広島県病院薬剤師会東支部研修会～第 18 回がんセミナー～ 2025.2.18 web

[講演・講師]

病院薬剤師の基礎知識

濱岡 照隆  
令和 6 年度中国四国グループ新採用職員研修【各職種分科会】 2024.4.20 岡山市

薬の飲ませ方・坐薬の使い方

辻 和美  
こども出前講座 2024.6.27 福山市 ニチイキッズ東手城保育園

帝王切開後感染症の一例 ～抗菌薬の選択と副作用を考察する～

牧 賢利  
広島県病院薬剤師会東支部研修会 2024.6.14 福山市

HIV チームの取組—MSW・薬剤師の関わりを中心に—

安岡 悠典

令和6年度第2回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会 2024.10.23 広島市

[その他]

(座長)高田 遼

広島県病院薬剤師会東部支部研修会～第18回がんセミナー～ 2025.2.18 web

## 【治験管理室】

[全国学会]

治験に係る必須文書の保管期間に関する検討～当院の必須文書の保管状況から見えたこと～

山路 直美、三上 裕子、光成 清香、税田 なおみ、黒川 航多、倉田 真志、高橋 洋子、濱岡 照隆、坂田 雅浩、内海 方嗣  
第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2024 in Sapporo 2024.9.15-16(9.16) 札幌市

治験に係る必須文書の保管期間に関する検討 ～当院の必須文書の保管状況から見えたこと～

山路 直美、三上 裕子、光成 清香、税田 なおみ、黒川 航多、倉田 真志、高橋 洋子、濱岡 照隆、坂田 雅浩、内海 方嗣  
第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

## 【地域医療連携室】

[全国学会]

高度肥満の減量を目的にPERIO・MSW・地域が連携・協働し周術期管理を行った1例

木梨 貴博、稲垣 優、大塚 真哉

第26回日本医療マネジメント学会学術総会 2024.6.21-22(6.21) 福岡市

高度肥満の減量を目的にPERIO・MSW・地域が連携・協働し周術期管理を行った1例

木梨 貴博、末富 美絵、友塚 直人、稲垣 優

第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

当地域における介護施設のHIV感染者受入に関する実態調査

木梨 貴博、斎藤 誠司、坂田 達朗、福井 洋介、片山 智之、五十川 容子、山崎 由佳、中村 葵、飯塚 暁子、藤原 千尋、野村 直幸、河野 泰宏、安岡 悠典、宮内 浩希

第38回日本エイズ学会学術集会・総会 2024.11.28-30(11.29) 新宿区

[講演・講師]

医療現場におけるソーシャルワークの基礎知識(面談技術・コミュニケーション)

木梨 貴博

令和6年度中国四国グループ新採用職員研修【各職種分科会】 2024.4.20 岡山市

HIVチームの取組—MSW・薬剤師の関わりを中心に—

木梨 貴博

令和6年度第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会 2024.9.15-16 広島市

HIVチームの取組—MSW・薬剤師の関わりを中心に—

木梨 貴博

令和6年度第2回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会 2024.10.11 広島市

身寄り不在、金銭的困窮者における初動対応

木梨 貴博

いそだ病院 2024.10.25 福山市

## 【リハビリテーション科】

[全国学会]

複合的な要因によりADL低下を来した高齢THA患者の身体機能向上と自宅退院への取り組み

小倉 京香

第12回日本運動器理学療法学会学術大会 2024.9.14-15(9.14) 横浜市

当科整形チームにおける業務改善～第2報～

石井 達也、片岡 靖雄、田川 彩夏、上田 裕太、小倉 京香、竹内 佳美、原田 健太郎、黒崎 旭美、脇 ひなの、平野 哲男、岩瀬 洋平

第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

人工股関節全置換術後における立位活動性と外来リハビリ継続の関連性

小原 一真、石井 達也、梶原 明日美、門脇 守男

第78回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

当院整形外科病棟における多職種を含めた業務効率化の取り組みについて

上田 裕太、片岡 靖雄、石井 達也、平野 哲生

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

癒着性肩関節包炎に対する手術後に疼痛への破局的思考が増悪した症例

脇 ひなの、片岡 靖雄、黒崎 旭美

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

作業療法士による当院リンパ浮腫外来での取り組みと今後の課題

竹内 佳美、片岡 靖雄、西川 梨沙、大原 聡子、岡野 敬子、村上 美佐子、兼田 紗瑛夏

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

[地方学会]

腰部脊柱管狭窄症および腰椎椎間板ヘルニア患者における腰痛の程度と胸郭・胸椎可動性の関連性の検討

上田 裕太、平野 哲生、石井 達也

第 56 回中国四国リハビリテーション医学研究会・第 51 回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会 2024.7.14 出雲市

人工股関節全置換術後に自宅退院とならなかった患者の検討

石井 達也、小原 一真、岩瀬 洋平、片岡 靖雄

第 37 回中国ブロック理学療法士学会 2024.9.7-8(9.7) 米子市

当院の入院肺炎患者におけるリハビリテーションの現状

梶原 明日美

第 37 回中国ブロック理学療法士学会 2024.9.7-8(9.8) 米子市

[その他]

(座長)石井 達也

ポスター 181 リハビリテーション 17 理学療法 脳疾患

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.19) 大阪市

## 【企画課】

[全国学会]

手術前 IC 記録の質的監査の取り組み

峯松 佑典、三宅 沙季、豊川 達也

第 78 回国立病院総合医学会 2024.10.18-19(10.18) 大阪市

## 病院案内2026編集後記

▼コロナ禍を経て急性期病院では材料費や経費高騰により赤字となる病院が増えています。令和8年度の診療報酬改定では本体部分で+3.09(全体で+2.22%)引き上げられ、物価対応料も新設されるようで少しは期待できるようですが、我々NHO病院も経営的に厳しい状況が続いております。また、一昨年4月から「医師の働き方改革」が始まり勤務医の時間外労働が原則年960時間となり、タスクシフトや業務改善で負担軽減に努めておりますが、医師の偏在問題もあり、人力的にも厳しい状況が続きます。そんな中、今年も「地域医療連携のつどい」にあわせて「病院案内」を作成しましたのでご一読して頂けたら幸いです。

▼当院は明治41年福山衛戍病院として創立され、今年で創立118年となる備後随一の歴史ある病院です。就任8年目になる稲垣院長は昨年に引き続き「皆で目指すSTARS」と「Collaborate on our projects, unite mind, and create tough team」を目標として掲げています。昨年9月に5年ぶりに病院機能評価を受審しましたが、今回はVer3.0になり審査が厳しく大変でありましたが、4月に何とか3rdG:Ver3.0の認定を受けました。

▼診療部門としては①地域がん診療連携拠点病院としてがん診療の充実や岡山大学がんゲノム医療連携病院としてがんゲノム医療の提供を行っています。特に23年泌尿器科で開始した手術支援ロボット(da Vinci Xi)は24年から消化器外科(大腸がんや肝・膵切除術)、25年からは呼吸器外科でも導入し良好な成績を上げています。②地域唯一の周産期母子医療センターとして母子医療への貢献、③2.5次救急医療(空床確保病院)として救急医療の提供、④整形外科を中心とする骨運動器疾患に対する高難度手術の実施、⑤PASPORT(患者入院支援システム)を運用した入退院管理、⑥JIH及びJMIP認証病院として多国語対応医療の提供などが挙げられます。医療連携支援センターでは外来予約、セカンドオピニオン外来、大型機器共同利用検査(内視鏡、CT、MRI、PET-CTなど)の予約受付業務を行っています。予約の際には所定の書式がありますのでHPからダウンロードして下さい(P71-75参照)。最新の外来診療表はHPや毎月発行のFMC NEWSに掲載しています。

▼看護部門も新任の金子看護部長の元、患者さんにやさしい質の高い看護を目指しております。認定看護師も多数在籍しており、専門性を持って看護にあたっています。タスクシフトの一貫として看護師の特定行為研修も21年度から始まり修了者を輩出して軌道に乗っております。事務部も平事務部長を中心として病院運営の充実を図って参ります。

▼コメディカル部門では「ISO 15189」Ver.2022認定の臨床検査科、特別メニュー食を提供して好評な栄養管理室、その他薬剤部、放射線技術部門、リハビリテーション科、ME管理室も引き続き質の高い医療を目指して参ります。部門では臨床研究部・治験管理室は学術活動、並びに治験や臨床研究のためにサポートしています(2024年度研究業績・治験実績をご参照下さい)。病院機能評価でも診療上の両輪と位置付けられた医療安全管理室や感染制御部は安心安全な医療に貢献いたします。医療連携支援センター、医科歯科連携を行う歯科衛生室も緊密な連携を取って質の高い医療の提供を行って参ります。教育研修部、国際支援部、医師業務支援部、診療情報管理室、輸血管理室も記事をご覧ください。

▼広報部も随時HPの刷新を行い、毎月発行のFMC NEWSや、オープンカンファレンスや研修会も開催して地域の先生方に最新の情報をお届けしたいと思っております。また、インスタグラムも開始してタイムリーな情報も発信しております。今年度も基幹病院として地域医療に貢献してまいりますので皆様のご支援をお願いいたします。



◀Instagram

nho\_fukuyama

文責：院長補佐(広報部長) 大塚真哉

# STARS

Safety  
Tolerance  
Academic  
Responsibility  
Sustainability



## ロゴマークの意味

人間: 献身的で心込めた温かい医療活動  
集中: FMC(福山医療センターの略)を中核にした医療の相互ネットワーク  
発展: 朝の陽光のように広がる地域医療を意味しています。

## ロゴマークのイメージ

両手を差し伸べて包み込むように患者さんの気持ちを受け止める  
深い愛情をイメージしています。

福山医療センターにお越しになるには、

タクシー・自家用車

福山東インターから……約25分  
福山駅から……約5分  
福山スマートインターから 約15分

中国バス

福山駅前バス停から……約10分  
◎4番のりばよりご乗車ください。



独立行政法人 国立病院機構  
**福山医療センター**  
National Hospital Organization FUKUYAMA MEDICAL CENTER

〒720-8520 広島県福山市沖野上町4丁目14-17  
Tel(084)922-0001(代) FAX(084)931-3969  
<https://fukuyama.hosp.go.jp/>



福山医療センター HP



病院案内



Instagram

Instagram始めました!  
病院紹介、採用情報を掲載しています。  
是非ご覧ください。



nho\_fukuyama

